

四国の社会資本の碑

藤山 究・山本 基 著

一般社団法人 四国クリエイト協会

はしがき

四国各地では河川、道路、鉄道、港湾、空港、電力、市街地開発、用水、ため池などさまざまな分野で社会資本整備が行われてきました。私たちの生活は、先人が長年にわたって築いてくれた土台の上に成り立っています。これらの社会資本に関わる碑が各地に残されています。碑には、後世の人々に向けた先人の思いが込められています。しかし、社会資本の碑がどこにあるのか知らない方や、碑の存在を知っていても碑文に何が書いてあるのか分からない方が多いのではないのでしょうか。

本書では、「四国社会資本アーカイブス」に掲載されている四国の社会資本にまつわる百十一の碑を取り上げています。四国社会資本アーカイブスは明治以降の四国の主要な社会資本整備に関する情報を提供していますので、本書は明治以降に建立された四国の主な社会資本の碑を対象としています。これらの碑は、誰が、何のために建立し、碑文にはどのようなことが書かれているかを少し紹介します。

碑建立の主体が明記されていないものもありますが、明記されているものの中で最も多いのは社会資本整備の事業主体としての国、公団、県、市町村、土地改良区、水利組合などで、これ以外にダムの施工会社や鉄道運営会社が碑を建立している場合もあります。また、社会資本整備が行われた地元の自治体・団体・有志などが碑を建てたり、碑を建てるために団体や個人が顕彰会や記念事業実行委員会などの組織をつくっている場合もあります。

碑建立の目的として最も多いのが事業の完成や開通を記念するために建立されるもので、河川改修、ダム、砂防、道路、橋梁、トンネル、鉄道、港湾、市街地開発、用水、ため池などの分野にわたっています。次に多いのが事業実施に貢献した功労者の顕彰を目的とするもので、道路、橋梁、鉄道、港湾、用水、ため池などの事業を進める上で功績のあった人が讃えられています。また、ダム、堰、橋梁、用水などの工事中に殉職された人を慰霊するための碑や、河川改修、ダムや空港の建設のために従来住んでいた土地から移転を余儀なくされた人々がいたことを知らせるための碑も建立されています。これ以外にも、日本の道百選、日本のため池百選、世界かんがい施設遺産への選定・登録を記念する碑や、鉄道・駅の開業周年記念碑、この地が県における近代港・四国の鉄道・四国の高速道路の発祥の地であることを知らせる碑などが建立されています。

碑文に何が書かれているかは、主に碑建立の目的と関係しています。事業の完成や開通を目的とした碑には、事業実施の背景・経緯、事業の内容と経過、関係者の尽力と地元の協力への謝意、事業による地域発展への期待などが書かれています。同じ事業について、事業主体が建立した碑と地元の自治体などが建立した碑では、書かれている内容が異なることが多く、事業主体の碑は事業の経緯・経過や事業内容を中心に行っているのに対して、地元の碑は事業への地元の対応、地域住民の協力、関係者への謝意、移転者への配慮などにも触れられています。終戦直後のGHQ占領下で行われ

た事業では、日本語と英語で書かれた碑文もあります。碑文が一言だけという場合もあり、多くを刻まないことが利害関係者間の調整の難しさを物語っていると感じられるものもあります。また、功労者の顕彰を目的とした碑には、功労者の生い立ち・経歴、事業に関する功労者の働きぶり、顕彰碑建立の経緯などが記されています。明治から昭和初期に建てられた碑の中には、漢文や漢文調の格調高い長文の碑文が綴られているものもあります。殉職者の慰霊を目的とした碑では、慰霊の文字と殉職者の氏名だけが刻まれている場合が多く、慰霊という二文字に込められた建立者の鎮魂の思いが強く感じられます。

ここに紹介した内容は本書の入口です。本文をお読みいただければもっと多くのことを感じられることでしょう。そして、できれば碑の現場を訪れて、碑に込めた先人の思いを感じていただければと思います。今はインターネットなどで情報を早く簡単に手に入れることが重視される時代です。しかし、画面で文字や写真を見ただけでは先人の思いは十分には伝わらないでしょう。現場に行つて、周囲の様子や先人が築いてきた社会資本を見ると、大型の機械がない時代によくこれをつくったものとか、この地に住んでいた人が移転してくれたおかげで自分たちが恩恵を受けていられるのだとか、工事を進めるために犠牲になった人がいたのだかなどという個人個人の感想が湧いてくると思います。また、碑の中には風化して文字が読みにくいものや、現代では使わない古い文字が使われているものもありますが、現場で碑文をじっくり読む

と、先人の気迫が感じられ、社会資本整備に向けた人々の思いや奮闘ぶり、事業を成し遂げるまでにさまざまな困難があり、その解決のために関係者や地域の人々が工夫したり、努力したことなどが伝わってくることでしょう。

社会資本が完成するまでには、合意形成、調査、計画、用地、設計、施工などの段階があり、それぞれの段階で住民、行政、政治家、研究者、技術者などさまざまな人が関わります。事業が大規模になるほど、範囲が広くなるほど、期間が長期にわたるほど、事業には多様な人々が関わり、人数も多くなります。碑文には代表者や著名人など一部の人の名だけが刻まれていることもあります。その背後には多くのさまざまな人々がそれぞれの立場で関わっていることも、碑を通して想像していただければと思います。

本書では四国社会資本アーカイブスに掲載されている碑を対象としましたが、それ以外にも四国にはたくさん社会資本の碑があります。本書がきっかけになり、四国の社会資本の碑に目が向けられて、社会資本整備が四国の地域づくりに貢献してきたことについて理解が深まることを願っています。

凡例

- 本書は、「四国社会資本アーカイブス」に掲載されている明治以降の四国の主要な社会資本にまつわる百十一の碑の情報を提供しています
- 碑は県別、市町村別に並べ、碑ごとに写真、関連する社会資本整備の概要、碑文、位置図を示しています。
- 碑のタイトルの下に、カッコ書きで社会資本の種類と建立年を記載しています。建立年が確認できない場合には記載していません。
- 碑文の理解を助けるため、碑に関連する社会資本整備の概要を示しています。詳しくは参考文献を参照してください。
- 碑文は現地の碑をもとに読み取り、刻まれている文字のとおりに表示することを原則としています。このため、碑文については語句や表記の統一を行っていません。碑の中には他の文献で碑文が紹介されているものもありますが、実際の碑文とは内容や表記が異なるものもあります。本書では刻まれている文字のとおり、縦書きの場合には縦書きで、横書きの場合には横書きで、旧字が使われている場合には旧字で表し、句読点がない場合には句読点を付けていません。ただし、一行当たりの文字数やレイアウトは、紙面スペースの関係上、必ずしも碑と同じとは限りません。
- 碑文の個人名については、個人情報保護の観点及び紙面のスペースの関係から、省略している場合があります。

- 漢文で書かれている碑文については、他の文献で解釈文が確認できる場合には引用しています。解釈文の存在が確認できない場合には、筆者が拙い解釈文を示しています。誤読や誤解もあると思いますが、解釈の手助けになればとの思いで、あえて掲載します。
- 位置図は地形図をもとに作成しています。現場の碑を訪れる際に活用していただけたら幸いです。

本書に掲載している四国の社会資本の碑の数

	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	合計
河川	8	1	8	13	30
道路	6	8	8	4	26
鉄道	3	2	2	5	12
港湾・空港	1	2	2		5
電力				1	1
市街地開発		2			2
ため池		12	4		16
用水	3	7	8		18
治山施設				1	1
合計	21	34	32	24	111

目次

はしがき

凡例

〈徳島県〉

徳島 1	海陽町	阿佐海岸鉄道開通記念之碑（鉄道）
徳島 2	阿南市	一ノ堰記念碑（河川）
徳島 3	阿南市	國営北岸用水碑（用水）
徳島 4	阿南市	山田隆二翁碑（鉄道）
徳島 5	阿南市	平和之碑（那賀川橋梁）（鉄道）
徳島 6	小松島市	徳島における近代港発祥の地碑（港湾）
徳島 7	徳島市	今切川河口堰の慰霊碑（河川）
徳島 8	徳島市	豊川翁之碑（道路）
徳島 9	徳島市	日本の道一〇〇選 顕彰碑（吉野川大橋）（道路）
徳島 10	徳島市	名田橋の碑（道路）
徳島 11	吉野川市	移転之碑（河川）
徳島 12	吉野川市	川島排水機場の治水拓運碑（河川）
徳島 13	吉野川市	吉野川改修記念碑（河川）
徳島 14	阿波市	林村築堤記念碑（河川）
徳島 15	美馬市	武田寛三顕彰碑（道路）
徳島 16	つるぎ町	松尾神社の「世紀の石文」碑（道路）
徳島 17	三好市	民益碑（道路）
徳島 18	三好市	北麓疎水碑（用水）

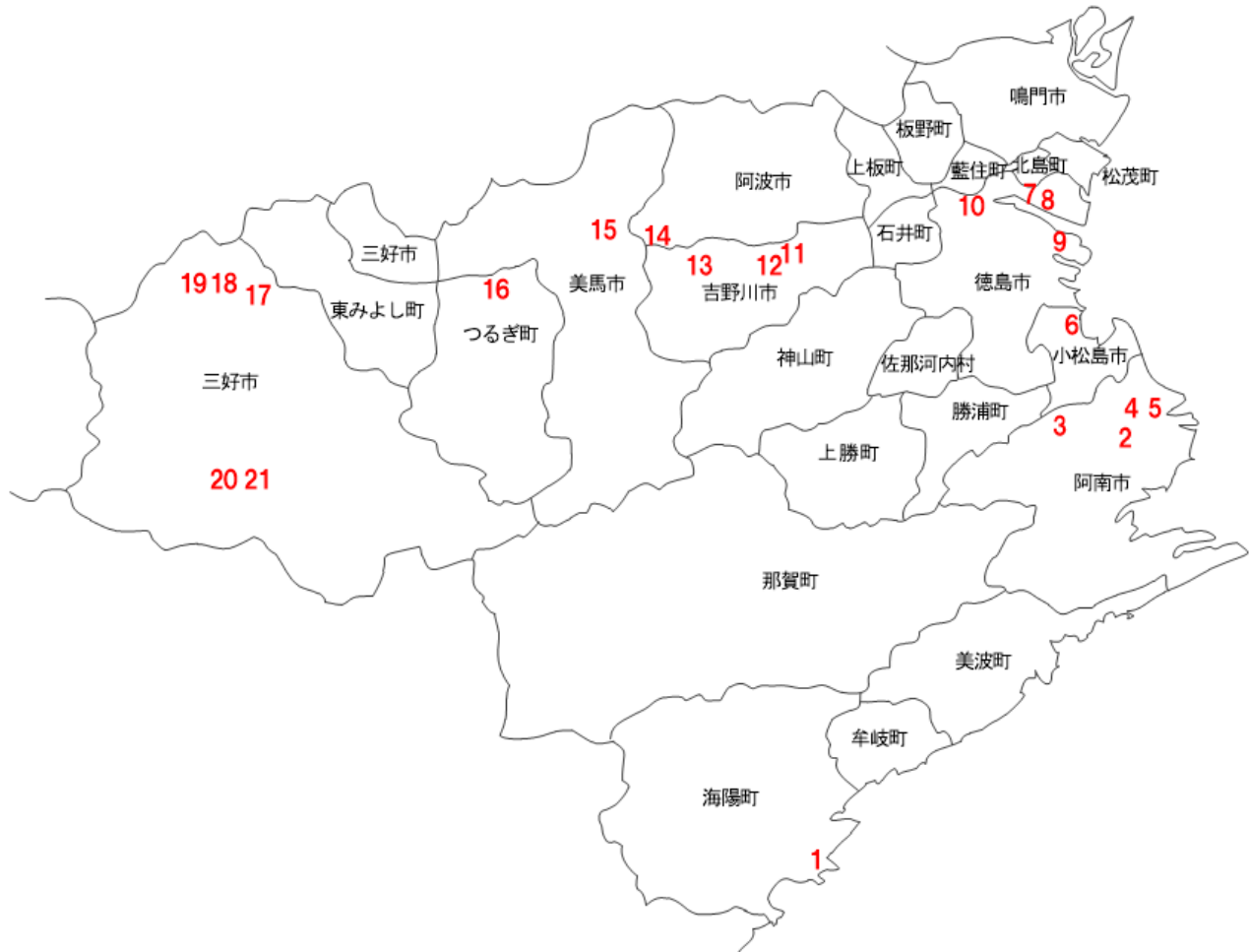
〈香川県〉

徳島 19	三好市	四国は一つ碑（香川用水取水工）（用水）	40
徳島 20	三好市	善徳不動之碑（河川）	42
徳島 21	三好市	やすらぎの大地碑（河川）	44
香川 1	東かがわ市	石引池の香川用水通水碑（用水）	47
香川 2	さぬき市	軒原庄蔵氏像（みろく自然公園）（ため池）	48
香川 3	高松市	新川河川激特事業竣工記念碑（河川）	50
香川 4	高松市	日本の道百選の顕彰碑（中央通り）（道路）	52
香川 5	高松市	クリエィティブ高松・中央通りプロムナード 事業記念碑（道路）	54
香川 6	高松市	高松港玉藻地区港湾整備事業着工記念碑 （港湾）	56
香川 7	高松市	旧高松空港跡地の碑（空港）	58
香川 8	高松市	水穂 香川用水善海通水記念碑（用水）	60
香川 9	坂出市	番の州高架橋下の慰霊碑（道路・鉄道）	63
香川 10	坂出市	瀬戸大橋竣工記念碑（常盤公園） （道路・鉄道）	65
香川 11	坂出市	大久保謙之丞像（瀬戸大橋記念公園）（道路）	67
香川 12	宇多津町	新宇多津都市の原形宇多津塩田の碑 （市街地開発）	69
香川 13	宇多津町	宇多津塩田土地地区画整理事業竣工記念碑 （市街地開発）	71
			74

香川 14	多度津町	四国鉄道発祥の地碑（多度津駅）（鉄道）	76	香川 33	観音寺市	豊稔池改修事業竣工記念碑（ため池）	120
香川 15	琴平町	大久保謙之丞命像（琴平公園）（道路）	78	香川 34	観音寺市	姥ヶ懐池の碑（用水）	123
香川 16	まんのう町	真野池記碑（ため池）	80	〈愛媛県〉			
香川 17	まんのう町	松坡長谷川翁功德之碑（ため池）	83	愛媛 1	四国中央市	新宮ダムの碑（河川）	125
香川 18	まんのう町	松崎渋右衛門辞世の歌碑（ため池）	86	愛媛 2	四国中央市	古野小学校跡地の碑（河川）	126
香川 19	まんのう町	満濃池配水塔碑（ため池）	88	愛媛 3	四国中央市	柳瀬ダムの慰霊碑（河川）	128
香川 20	まんのう町	修拓記念碑（ため池）	90	愛媛 4	四国中央市	銅山川疏水功労者頌徳碑	130
香川 21	まんのう町	縣営満濃池用水改良事業竣工記念碑	92	（戸川疏水公園）（河川）			
香川 22	まんのう町	県営金倉川沿岸用水改良事業の完成	94	愛媛 5	四国中央市	福田武太郎翁之碑（戸川疏水公園）	132
香川 23	まんのう町	満濃池世界かんがい施設遺産碑	96	愛媛 6	四国中央市	銅山川疏水功労者頌徳碑（三島公園）	135
香川 24	まんのう町	昭和三年拾月貳拾壹日満濃池分水協定	98	愛媛 7	四国中央市	紀伊為一郎翁頌徳碑（三島公園）（河川）	137
香川 25	まんのう町	要項碑（ため池）	100	愛媛 8	四国中央市	四国高速道路発祥之地記念碑	140
香川 26	三豊市	宝山湖の碑（用水）	102	愛媛 9	西条市	壬生川港改築記念碑（港湾）	142
香川 27	三豊市	讃岐財田駅創業50周年記念碑（鉄道）	104	愛媛 10	西条市	志河の恵水碑（用水）	144
香川 28	三豊市	大久保謙之丞君碑（道路）	106	愛媛 11	今治市	来島海峡サーブエリアの慰霊碑（道路）	146
香川 29	三豊市	大久保謙之丞の碑（たからだの里）（道路）	111	愛媛 12	上島町	弓削大橋開通記念碑（道路）	148
香川 30	三豊市	香川用水記念公園の豊潤碑（用水）	113	愛媛 13	上島町	ゆめしま海道の碑（道路）	150
香川 31	三豊市	香川用水記念公園の慰霊碑（用水）	115	愛媛 14	久万高原町	檜垣翁碑（道路）	152
香川 32	観音寺市	豊稔池碑（ため池）	117	愛媛 15	久万高原町	檜垣伸翁の顕彰碑（桧垣桜公園）（道路）	154

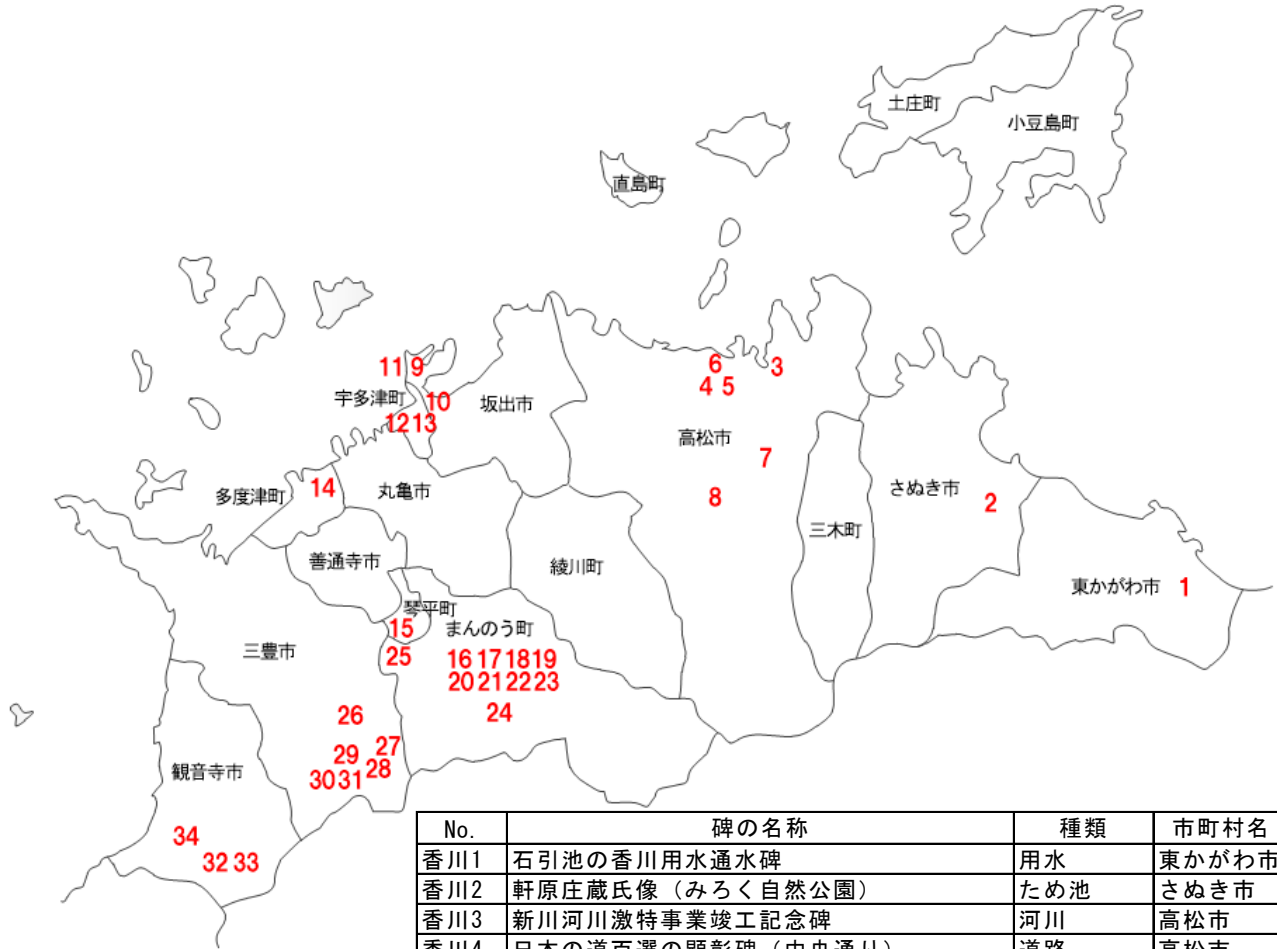
愛媛 16	久万高原町	水徳洽豫洲の碑（用水）	159	高知 4	香美市	永瀬ダムの碑（河川）	204
愛媛 17	東温市	石鎚の水ここに展く碑（用水）	161	高知 5	香美市	永瀬ダムの慰霊碑（河川）	206
愛媛 18	東温市	国営道前道後平野農業水利（二期）事業 完工碑（用水）		高知 6	大豊町	鉄道開通記念碑（豊永駅）（鉄道）	208
愛媛 19	東温市	佐古の恵水碑（用水）	165	高知 7	南国市	安藝線電化開通記念碑（鉄道）	210
愛媛 20	松山市	小林信近翁像（鉄道）	167	高知 8	土佐町	四国のいのち碑（早明浦ダム）（河川）	212
愛媛 21	伊予市	大谷池記念碑（ため池）	169	高知 9	土佐町	早明浦ダムの殉職者慰霊碑（河川）	214
愛媛 22	伊予市	武智惣五郎氏頌徳碑（ため池）	171	高知 10	大川村	諸霊鎮魂親水の碑（河川）	216
愛媛 23	伊予市	大谷池改修事業の概要碑（ため池）	173	高知 11	土佐市	高岡堤防竣工記念碑（河川）	218
愛媛 24	伊予市	大谷池の全国ため池百選記念碑（ため池）	176	高知 12	土佐市	波介川河口導流事業通水記念碑（河川）	220
愛媛 25	大洲市	肱川治水碑（河川）	178	高知 13	日高村	日下川放水路竣工記念碑（河川）	222
愛媛 26	八幡浜市	南予用水碑（用水）	180	高知 14	日高村	笹木越の開道碑（国道三三号）（道路）	224
愛媛 27	八幡浜市	布喜川調整池の碑（用水）	183	高知 15	佐川町	佐川駅開設五十周年記念碑（鉄道）	226
愛媛 28	八幡浜市	鉄道開通記念碑（双岩駅）（鉄道）	185	高知 16	仁淀川町	大渡ダム建設記念碑（河川）	228
愛媛 29	伊方町	国道改築記念碑（国道一九七号）（道路）	187	高知 17	仁淀川町	大渡ダムの殉職者慰霊碑（河川）	230
愛媛 30	宇和島市	山緑水豊地の碑（東蓮寺ダム）（用水）	189	高知 18	仁淀川町	大渡ダム記念碑（河川）	232
愛媛 31	宇和島市	中原町長頌功碑（港湾）	192	高知 19	梶原町	国道一九七号開通記念碑（道路）	235
愛媛 32	愛南町	内海ふれあいトンネル開通記念碑（道路）	194	高知 20	梶原町	国道一九七号開通記念碑（道路）	237
〈高知県〉				高知 21	予土線開通記念碑（土佐大正駅）（鉄道）		239
高知 1	室戸市	佐喜浜川砂防の記念碑（治山）	197	高知 22	渡川治水起工記念碑（河川）		241
高知 2	馬路村	丸山台地の記念碑（電力）	200	高知 23	新中筋川通水記念碑（河川）		243
高知 3	香美市	四足峠トンネルの碑（道路）	202	高知 24	四万十市	四萬十河橋之碑（道路）	245
				参考文獻			247
				おわりに			251

徳島県の社会資本の碑



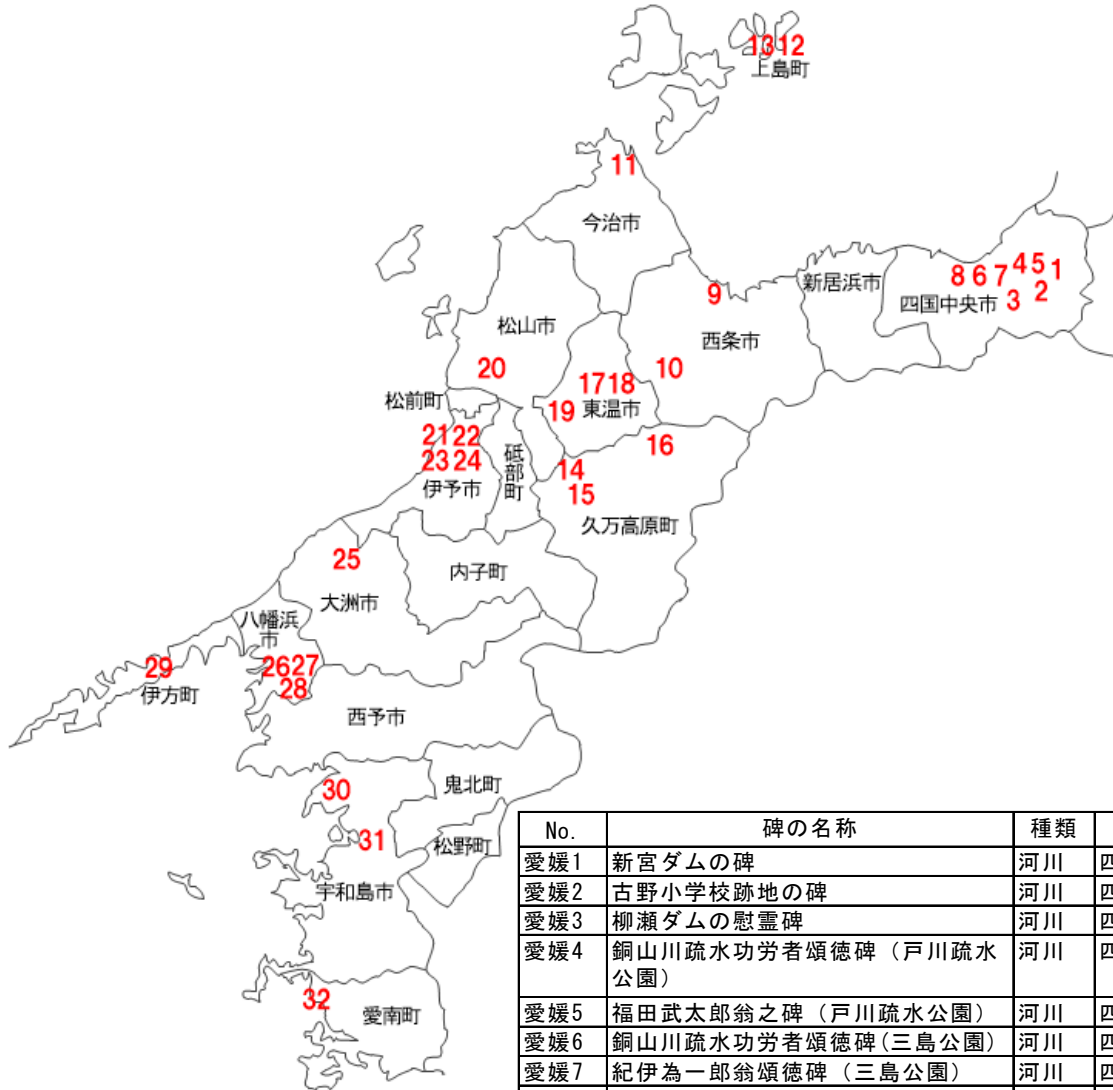
No.	碑の名称	種類	市町村名
徳島1	阿佐海岸鉄道開通記念之碑	鉄道	海陽町
徳島2	一ノ堰記念碑	河川	阿南市
徳島3	國営北岸用水碑	用水	阿南市
徳島4	山田隆二翁碑	鉄道	阿南市
徳島5	平和之碑（那賀川橋梁）	鉄道	阿南市
徳島6	徳島における近代港発祥の地碑	港湾	小松島市
徳島7	今切川河口堰の慰霊碑	河川	徳島市
徳島8	豊川翁之碑	道路	徳島市
徳島9	日本の道一〇〇選顕彰碑（吉野川大橋）	道路	徳島市
徳島10	名田橋の碑	道路	徳島市
徳島11	移転之碑	河川	吉野川市
徳島12	川島排水機場の治水拓運碑	河川	吉野川市
徳島13	吉野川改修記念碑	河川	吉野川市
徳島14	林村築堤記念碑	河川	阿波市
徳島15	武田覚三顕彰碑	道路	美馬市
徳島16	松尾神社の「世紀の石文」碑	道路	つるぎ町
徳島17	民益碑	道路	三好市
徳島18	北麓疎水碑	用水	三好市
徳島19	四国は一つ碑（香川用水取水工）	用水	三好市
徳島20	善徳不動之碑	河川	三好市
徳島21	やすらぎの大地碑	河川	三好市

香川県の社会資本の碑



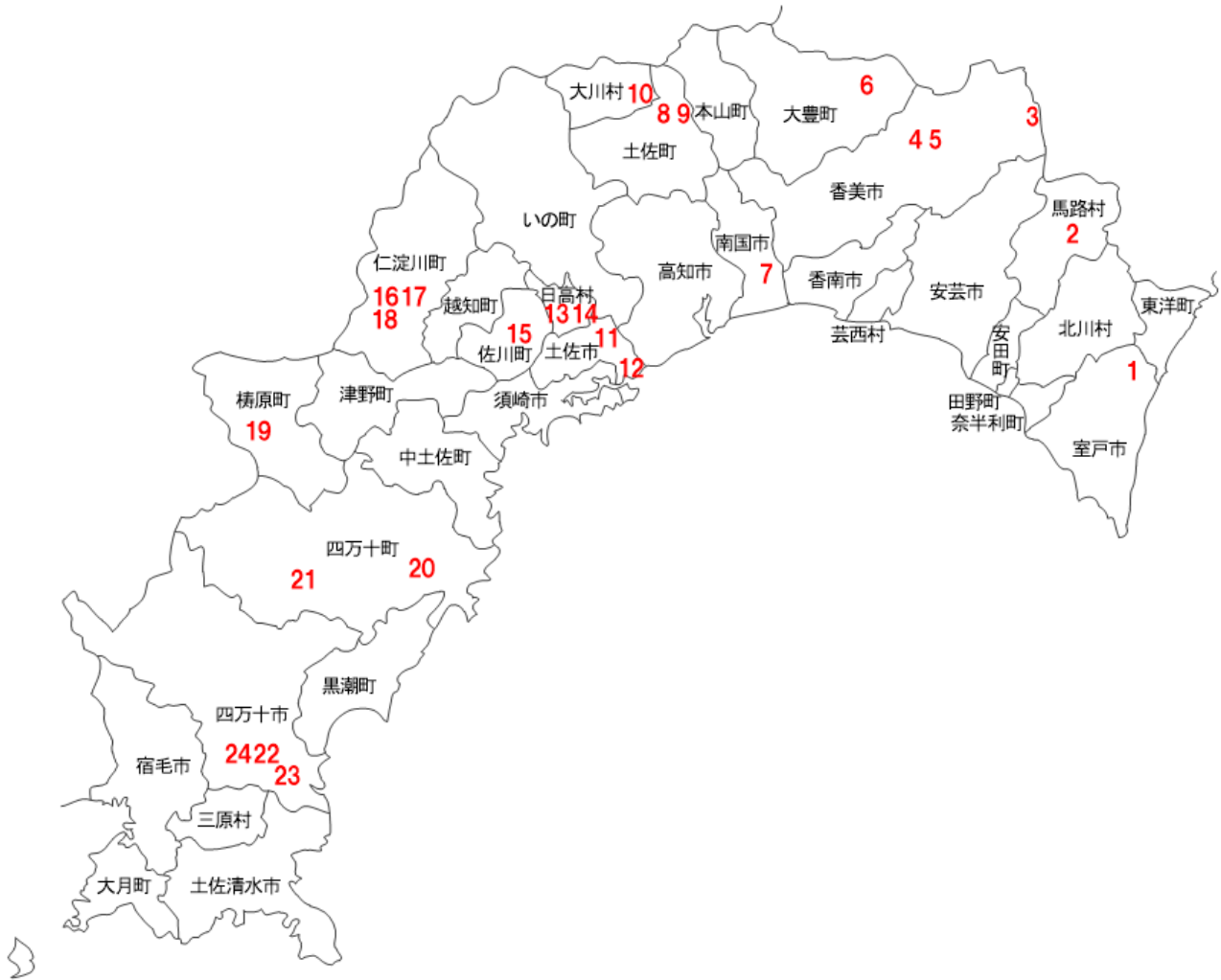
No.	碑の名称	種類	市町村名
香川1	石引池の香川用水通水碑	用水	東かがわ市
香川2	軒原庄蔵氏像（みろく自然公園）	ため池	さぬき市
香川3	新川河川激特事業竣工記念碑	河川	高松市
香川4	日本の道百選の顕彰碑（中央通り）	道路	高松市
香川5	クリエイティブ高松・中央通りプロムナード事業記念碑	道路	高松市
香川6	高松港玉藻地区港湾整備事業着工記念碑	港湾	高松市
香川7	旧高松空港跡地の碑	空港	高松市
香川8	水穂 香川用水善海通水記念碑	用水	高松市
香川9	番の州高架橋下の慰霊碑	道路、鉄道	坂出市
香川10	瀬戸大橋竣工記念碑（常盤公園）	道路、鉄道	坂出市
香川11	大久保謹之丞像（瀬戸大橋記念公園）	道路	坂出市
香川12	新宇多津都市の原形宇多津塩田の碑	市街地開発	宇多津町
香川13	宇多津塩田土地区画整理事業竣工記念碑	市街地開発	宇多津町
香川14	四国鉄道発祥の地碑（多度津駅）	鉄道	多度津町
香川15	大久保謹之丞命像（琴平公園）	道路	琴平町
香川16	真野池記碑	ため池	まんのう町
香川17	松坡長谷川翁功德之碑	ため池	まんのう町
香川18	松崎洪右衛門辞世の歌碑	ため池	まんのう町
香川19	満濃池配水塔碑	ため池	まんのう町
香川20	修拓記念碑	ため池	まんのう町
香川21	縣営満濃池用水改良事業竣工記念碑	ため池	まんのう町
香川22	県営金倉川沿岸用水改良事業の完成記念碑	ため池	まんのう町
香川23	満濃池世界かんがい施設遺産碑	ため池	まんのう町
香川24	昭和三年拾月貳拾壹日満濃池分水協定要項碑	ため池	まんのう町
香川25	佐文の香川用水記念碑	用水	まんのう町
香川26	宝山湖の碑	用水	三豊市
香川27	讃岐財田駅創業50周年記念碑	鉄道	三豊市
香川28	大久保謹之丞君碑	道路	三豊市
香川29	大久保謹之丞の碑（たからだの里）	道路	三豊市
香川30	香川用水記念公園の豊潤碑	用水	三豊市
香川31	香川用水記念公園の慰霊碑	用水	三豊市
香川32	豊稔池碑	ため池	観音寺市
香川33	豊稔池改修事業竣工記念碑	ため池	観音寺市
香川34	姥ヶ懐池の碑	用水	観音寺市

愛媛県の社会資本の碑



No.	碑の名称	種類	市町村名
愛媛1	新宮ダムの碑	河川	四国中央市
愛媛2	古野小学校跡地の碑	河川	四国中央市
愛媛3	柳瀬ダムの慰霊碑	河川	四国中央市
愛媛4	銅山川疏水功労者頌徳碑（戸川疏水公園）	河川	四国中央市
愛媛5	福田武太郎翁之碑（戸川疏水公園）	河川	四国中央市
愛媛6	銅山川疏水功労者頌徳碑（三島公園）	河川	四国中央市
愛媛7	紀伊為一郎翁頌徳碑（三島公園）	河川	四国中央市
愛媛8	四国高速道路発祥之地記念碑（三島公園）	道路	四国中央市
愛媛9	壬生川港改築記念碑	港湾	西条市
愛媛10	志河の恵水碑	用水	西条市
愛媛11	来島海峡サービスエリアの慰霊碑	道路	今治市
愛媛12	弓削大橋開通記念碑	道路	上島町
愛媛13	ゆめしま海道の碑	道路	上島町
愛媛14	檜垣翁碑	道路	久万高原町
愛媛15	檜垣伸翁の顕彰碑（桧垣桜公園）	道路	久万高原町
愛媛16	水徳治豫洲の碑	用水	久万高原町
愛媛17	石鎚の水ここに展く碑	用水	東温市
愛媛18	国営道前道後平野農業水利（二期）事業完工碑	用水	東温市
愛媛19	佐古の恵水碑	用水	東温市
愛媛20	小林信近翁像	鉄道	松山市
愛媛21	大谷池記念碑	ため池	伊予市
愛媛22	武智惣五郎氏頌徳碑	ため池	伊予市
愛媛23	大谷池改修事業の概要碑	ため池	伊予市
愛媛24	大谷池の全国ため池百選記念碑	ため池	伊予市
愛媛25	肱川治水碑	河川	大洲市
愛媛26	南予用水碑	用水	八幡浜市
愛媛27	布喜川調整池の碑	用水	八幡浜市
愛媛28	鉄道開通記念碑（双岩駅）	鉄道	八幡浜市
愛媛29	国道改築記念碑（国道一九七号）	道路	伊方町
愛媛30	山緑水豊地の碑（東蓮寺ダム）	用水	宇和島市
愛媛31	中原町長頌功碑	港湾	宇和島市
愛媛32	内海ふれあいトンネル開通記念碑	道路	愛南町

高知県の社会資本の碑



No.	碑の名称	種類	市町村名
高知1	佐喜浜川砂防の記念碑	治山施設	室戸市
高知2	丸山台地の記念碑	電力	馬路村
高知3	四足峠トンネルの碑	道路	香美市
高知4	永瀬ダムの碑	河川	香美市
高知5	永瀬ダムの慰霊碑	河川	香美市
高知6	鉄道開通記念碑（豊永駅）	鉄道	大豊町
高知7	安藝線電化開通記念碑	鉄道	南国市
高知8	四国のいのち碑（早明浦ダム）	河川	土佐町
高知9	早明浦ダムの殉職者慰霊碑	河川	土佐町
高知10	諸霊鎮魂親水の碑	河川	大川村
高知11	高岡堤防竣工記念碑	河川	土佐市
高知12	波介川河口導流事業通水記念碑	河川	土佐市
高知13	日下川放水路竣工記念碑	河川	日高村
高知14	笹木越の開道碑（国道三三号）	道路	日高村
高知15	佐川駅開設五十周年記念碑	鉄道	佐川町
高知16	大渡ダム建設記念碑	河川	仁淀川町
高知17	大渡ダムの殉職者慰霊碑	河川	仁淀川町
高知18	大渡ダム記念碑	河川	仁淀川町
高知19	国道一九七号開通記念碑	道路	梶原町
高知20	鉄道開通記念碑（窪川駅）	鉄道	四万十町
高知21	予土線開通記念碑（土佐大正駅）	鉄道	四万十町
高知22	渡川治水起工記念碑	河川	四万十市
高知23	新中筋川通水記念碑	河川	四万十市
高知24	四万十河橋之碑	道路	四万十市

徳島県



■碑にまつわる社会資本整備の概要

阿佐海岸鉄道阿佐東線（平成4年開通）

阿佐東線は大正11年施行の鉄道敷設法の別表に掲げられた建設予定線に含まれていたが、日本鉄道建設公団が牟岐～海南間で工事を始めたのは昭和40年であった。牟岐～海部間は昭和48年10月に完成、国鉄牟岐線として開業し、続いて昭和49年4月には海部～野根間の工事が開始され、昭和55年2月までに海部～穴喰間六、一キロメートルのレールがなくなり、穴喰～甲浦間二、一キロメートルの路盤工事が終わった。しかし、昭和55年施行の国鉄再建法により工事は凍結された。関係者が協議の結果、海部～甲浦間は第三セクター方式で開業されることになり、平成元年3月に工事が再開、平成4年3月に阿佐海岸鉄道海部～甲浦間が開通した。

（参考文献・阿南市史編さん委員会編「阿南市史第四巻」二〇〇七年、東洋町史編纂委員会編「東洋町史」二〇二〇年）



海部駅のJR（左）と阿佐海岸鉄道（右）

※DMV（デュアル・モード・ビークル）の導入に伴い令和2年11月にJR牟岐線の海南～海部間が阿佐海岸鉄道に編入されたため、現在は海部駅で阿佐海岸鉄道とJRの車輛が隣り合うことはない。

■ 碑文

阿佐海岸鉄道
開通記念之碑
元厚生大臣 森下元晴書

(表)

此の地への鉄道誘致に尽力をした先人の
偉業をたたえ 茲に碑を建立する
昭和 48 年 10 月 1 日 牟岐線牟岐－海部間開通
平成 4 年 3 月 26 日 阿佐海岸鉄道海部一甲ノ浦間開通
平成 5 年 3 月 26 日

(裏)

■ 位置図





■碑にまつわる社会資本整備の概要

一の堰改築事業（昭和43年竣工）

一の堰は、桑野川下流右岸の阿南市富岡町、見能林町及び才見町地域にかんがい用水を供給する取水堰である。昭和21年の南海地震及び昭和24年のジュデイス台風により堰の一部が崩壊流失するなどの被害を受けて取水できなくなったため、徳島県は災害復旧事業として昭和28年に富岡新橋下流七〇メートル地点の狭窄部に二代目の一の堰を完成させた。その後、桑野川の改修計画に伴い、再び一の堰の改築が必要となり、二代目の五〇メートル下流に橋梁併用堰の三代目の一の堰が昭和43年末に完成した。

（参考文献…建設省四国地方建設局徳島工事事務所編「那賀川改修史」一九八一年）



一の堰

■碑文

此堰ハ現位置ヨリ三百五十米ノ上流ニアリシガ昭和二十四年ノケ
イト台風ニ依リ大災害ヲ蒙リシタメ復旧スルコトニナリシガ元位
置ニテハ富岡町見能林村内ノ耕地七百余町歩ノ灌漑ト長生村低地
部ノ排水ニ大支障ガアルノデ現位置ニ設置スルコトニナリ昭和二
十六年十一月起工経費実ニ金三千三百万圓ヲ投ジ昭和二十八年十
一月完成セリ

(理事長など40人の氏名省略)

昭和貳拾八年拾壹月之記

※碑文では「昭和二十四年ノケイト台風」となっているが、ケイト台風は昭和二十六年である。一ノ堰は昭和二十四年のジュデイス台風により被害を受けている。

■位置図



徳島県阿南市

徳島3 国営北岸用水碑（用水、昭和32年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

那賀川北岸農業水利事業（昭和46年度竣工）

那賀川北岸地区では上広瀬堰、下広瀬堰、大井手堰から引水して二五〇〇町歩にわたり灌漑していたが、いずれの堰も原始的な構造で、洪水時には堰が破壊され、復旧に莫大な経費を要していた。また、用水路も漏水が激しく、地区の上流部では旱害が、下流部では塩害が発生していた。このため、昭和13年頃より改修の要望が高まった。三堰を統合して幹線水路を新設する計画が立てられ、昭和23年7月に農林省が国営事業として着手し、昭和30年1月に三堰を統合した新しい堰と幹線水路（三三七メートル）が完成した。（参考文献…建設省四国地方建設局徳島工事事務所編「那賀川改修史」一九八一年）



那賀川北岸堰

■碑文

(表)

國営北岸用水碑

北岸用水縁起

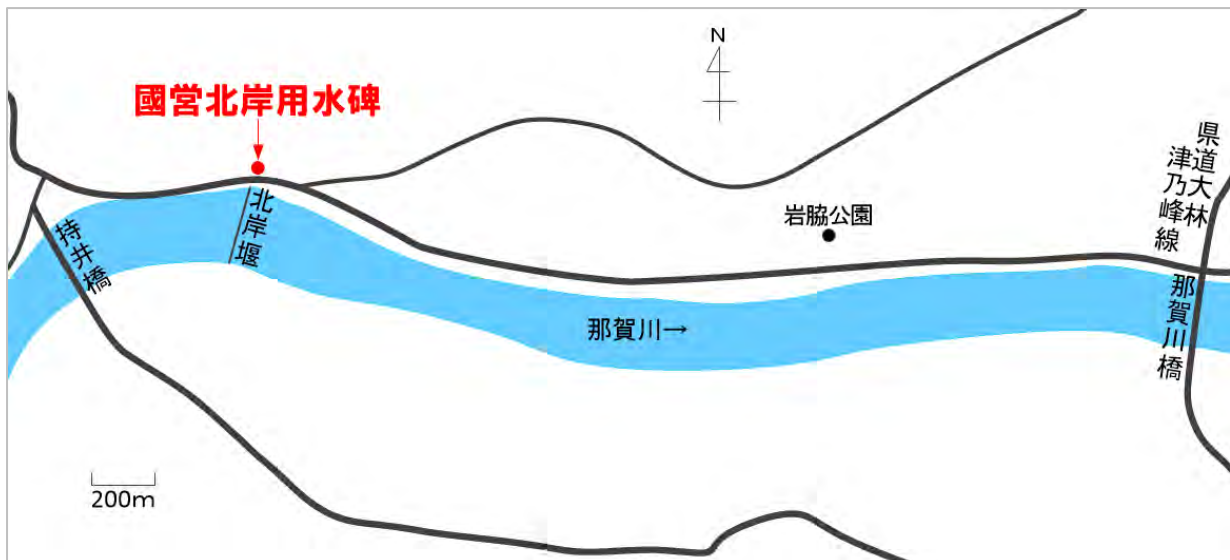
川北地方は旧立江坂野今津平島羽ノ浦の五ヶ町村一圓の総称にして那賀川下流の一大沃野であり此の地方は舊く慶長年間より那賀川の水利に依り耕作を営なまれ縣南屈指の米麦産地である従来は原始的杭柵井関により取水する大井手下廣瀬上廣瀬の三用水にて灌漑されて居たが毎年の洪水期には甚大なる損害を蒙り農家は其の負擔の重壓に永年苦しめられて来たが關係農民の願望を時代の要求は遂に國家の認める處となり三用水を統合し昭和二十二年四月國営水利改良事業として着工同二十九年八月迄六ヶ年有餘の歳月と総工費四億七千萬圓を投じ那賀川を横斷する堰堤並に取水樋門幹線水路三千三百餘米突が完工された實に画期的大事業であり又近代科学の粋を結集した工法である之に依り那賀川北岸地域二千六百町歩の灌漑は完璧され此の恩恵に浴する事測り知れず仍て此の業績を讃仰し記念する為全組合員一同相謀り茲に碑を建て是を永く後世に傳ふ

昭和三十一年十一月二十五日

那賀川北岸土地改良區連合

理事長 貴田文治郎誌之

■位置図



徳島県阿南市

徳島4 山田隆二翁碑（鉄道、昭和36年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

牟岐線羽ノ浦～牟岐間（昭和17年開通）

県南の関係町村は四国循環鉄道の一環として阿土海岸線の実現に向けた運動を行い、昭和4年2月に羽ノ浦～牟岐間四九、六キロメートルの鉄道建設案が帝国議会で可決されたが、政変などにより建設は繰り延べされた。その後、羽ノ浦～桑野間の工事が開始され、昭和11年3月に開通、さらに桑野以南の敷設工事が進められ、昭和12年6月に桑野～阿波福井間が、昭和14年12月に阿波福井～日和佐間が、昭和17年7月に日和佐～牟岐間が開通した。ここに羽ノ浦～牟岐間の敷設工事が完成し、牟岐までの全通によって徳島～牟岐間を牟岐線と呼ぶことになった。阿波中島駅前に牟岐線敷設に功績のあった山田隆二翁記念碑が建立されている。

（参考文献：那賀川町史編さん委員会編「那賀川町史 上巻」二〇〇二年）



J R阿波中島駅

■ 碑文

山田隆二翁碑

翁は明治十五年一月五日那賀郡那賀川町中島に生れ 資性英邁にして高潔 夙に志を立て東京に遊学明治四十一年東京帝国大学土木工学科を卒業直ちに鉄道省に入り技師として鉄道事業向上のため鋭意精進されること三十年 この間内閣より米國に留学を命ぜられ或は中國に出張し斬新なる知識と豊富なる経験とを以て本邦鉄道建設の指導に當らる その功により昭和八年勅任官待遇に同年勲四等瑞宝章を授与せらる同十一年鉄道省工務局長兼大臣官房研究所長となり退官後も日本コンクリートポール会社取締役兼技師長日立製作所顧問等を歴任さる

翁は昭和十一年三月牟岐線建設に際し本町中島の地に当駅を誘致せられこの地方発展の礎を築かる 茲に有志相寄り相計り町民の協賛を得てこの偉大なる功績を永遠に記念せんとして本碑を建立する

昭和三十六年三月

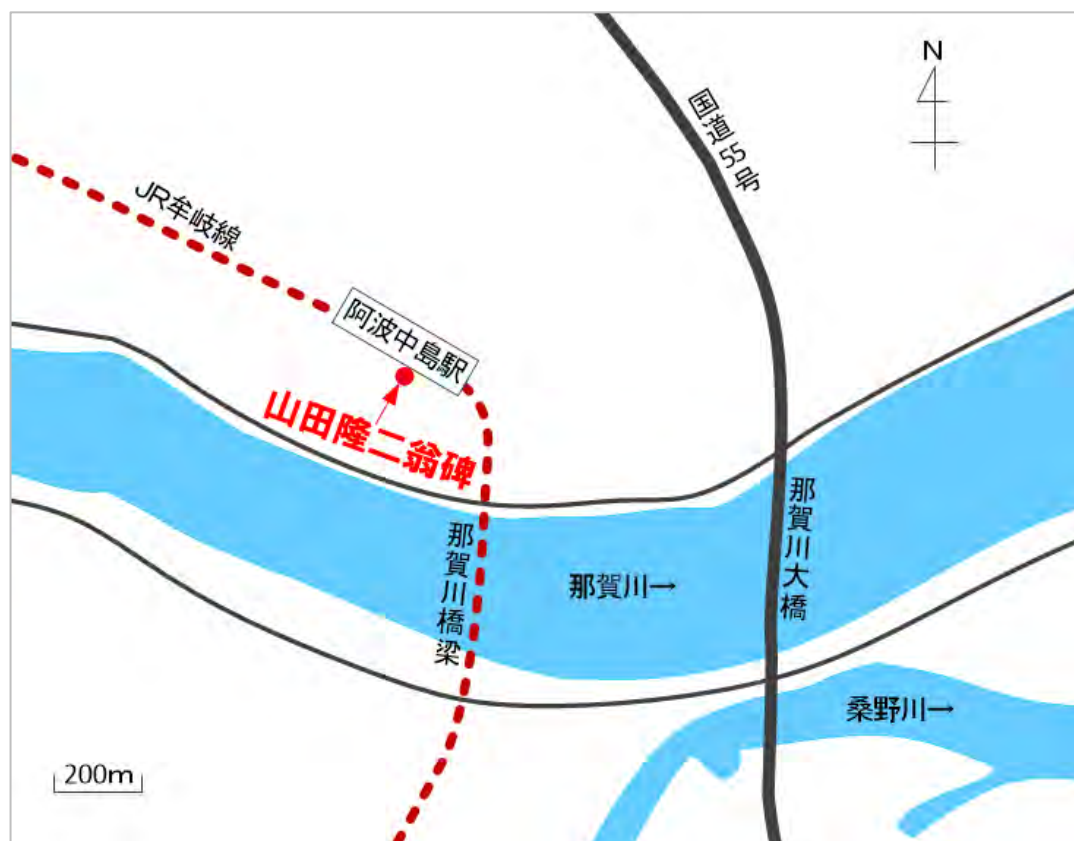
徳島県知事

原 菊太郎書

(裏)

建設者
中島協議会

■ 位置図





■碑にまつわる社会資本整備の概要

那賀川橋梁（牟岐線）（昭和11年竣工）

那賀川橋梁は、橋長四七〇、六五メートル、一径間四六、二メートル、トラスト幅五メートル、高さ四メートルの直弦ワーレントラストが一〇連並ぶ橋梁で、昭和11年3月に完成した。完成当時、付近には渡し船しかなかったため、通行にこの橋を利用する人が絶えず、列車による人身事故が多発した。このため、県は国鉄と協議して、昭和49年に橋の両側に幅一、五メートルの歩道橋を付け、県道大林那賀川線として管理している。那賀川橋梁では、昭和20年7月、米海軍のグラマン戦闘機二機が飛来し、南進中の列車に機銃掃射を浴びせ、三〇人を超える乗客が死亡する事件が起こった。（参考文献：徳島県教育委員会編「徳島県の近代化遺産」二〇〇六年）



那賀川橋梁

■碑文

平和之碑

太平洋戦争末期、奪回された南の島々を拠点に本土への空襲が熾烈となり、都市という都市はB29の空襲で焼野原と化し、県都徳島市も一夜にして壊滅状態となる。四国の長閑なわが町にも惨禍の爪跡が刻まれた。

昭和二十年七月三十日午後四時頃、満員の乗客をのせた五輦編成の牟岐行の列車が中島駅を発車、那賀川鉄橋にさしかかった時、突然甲高い爆音とともに艦載機グラマン二機が飛来、列車めがけて投爆と機銃掃射を浴びせた。

列車の天井も座席も吹き飛び車輻は大きく傾き鉄橋の上で立往生、その動かぬ標的に容赦なく機銃掃射をくり返す。鉄橋の線路つたいに逃げまどう者、たまたらず川にいくつもの悲鳴が落ちていく。車内は一面肉片が散乱し血の海と化する。三十余名が死亡二十余名の重軽傷者を出す。

直ちに警防団、婦人会、町内会の人々による必死の救援が始まり死者は横井製材の土場に安置、重傷者はトラックで共栄病院へ、軽傷者は益崎医院へと迅速果敢に活動、その夜西光寺で営まれた仮通夜で冥福を祈る。

時は流れ三十三年後、法要が盛大に行われ参列者の体験見聞記の小冊子「憶、七月三十日」が作られた。平成十年県婦人会の戦争を語り継ぐ会で「那賀川鉄橋列車爆撃」と題して紙芝居を発表、以来毎年夏には小中学生や一般の方にも語り続けられている。

戦乱に明け暮れた日々を必死に生き抜いてきた女性故に真剣に平和を願うものである。

戦争の愚かさや残酷さ、悲惨さをくりかえさないよう平和の尊さ、命の大切さを次の世代に語り継ぐため戦後六十周年を記念し、石碑に刻みここに平和の碑を建立する。

平成十七年十二月吉日

事業概要

那賀川鉄橋列車爆撃 一九四五 七月三十日

死者三十余名 負傷者二十余名

三十三回忌法要 一九七八 七月三十日

小冊子「憶！七月三十日」中島老人会作

県戦争を語り継ぐ会 一九九八 那賀川町婦人会

紙芝居制作発表「那賀川鉄道列車爆撃」

石碑建立 二〇〇五 六十周年記念事業

那賀郡那賀川町婦人会

■位置図





■碑にまつわる社会資本整備の概要

明治から大正にかけての小松島港の整備

明治32年に小松島村会で小松島港の築港が決議され、工事が実施されることになった。同年9月の勝浦川の決壊も港の修築に拍車をかける要因となり、神田瀬川口の三千坪の浚渫、湊口・横須の埋立、南根井側から一〇〇間及び外開側から五〇間の投石による波除波止の建設が行われ、明治33年10月に第一期工事が完了した。大正2年に阿波国共同汽船が徳島～小松島間に軽便鉄道を敷設し、鉄道院がこの軽便鉄道を借り上げたことなどから、阪神への航路としての小松島港の整備が急務となり、徳島県は大正2年から四ヶ年継続事業として内港部の整備に着手した。さらに大正6年～10年に港口の南北突堤を増築、港口の有効幅員を九〇メートルに拡張し、港内浚渫によって千トン級の汽船の出入が自由にできるようにした。

（参考文献…小松島市史編纂委員会編「小松島市史 中巻」一九八一年）



小松島港

(主)

徳島における
近代港発祥の地

(側碑)

徳島における近代港 発祥の地

ここは和田の鼻による遮蔽区域であり、水深も深いことから天然の良港として古くから利用されており、奈良時代にすでに中の湊として中央に知れわたっていたと言う記録がある。

源義経が、この地域に上陸して屋島に攻め上がった史実もあるが、常時はシケ待ちの避泊地的な使われ方が主であったと思われる。

また、幕末には阿波藩主の要請を受け、英領事ハリーパークスが通訳アーネストサトウらとともに、この北側の地に上陸した記録もあるが未だ近代港としての形態ではなかった。

明治時代になって近代国家の建設を待ち望む人々の間から、このような歴史と自然の背景のもと「小松島港」開発の世論が起こった。主唱者は、当時の小松島村長湯浅貞太郎であった。藍商達が設立した阿波国共同汽船会社の活動や地元の経済力のバックアップもあって、明治 32 年村議会で小松島港湾改修が決議され、村営による築港工事が実施されることになった。時を同じく 35 年には小松島～和歌浦航路が開設、ここに近代港としての第一歩を踏み出した。

その後のあゆみ

- 1908 年（明治 41 年） 大正天皇（皇太子時代）が徳島に行啓された際、御上陸された。
- 1912 年（明治 44 年） 小松島～徳島間に軽便鉄道が敷設され、汽車からすぐ船に乗れる連絡施設がつくられたのに伴い、ここが阿波～摂津（大阪）間の汽船の発着所となった。
- 1917 年（大正 6 年） 第一次世界大戦時のドイツ兵捕虜 953 名がここに上陸し、板東俘虜収容所（鳴門市大麻町）に移送された。
- 1919 年（大正 8 年） 阿波国共同汽船株式会社小松島支店の船客待合所が建築された。（当時としては超モダンな建物であったことから、通称「ハイカラ館」と呼ばれていた。）
- 1921 年（大正 10 年） 第 2 種重要港湾に指定された。
- 1922 年（大正 11 年） 昭和天皇（皇太子時代）が徳島に行啓された際、御上陸された。
- 1934 年（昭和 9 年） 新しい港（現在の本港）が完成した。

四国の東門として栄えたこの港も、急速な商工業の発達により出入船舶の大型化と増加などで狭くなったため、その役割を新港に譲った。

輝かしい歴史を刻んできたこの地を、近代港発祥の地として記念し、ここに記す。

平成 5 年 3 月 小松島市

※碑では「1912 年（明治 44 年）」となっているが、小松島～徳島間の軽便鉄道の着工は明治 45 年 3 月であり、「1912 年（明治 45 年）」が正しい。

■位置図



徳島県徳島市

徳島 7 今切川河口堰の慰霊碑（河川）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

旧吉野川河口堰・今切川河口堰（昭和51年完成）

旧吉野川は、吉野川河口から一五キロメートルさかのぼった地点に設置された第十樋門により分派され、阿讃山脈より流下する宮川内谷川、黒谷川等を加え、北島町で右派今切川を分派し、両川とも蛇行しつつ紀伊水道に注ぐ緩やかな勾配をもつ河川である。旧吉野川河口堰・今切川河口堰は、洪水防衛、流水の正常な機能の維持及び都市用水の取水を図る目的で、旧吉野川・今切川の下流部三、四キロメートル、八、四キロメートルにそれぞれ築造されたものである。本事業は昭和45年度に水資源開発公社により着手され、昭和51年3月に完成した。今切川河口堰近くの水資源機構旧吉野川河口堰管理所前に慰霊碑が建立されている。

（参考文献…建設省四国地方建設局徳島工事事務所編「吉野川百年史」一九九三年）



旧吉野川河口堰



今切川河口堰

慰霊碑
(2人の氏名省略)



徳島県徳島市

徳島8 豊川翁之碑（道路、昭和3年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

吉野川橋（旧国道一一号）（昭和3年完成）

吉野川橋が古川橋と呼ばれていた時には、木橋の賃取橋で、毎年のように吉野川の出水による被害を受け、交通の途絶をまねいていた。大正10年に県会で古川橋は県下一大橋の一つとして永久橋への架け替えが決定した。大正13年に徳島県は豊川仲太郎から賃取橋の経営権を買収し、県営とした後、下流一〇〇メートルほどの地点に大正14年11月に新橋の架設を着工した。長さ一〇七九、八九メートル、幅員六、〇六メートルの鉄筋コンクリート曲弦ワーレン式の鉄橋は、完成直前に吉野川橋と改称され、昭和3年12月に完成した。開通式では祝賀行事が催され、四万人の群衆が集まった。（参考文献…ふるさと徳島編集委員会編「ふるさと徳島」一九九八年）



吉野川橋

■ 碑文

(表)

豊川翁之碑
秋田清書

(裏)

表彰状

板野郡川内村 元古川橋經營者 故豊川仲太郎氏
明治十九年以來古川假橋ヲ經營シタリシカ本假橋ハ
縣下交通ノ要衝ニ當リ規模亦第一位ニアリシモ出水
ニ對スル被害頗繁ナル為經營至難ナリシモ氏ハ萬難
ヲ排シテ之レ力維持ニ努メ大正十四年縣營移管ニ至
ル迄三十九年間一貫シテ交通ニ貢獻シタルハ一二氏
ノ公共心ノ發露ト責任觀念ノ旺盛ナルノ致ス所ナリ
本日規模構造堅牢ナル鐵橋架設成ルニ際シ茲ニ往時
ノ功勞ヲ憶ヒ之ヲ追彰ス
昭和三年十二月十八日

徳島縣知事正五位勲四等山下謙一
辱友一同建之

■ 位置図





■碑にまつわる社会資本整備の概要

国道一〇〇号吉野川バイパス（平成8年完成）

徳島市及び周辺の交通渋滞対策として、昭和38年度に吉野川バイパス事業（延長一六、九キロメートル）が着手された。特に吉野川橋が隘路になっていたため、昭和43年に吉野川大橋の下部工に着手し、その後、順次工事を進め、昭和47年7月の部分供用を始めた。昭和61年3月には全線暫定供用、平成8年9月に全線完成供用した。吉野川バイパスは渋滞対策のほか、その後計画された四国縦貫自動車道や本州四国連絡道路とのネットワークを形成し、地域活性化に資するためにも欠くことのできない道路となっている。

（参考文献…建設省四国地方建設局徳島工事事務所編「徳島工事五十年史」一九九八年）



吉野川大橋

■ 碑文

顕彰碑

建設省は、日本の特色ある優れた道路を選定、顕彰することによって道路の意義、重要性に対する国民の関心と道路愛護の精神を高めることを目的に、昭和六十一・六十二年度にわたって「日本の道一〇〇選」を選定しましたが、この中に、三木申三徳島県知事のご推薦による、国道十一号吉野川バイパスの吉野川大橋を含む六車線化完成区間が、慢性化していた徳島市北部の交通渋滞を大幅に改善し、県民の期待どおりの成果を上げ、道路の持つ機動性、重要性が再認識されたとして、「日本の道一〇〇選」の一つに選定されました。

これを記念し、ここに顕彰碑を建立いたします。

昭和六十三年一月吉日

建設省徳島工事事務所長

振井茂宏

■ 位置図





■碑にまつわる社会資本整備の概要

名田橋（昭和37年度竣工）

名田橋は主要地方道徳島引田線が吉野川を跨ぐ徳島市不動町、藍住町に架設された橋長八〇メートル、有効幅員八メートルの橋梁である。永らく渡船で連絡していた箇所に永久橋を架設することは、下流六キロメートルにある吉野川橋の飽和交通量の緩和を図るとともに、徳島市と高松市を連絡する最短路線として期待されていた。徳島県では昭和32、33年に架設計画に基づき調査を行い、名田渡船の上流四〇〇メートルに架設地点を定め、昭和34年度より国庫補助により事業に着手し、昭和37年度に竣工した。ディビダーク工法（橋梁建設に用いる張り出し架設工法）によるPC橋である。（参考文献…徳島県土木部編「名田橋工事報告」一九六三年）



名田橋

(左)

名田橋工事概要

事業名	橋梁整備事業
路線名	主要地方道徳島引田線
橋長	800M (50+10@70+50)
有効巾員	8M
橋格	1等橋 (T.L.-20)
型式	橋体ディビダーク工法による PC橋 基礎エアジェット沈井工法による井筒基礎
主要資材	セメント 4700t 鉄筋 680t PC鋼棒 490t 鋼材 130t
工期	昭和34年8月ー昭和38年2月
事業費	¥440,000,000ー
事業主体	徳島県
施工	橋体工 住友建設株式会社 基礎工 赤松土建株式会社

(右)

徳島香川両県を結ぶ幹線としてこの地点は古くから木橋が架けられてきたが吉野川の出水毎に流失し渡船による交通がわずかに住民の要望に応じてきた。永久橋架設は県民永年の宿望であり四國交通網整備の一環として重要な意義をもつものである。

ここにディビダーク工法により斬新な設計と特異な工法をもつ我國最大のプレストレストコンクリート橋が架設された。

橋梁は自然を征服する人間技術の芸術であり國産の資材と日本の技術によって完成したこの橋梁は永く我國の橋梁史に輝かしい一頁を飾るものである。

昭和38年2月

■碑文



■位置図

徳島県吉野川市

徳島11 移転之碑（河川、大正10年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

善入寺島の遊水地化（昭和2年完了）

善入寺島は東西約六キロメートル、南北約一、二キロメートル、面積約五〇〇ヘクタールに及ぶ吉野川最大の川中島で、大正初期には約五〇〇戸、三〇〇〇人ほどが住んでいた。善入寺島は吉野川第一期改修工事で遊水地化されることになったが、明治42年に内務省が全島買収の方針を示すと、島民は先祖伝来の島を守るため計画変更するよう陳情した。しかし、内務省の方針は動かし得ず、明治45年には大部分が指定価格での買収に調印して大正3年までに一〇〇余戸が立ち退き、大正4年には残り四〇〇戸に対して強制退去命令が出された。善入寺島の掘削工事は昭和2年1月に完了した。（参考文献…建設省四国地方建設局徳島工事事務所編「吉野川百年史」一九九三年）



吉野川岩の鼻から善入寺島方向

■碑文

碑文

麻植郡宮島村隔吉野川沿北岸隣接阿波郡古属川島郷天正十三年及蜂公封為阿波之國主置林能勝川島城同十七年御檢地時耕地二十五町一反七十一歩内八反二十四歩居屋敷僅人家十二戸内寺一稱寶壽坊曰三郎五郎源左工門右衛門彦四郎宮太夫小七孫二郎与五郎惣二郎太郎右工門孫六等其他名負地十曰衛門與三二郎孫兵衛孫五郎彦兵衛小二郎小四郎助兵衛弥八西蓮也此地有浮島八幡宮近郷同祀西有極樂墳朴葬不用浮屠無塚墓死者則投葬于此後天保三年御巡視時人家増殖而九十九戸土地肥飫農盛民俗敦厚至於今而阿北之地憂水害已久矣以故明治四十五年四月官省収所謂善入寺島之地令六百戸之士民移於外而為改修工事於吉野川各欲去者宮島及接續地棄村之一部亦属之乃神社三土地五十二町九畝八歩人家百戸悉散失化荒蕪嗚呼孰謂遂去墳墓之地而相離也此地之士民痛嘆於是窮迫將辞訣書其事並轉地于石遺後世焉

于時 大正十年八月十五日建之

略省は名氏所住者轉移

■位置図



■碑文の解釈

麻植郡宮島村は吉野川を隔てて北岸に沿い阿波郡に隣接する。古より川島郷に属する。天正十三年（一五八五）蜂須賀公が封ぜられ阿波の国主になり、林能勝を川島城に置いた。同十七年御検地の時、耕地は二十五町一反七十一歩、うち八反二十四歩は居屋敷で、わずか人家は十二戸、うち寺が一つで寶壽坊と称した。曰く三郎、五郎、源左エ門、右衛門、彦四郎、宮太夫、小七、孫二郎、与五郎、惣二郎、太郎右エ門、孫六等、その他名負地は十で、曰く衛門、與三二郎、孫兵衛、孫五郎、彦兵衛、小二郎、小四郎、助兵衛、弥八、西蓮であつた。この地に浮島八幡宮があり、近郷の西に極楽壙があつた。朴として葬るのに浮屠を用いず、塚墓はなく、死者すなわち投じてここに葬つた。後に天保三年（一八三二）御巡視の時、人家は増殖し九十九戸、土地は肥沃、農は盛ん、民俗は敦厚に至つた。しかし今も阿北の地は水害の憂い久しく、明治四十五年四月、内務省はいわゆる善入寺島を買収し、六百戸の士民に島外への移転を命令した。外に吉野川における改修工事のため去ることを欲する者、宮島及び接続地の桑村の一部もまたこれに属した。すなわち神社三、土地五十二町九畝八歩、人家百戸は悉く散失し、荒蕪と化した。ああ遂に墳墓の地を去り、相離なりと孰れが謂ふ。この地の士民はここにおいて窮迫、まさに辞訣を痛嘆し、そのこと並びに転地を石に書して後生に遺した。

時に 大正十年八月十五日之を建つ

（筆者の解釈による）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

川島排水機場（昭和39年度竣工）、学島排水機場（昭和41年度竣工）川島排水機場は桑村川の内水排除を目的として、昭和39年度に建設された排水能力一二立方メートル／秒の機場で、四国地建で最初の排水機場である。この川島排水機場では、平成18～21年度に吉野川床上浸水対策特別緊急事業（桑村川）により、一八立方メートル／秒の排水ポンプへの全面改築が行われた。また、学島排水機場は学島川の内水排除を目的として、昭和41年度に建設された排水能力六立方メートル／秒の機場である。さらに学島川の内水排除増強を目的として昭和53年度に学島川排水機場が建設され、昭和57年度にはポンプ一台が増設された。

（参考文献：建設省四国地方建設局徳島工事事務所編「徳島工事五十年史」一九九八年、国土交通省四国地方整備局事業評価監視委員会資料 平成26年度第三回）



川島排水機場



学島排水機場

■碑文

治水拓運
徳島県知事 武市恭信

排水機場の碑

我が川島町は 四国山脈南部を走り その支脈は伸びて岡山台地となつて東部を扼し 更に先端は断崖となつて北部を貫流する吉野川に迫まり 地形袋状を呈する為に 台風の襲来する毎に濁流は滞留して泥海となり 人畜及び農作物に及ぼす被害は甚大であつた 大正年間吉野川築堤工事の完成により 洪水による被害は除去されたとは言え尚 豪雨の際には濁流蕩々として低地帯を浸し 町発展を阻む一大素因となつていた 歴代の当局者は土地改良事業をすゝめ 或は水害対策委員会の設置等鋭意治水策に尽瘁したが 昭和三十四年水田房次郎氏が選ばれて町長となるや「町を治めんとする者は水を治めざるべからず」と 不退転の決意をもつて 町民と一丸となり 日夜東奔西走その熱意は関係当局を動かし 遂に吉野川改修工事の一環として 川島学島排水機場設置の運びとなる

昭和三十七年十一月 川島排水機場を起工 口径千六百耗 三百八十馬力 揚水量毎秒六屯の排水機二台を設置 昭和三十九年六月竣工次いで同年十一月学島排水機場に着工 口径千二百耗 百六十五馬力、揚水量毎秒三屯の排水機二台を設置 昭和四十一年六月竣工 工期五ヶ年 総工費約四億円 かくて累代町民待望の宿題が達せられるに至つた

燦然と輝く両排水機場こそ、水禍を克服した先人の栄光と川島町の将来の発展を象徴する記念塔である 依つて 囑る者をしてその鴻業を讃え 無辺の恩澤に浴する幸運を謝する念を想起させるため 治水の由来を刻して 永く後代に伝えるものである

昭和四十七年一月吉日

川島町長

木野久夫

川島町議会議長

阿部勝義

文撰 徳島大学教授

三木 就

山口鑄石書

■位置図





■碑にまつわる社会資本整備の概要

吉野川第一期改修工事（昭和2年竣工）

吉野川第一期改修工事は、左岸林町岩津及び右岸川田町から海に至る約四〇キロメートルの区間について、岩津地点における計画高水流量を一万三九〇〇立方メートル／秒とした改修計画で、明治四十年に着手し、大正10年に至る15箇年継続事業として行われた。善入寺島の買収などの問題もあり、起工式は明治44年9月となった。大正8年4月には第十堰から上流の無堤部に対する堤防の新設及び右岸支川川田川改修を計画に追加して、4年間の工期延長を行った。さらに関東大震災に伴う経費節減の余波を受け、大正15年竣工の予定が遅れて、昭和2年に完成した。

（参考文献：建設省四国地方建設局監修「四国地方建設局三十年史」一九八八年）



岩津橋から吉野川下流方向

■碑文

吉野川改修
記念記

内務大臣
安井英二書

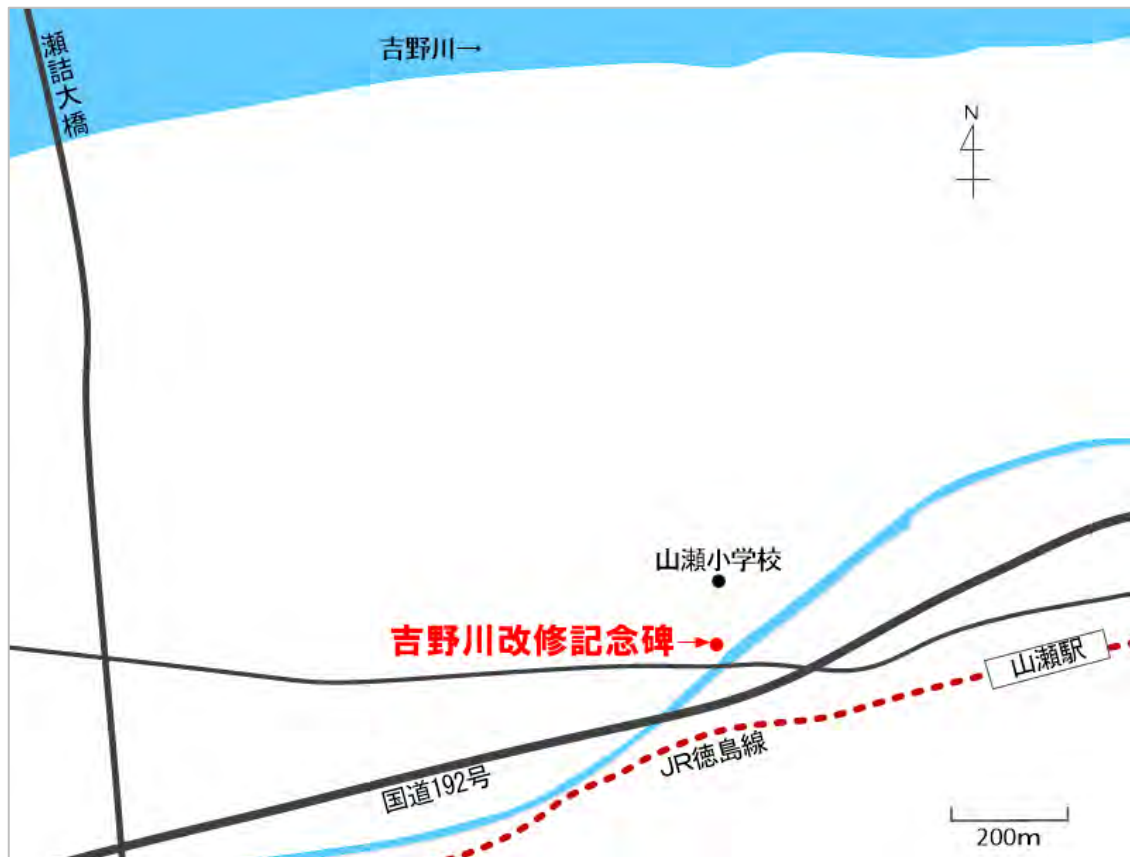
吉野川ハ本邦三大川ノ一ナリ源ヲ土佐ニ發シ土佐伊豫阿波ニ於ケル幾多ノ支流ヲ合セ洋洋海ニ入ル流路六十餘里沿岸滋潤灌漑ノ利頗大以是上古天富命 皇祖神武ノ命ヲ奉シ天日鷲命ノ子孫ヲ率ヒ肥饒ノ地ヲ求メテ阿波ニ來リ荊榛ヲ拓キ穀麻ヲ植工耕織ヲ教フ爾來忌部ノ部族本町ヲ中心トシテ田邊ニ榮エタリ夫利用大ナル者ハ作害亦大ナリ平時溶溶藍ヲ流ス者モ一朝暴漲セン乎禾ヲ没シ屋ヲ流シ其慘狀謂フ可カラズ殊ニ本町ハ河曲ニ枕モ川田川合流ノ衝土低地窪其氾濫ニ際リテハ濁浪滔滔田野ヲ没シ軒簷ヲ浸シ時ニ隄陂缺潰民屋流亡人畜ノ死傷ヲ見ルモ少カラス且其出水夏秋ノ交ニ多ク辛苦營營秋收ノ樂ミシ者一時ニ水泡ニ帰シ加之退水後モ汗穢穢泥惡臭紛紛衛生保健ノ危害亦大ナリ於是明治四十年官改修ノ工ヲ起シ幅員ヲ廣クシ洲渚ヲ削リ遊水地ヲ設ケ巨堤ヲ築キ大正十年ニ至ル後更ニ事業ヲ増加シ大正十五年完ク工ヲ竣ル前後二十閱年總工費一千二百萬圓也此完成ニ依リ本町ノ享クル福利ハ枚挙ス可カラス從來瀨詰及山崎ノ一部八年々冠水ノ損害數万円乃至數十万円ナリシ者今ヤ全ク免レ川田川ノ流路ヲ更メ瀨詰橋ノ架設ニヨリテ荒蕪地ノ良田トナリシ者多ク出水時ノ交通杜絶衛生上ノ危險渾テ一掃セラレ用水耕地ノ改良等農産上ノ諸對策モ始メテ確立シ五穀蕃熟汗耶滿車家給シ人足り鼓腹謳歌ス今ヤ改修竣工後二十年時恰皇紀二千六百年ニ際ル本町民此盛世ニ遇ヒ 皇恩ノ無邊ナルト祖先ノ勞苦ノ甚大ナリシトヲ思ヒ感激禁セズ乃之ヲ勒シテ以テ千載ニ傳フ後世子孫永ニ報恩感謝ノ念ヲ失フ勿レ

皇紀二千六百年十一月

徳島縣麻植郡山瀨町大字瀨詰區會

管理者 山瀨町長 三谷豐太郎

■位置図



徳島県阿波市

徳島14 林村築堤記念碑（河川、昭和2年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

岩津築堤（昭和2年竣工）

吉野川の第一期改修工事は明治40年に着手され、昭和2年に竣工した。これは、岩津の狭窄部より下流部河口までの連続堤防を建設すること、第十樋門の建設により現在の旧吉野川を締め切り、当時特別宮川と呼ばれた第十堰下流の直線河道を本流とすること、善入寺島を全島買収し遊水地とすることなどを骨子としていた。このうち、岩津築堤は渡船場から鎌保庵前まで約九〇〇メートルの新堤で、大正13年8月に起工し、昭和2年12月に竣工した。地元民は喜び、林町は築堤記念碑を渡船場に建設した。

（参考文献…林町誌編集委員会編「林町誌」一九五五年）



岩津下流左岸堤防

■ 碑文

(側面)

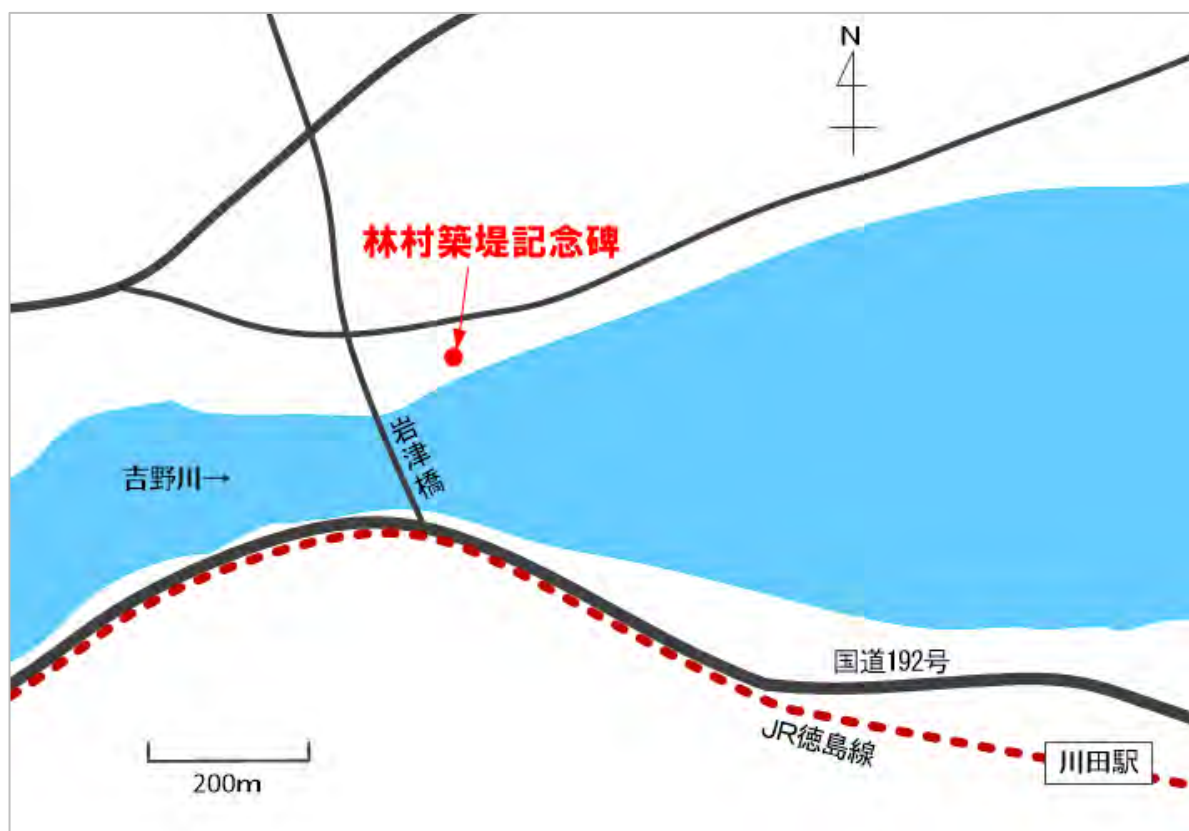
大正十三年八月起工昭和二年十二月竣功

(正面)

吉野川改修

林村築堤記念
(村長など11人の氏名省略)

■ 位置図





■碑にまつわる社会資本整備の概要

三好新道（明治23年竣工）

四国新道のうち徳島県を通過する部分が三好新道である。三好新道（三一、四キロメートル）は明治19年3月に起工し、明治23年3月に完成した。池田町では、明治19年春に東洲津赤鳥居に県土木出張所が設けられ、蔵谷付近の難工事が竣工、明治20年春には落まで開通し、四年後に猪ノ鼻峠の掘削工事も竣工した。三好新道の開設に努力し、偉大な功績を残した人として大久保謙之丞と武田覚三があげられる。三好郡長であった武田覚三の顕彰碑が出身地美馬市の東林寺に建立されている。

（参考文献…池田町史編纂委員会編「池田町史 上巻」一九八三年）



猪ノ鼻峠付近の旧国道

■位置図

心如鐵石

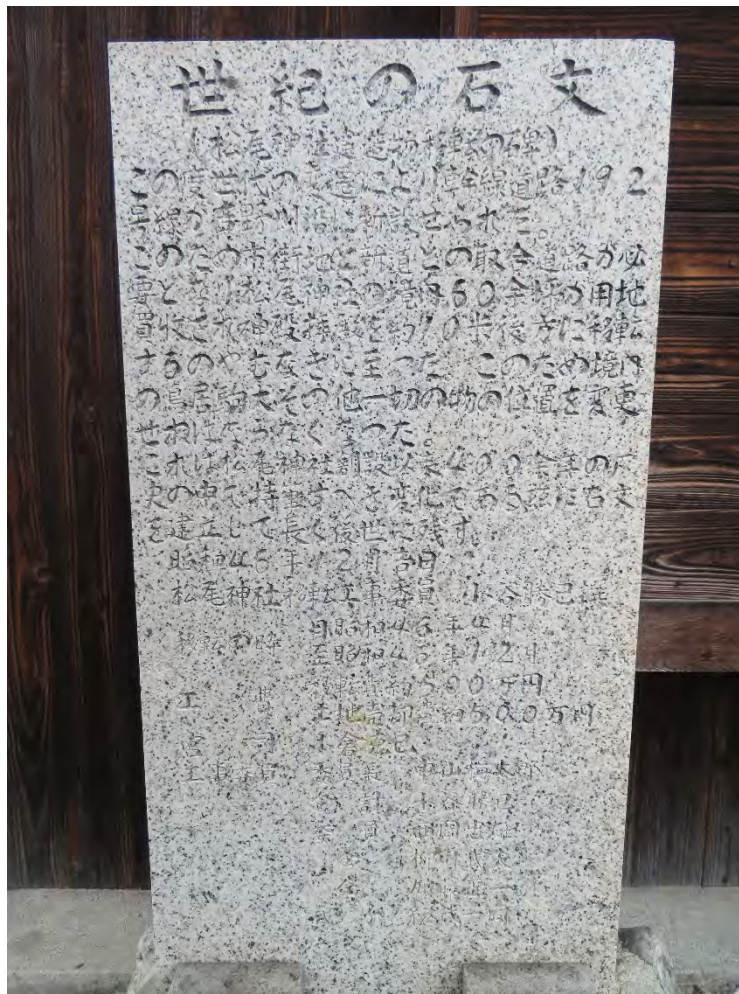
阿波掃苔会

ので、文政十二年が正しい。



徳島県つるぎ町

徳島16 松尾神社の「世紀の石文」碑（道路、昭和46年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

貞光町（現つるぎ町）の国道一九二号（昭和54年完成）

国道一九二号の旧道は、太田地区で冠水したり、一般的に幅員が狭く、カーブも多いことから、大型車両の通過や交通量の増加に対応できなくなってきた。このため、吉野川沿いに吉野川堤防との併設工事として新設されたのが、現在の国道一九二号である。昭和45年に半田町境から江ノ脇地区間が完成し、昭和54年8月に江ノ脇から道満地区間も完成し、町内区間四二五三メートル全線が整備された。これにより、旧国道のうち半田・貞光線は昭和47年3月に県道となった。

（参考文献…貞光町三十年のあゆみ編集委員会編「貞光町三十年のあゆみ」一九八八年）



国道192号と貞光堤防（右）

世紀の石文

(松尾神社建造物移転の碑)

この度世代の変遷により幹線道路 192 号線が吉野川沿に新設せられた。

このため市街地と新道との取合道路が必要となり松尾神社の境内 60 余坪が用地買収され神殿拝殿を約 10 米後方に移転するのやむなきに至った。このため境内の鳥居駒犬その他一切の物の位置を変更せねばならなくなった。

これは松尾神社創設以来 400 余年の歴史の中で特筆すべき変化である。茲に石文を建立して長く後世に残す。

昭和 46 年 12 月吉日

松尾神社移転工事委員 小谷勝己撰

移転の時 自昭和 46 年 4 月

至昭和 46 年 12 月

工費 移転費約 500 万円

土地売却費約 500 万円

宮司 小倉克己

工事委員 委員長など 5 人

(氏名省略)



徳島県三好市

徳島17 民益碑（道路、明治22年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

三好新道の用地交渉（明治21年完了）

四国新道のうち徳島県を通過する三好新道は、明治19年に三好郡州津、西井川、池田の三村で着手されたが、沿道の住民が用地買上げに反対するなど不平が高まり、話がまとまらなかった。このため明治20年に徳島の人堀井栄三氏に依頼して総代の一員に加わってもらい、総代が交渉に努めた結果、明治21年に用地の買い上げをすることができた。三好市池田町ヤマダには三好新道完成の民益碑が建立されており、そこには総代の困苦や堀井氏の尽力のほか、下付金を共同事業のために義捐したことなどが記されている。

（参考文献…大岩義雄編集「猪ノ鼻道路の今昔」二〇二一年）



三好新道完成の民益碑の標識

■碑文

(表)

民益碑

徳島縣士族 西尾可精撰

四國三縣新道開鑿事業ハ明治十九年二起リ我徳島縣阿波国三好郡洲津西井川池田ノ三村ニ着手セラレタリ該道敷ニ該當セル民有地取分ノ点ニ付關係者一統頗ル不平ヲ鳴ラシ錯論ヲ生シ其ノ底止スル所ヲ知サル者ノ如シ時ニ明治廿年十二月徳島ノ人堀井栄三氏ニ依頼シ總代ノ一員トシ之力衝ニ當ラシメ且ツ共ニ經營辛苦セシカ明治廿一年終ニ局ヲ買上ニ結ニ至レリ然リト雖モ是ヨリ先既ニ道敷トナリ耕耘ス可カラサル地ニ對シニケ年間地租ハ勿論一切ノ賦課ヲ負擔納金シ有ヲ以テ是亦明治廿一年春該地耕耘其他ノ損害料下渡ノ請願ヲ成シ爾來官民屢示談ノ末明治廿二年二月下旬損害料下附ノ結果ヲ得テ斯ニ始テ關係者一統素望ヲ貫徹セリト謂フ可キナリ斯ニ於テ諸氏等相議シ這回下附金額ノ幾分ヲ各自義捐シ以テ他日共同事業ヲ起シ民益ノ一端ヲ企圖セントス蓋又美譽ナリ爾シテ其業ハ未タ確立ノ域ニ達セサルノ故ニ効果判シ難シト雖モ成功ノ日ニ於テ刮目仰視ス可キノ偉舉ナラント信スルナリ今又總代諸氏ノ困苦及ヒ堀井氏盡力ノ厚キ等ヲ畧叙シ以テ紀念トナサントス堀井氏旧ト予ト相知ル故ニ不敏ヲ忘レ敢テ辞セスシテ記ス

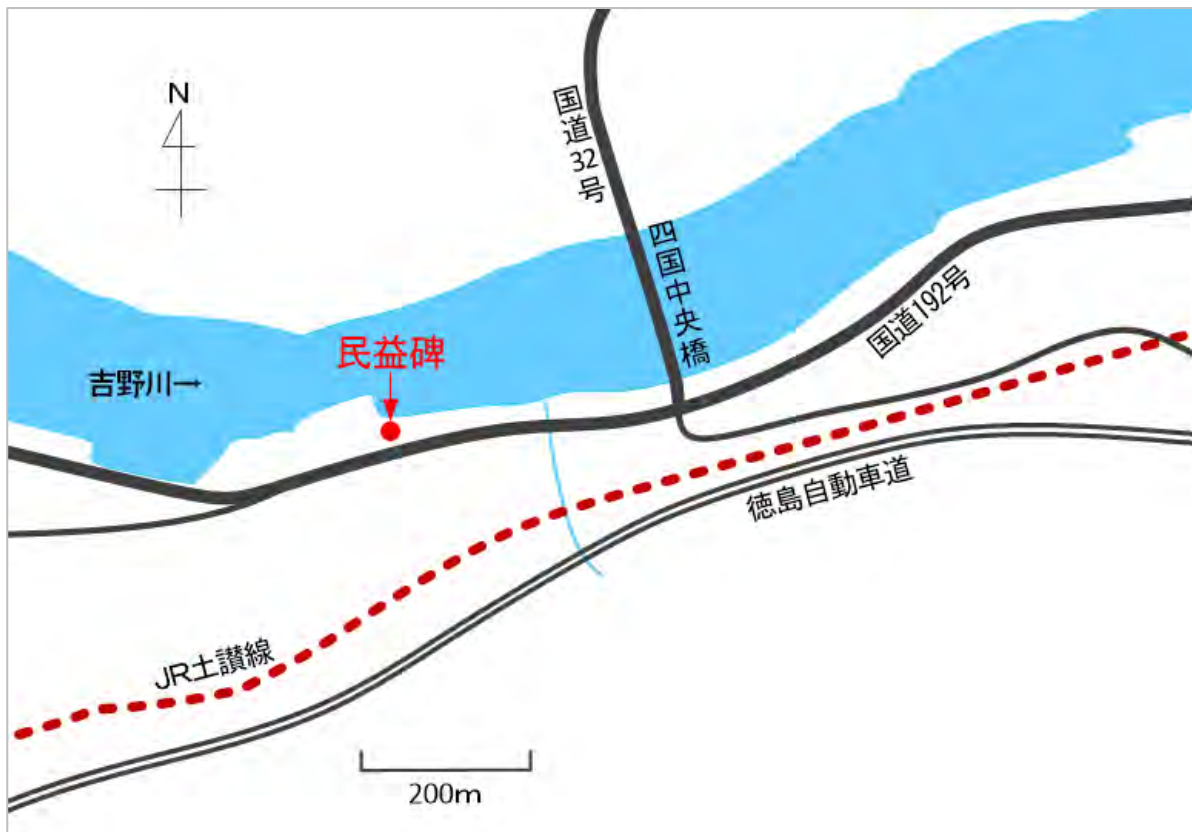
徳島縣士族 吉田吾三書

明治二十二年十月

(裏)

本郡池田村
安宅藤太外三拾三名
總代人 大石鶴蔵
古泉利五郎
辻石工 北岡岩吉

■位置図



徳島県三好市

徳島18 北麓疎水碑（用水、平成元年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

吉野川北岸農業水利事業（平成2年完了）

吉野川北岸農業水利事業は、池田町他11ヶ町の受益面積六八〇ヘクタールを対象として、農業用排水事業及び農地開発事業を併せ行う国営総合かんがい排水事業である。農業用排水事業は吉野川総合開発計画の一環として池田ダムから取水して池田町から板野町に至る延長六九、二キロメートルの水路に導水し五〇三〇ヘクタールの水田補給と一七八〇ヘクタールの畑地かんがいを行うものである。また、農地開発事業は樹園地と普通畑をつくるため五〇ヘクタールの農地造成を行うものである。吉野川北岸農業水利事業は昭和46年に着手し、平成元年8月に国営吉野川北岸農業水利事業の完工式を挙行、平成2年3月に完了した。

（参考文献：吉野川北岸土地改良区30年史編纂委員会編「吉野川北岸土地改良区30年史」二〇〇二年）



池田ダムの吉野川北岸用水取水工

■ 碑文

北麓疎水 徳島県知事 三木申三 書	(表)
四国三郎として知られる吉野川は、四国を代表する大河川である。 この吉野川沿いの農地は、目前に豊かな水を望みながら、地形上自然取水が出来ず、古来より旱魃の被害に悩まされていた。 おりしも「四国は一つ」のかけ声のもとに吉野川総合開発が進められ、その一環として農林水産省により吉野川北岸の農地、凡そ七〇〇ヘクタールの用水改良と併せて農地開発を行う吉野川北岸農業水利事業が昭和四十六年十月に開始され、十八年余の歳月と六〇〇億円余の巨費を投じて平成元年度に完了した。 この用水の利用により既耕地は勿論、新たに造成した農地においても、緑豊かな農業が更に発展することを望むものである。 平成元年八月 中国四国農政局 吉野川北岸農業水利事業所	(裏)

■ 位置図



徳島県三好市

徳島19 四国は一つ碑(香川用水取水工) (用水、昭和49年建立)



■碑にまつわる社会資本整備の概要

香川用水事業(昭和49年通水)

香川用水事業は、吉野川総合開発計画の一環として早明浦ダムで新たに開発された水のうち香川県に配分される分を、池田ダム上流左岸に設けた取水施設で取水し、阿讃山脈を貫通する八キロメートルの導水トンネルにより香川県財田町に導き、ここから東西に伸びる幹線水路で東端は白鳥町宮奥池付近まで(延長七四キロメートル)、西端は豊浜町姥ヶ懐池付近まで(延長一三キロメートル)導水するものである。昭和43年10月に起工式が行われ、昭和48年2月に導水トンネルが貫通、昭和49年5月に香川用水通水式が行われ、昭和50年4月に本格通水が開始された。

(参考文献…四国の建設のあゆみ編集委員会編「四国の建設のあゆみ」一九九〇年)



香川用水取水工(池田ダム)

■ 碑文

四国は一つ	(表)
昭和 49 年春 四国地方開発審議会 会長 中川以良書	(裏)

■ 位置図



徳島県三好市

徳島20 善徳不動之碑（河川、平成元年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

善徳地区の地すべり対策事業（直轄事業は昭和57年度着手）

善徳地すべり地域は、祖谷川の中流部に位置し、善徳・今久保の二区域に分けられる。地すべり防止区域の面積は二二〇、九ヘクタールで、日本でも最大級の破碎帯地すべりである。昭和27年度から徳島県により事業が着手され、昭和34年に地すべり防止区域に指定され、種々の対策が行われてきた。しかし、地すべりによる土砂生産等が治水上に及ぼす影響が大きいこと、地すべりの構造が複雑であることから直轄化が望まれ、昭和57年度からは直轄地すべり対策事業が行われるようになった。

（参考文献：建設省四国地方建設局監修「四国地方建設局三十年史」一九八八年）



善徳から今久保方向

■ 碑文

(表)

善徳
不動之碑
建設省砂防部長
友松靖夫書

(裏)

善徳地すべりは地すべり防止区域面積二百二十一ヘクタールに達する日本でも最大級の破砕帯地すべりである
昭和五十七年度より直轄に編入され六ブロックに別け調査対策工事を実施しているが昭和六十二年八月台風十二号によりZ-2ブロックの地すべりが活発化し人家及び県道が危険な状況となり直轄地すべり対策災害関連緊急事業として抑制工と抑止工を施工しここに事業の完成を記念して本碑を建てた
平成元年十月二十六日
建設省吉野川砂防工事事務所

■ 位置図



徳島県三好市

徳島21 やすらぎの大地碑（河川、平成8年建立）

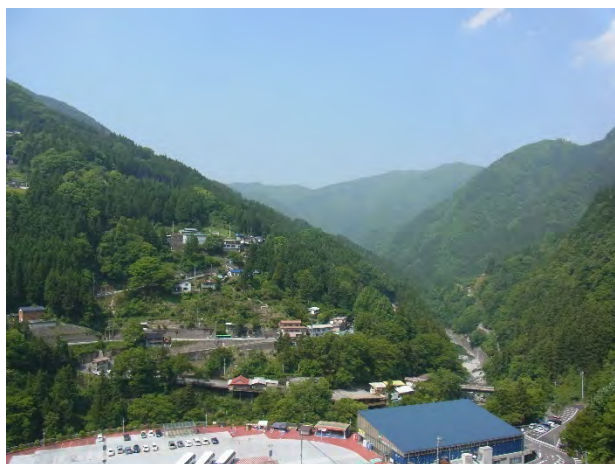


■碑にまつわる社会資本整備の概要

善徳地区直轄地すべり対策災害関連緊急事業（平成8年完成）

平成4年8月の台風九号及び台風十号により、善徳地区のZ-1下部ブロックで地すべり活動が活発化した。現地調査の結果、県道路面の変状や山腹斜面の亀裂・段差が確認され、予想を越える大規模な岩盤地すべりと判断された。このため、建設省吉野川砂防工事事務所では、地すべり活動がより活発化して近隣の人家や河川、観光施設への甚大な被害をもたらすことを防止するため、平成4年12月から災害関連緊急地すべり対策事業に着手した。地すべり対策工として深礎工、アンカー工、集水井工、修景緑化工等を実施し、平成8年3月に完成した。

（参考文献…建設省四国地方建設局吉野川砂防工事事務所編「善徳地すべり」一九九六年）



今久保から善徳方向

■ 碑文

やすらぎの大地	(表)
平成 8 年 7 月	(裏)

■ 位置図



香川県

香川県東かがわ市

香川 1 石引池の香川用水通水碑（用水、昭和55年建立）

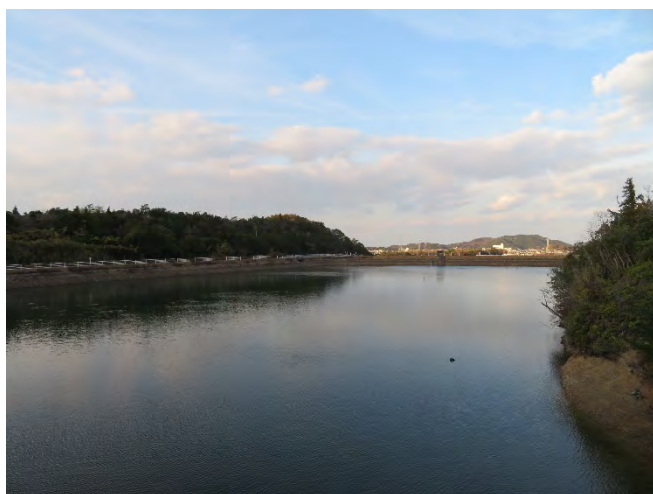


■碑にまつわる社会資本整備の概要

香川用水引田支線工事（昭和55年竣工）

香川用水事業は、早明浦ダムで開発した水を池田ダムで取水し、導水トンネルで財田町へ送り、そこから東西幹線水路で東部は白鳥町の宮奥池、西部は豊浜町の姥ヶ懐池まで導水し、農業用水、都市用水に利用するものである。宮奥池より東側の石引池に至る引田支線水路の工事は昭和52年6月に着工、昭和55年4月に竣工した。その後、引田支線水路は追加され、平成4年度に馬宿川を横断し、保田池、宗極池までの導水が完了した。香川用水が配水され、千足ダム完成と合わせて、引田町の水不足は解消した。

（参考文献…引田町史編さん委員会編「引田町史 近・現代」一九九五年）



石引池

■ 碑文

香川用水通水碑		
位置	引田町吉田石引池	記
工事開始	昭和五十二年六月着工	
工事全長	六、五軒	
通水	昭和五十三年七月二十二日	
年間取水量	九十萬トン	
工事完成	昭和五十五年四月三十日	
総工費	三億壹仟五百萬圓	
吉野川総合開発計画ノ一環トシテ遠ク四国山脈ノ奥深く其処ニ源ヲ 発シタ早明浦ダムヨリ池田ダムニ取水シ阿讃トンネルヲ通り讃岐ノ 東端引田町吉田石引池ニ至リ其ノ水ハ農業用水及ビ上水道用水トシ テ川股浄水場ヘポンプ送水シ引田町ノ水需要ノ安定ヲ図ル 官民 一体ノ努力ト地元住民ノ協力ニヨリ此ノ大事業ヲ成シ遂ゲタコトニ 思ヲ至ストキ満々ト湛ラレタ此ノ水ニ尊キモノヲ学ブコトガ出来ル 幾世紀ニ亘ル水ノ争ノ歴史ノ中デ先人ガ渴望シテ止マナカッタ夢 ガ今此処ニ実現シ感慨無量デアル完工ノ喜ビヲ筆ニ托シテ概要ヲ後 世ヘノ記録トスル		
昭和五十五年四月吉春	引田町長 柏木 甫	
	吉田 自治 会	

■ 位置図



香川県さぬき市

香川 2 軒原庄蔵氏像（みろく自然公園）（ため池、平成2年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

軒原庄蔵と満濃池の修築工事（明治3年完成）

安政元年の地震の影響により満濃池の堤防が決壊して人々は困っていたが、江戸時代から明治時代へと時代が変わるなど世の中が混乱する中で本格的に修理することができずにいた。高松藩は、堤防西隅の岩盤に穴をうがって底ゆるにすることを決め、明治2年に弥勒池で石穴掘り抜きを完成させた実績がある軒原庄蔵に修築工事を依頼した。庄蔵は約五六メートルの石穴をおよそ半年で見事に貫通させた。庄蔵は地元の人から満濃池の恩人としてあがめられ、昭和6年に池の畔の松崎神社に祀られた。没後一〇〇年目の平成2年には、みろく自然公園内に軒原庄蔵の銅像が建立された。

（参考文献…香川県教育会編「さぬき・人・ここにあり」二〇一三年）



満濃池の石造底樋管の標識

軒原庄蔵氏像

(表)

■
碑文

治水の功労者 軒原庄蔵

富田中村の庄屋軒原庄蔵は、水不足に困る弥勒池の貯水増のため、三ツ石山の岩盤を掘りぬき、碎石谷からの導水に成功し多くの農民を救った。

隧道工事は、田面村の工事監督多田信蔵（霞岳）、富田中村の数学者萩原栄次郎等の協力を得て、安政 2 年（1855 年）から安政 4 年にかけて、長さ 105 間（191m）の石穴を貫通させる難工事であった。

この画期的な工事を完成させた功績により、高松藩から郷侍格にとりあげられた。

後、明治 2 年（1869 年）満濃池のゆる石穴工事を命じられ、明治 3 年 30 間余（約 56m）の石穴を完成させ、讃岐の治水に貢献した。このため、満濃池の恩人とあがめられ、満濃池畔の松崎神社に合祀されている。

明治 23 年 63 歳でふる里に没した。

大川町歴史民俗資料館の落成を記念し、その遺徳を顕彰してこれを建立する。

平成 2 年 3 月吉日

大川町

(裏)

■
位置図





■碑にまつわる社会資本整備の概要

新川河川激特事業（平成6年竣工）

昭和62年10月の台風一九号により、新川及びその支流吉田川流域では24時間最大雨量四七五ミリを記録し、三木町及び高松市で約八七〇ヘクタールが浸水し、浸水家屋が四二一六戸に上った。新川では昭和38年度から中小河川改修事業により改修が行われてきたが、この災害を契機に香川県は昭和62年12月に河川激甚災害対策特別緊急事業の採択を受けた。新川河川激特事業は、本川九、〇キロメートルと支川吉田川一、六キロメートルを合わせた総延長約一〇、六キロメートルの区間に對し、築堤三二万立方メートル、護岸二一、二キロメートル、潮止堰一基等の工事を行い、平成6年3月に完了した。

（参考文献…香川県高松土木事務所新川改修事業所編「新川河川激特事業工事誌（昭和62年10月台風）」一九九四年）

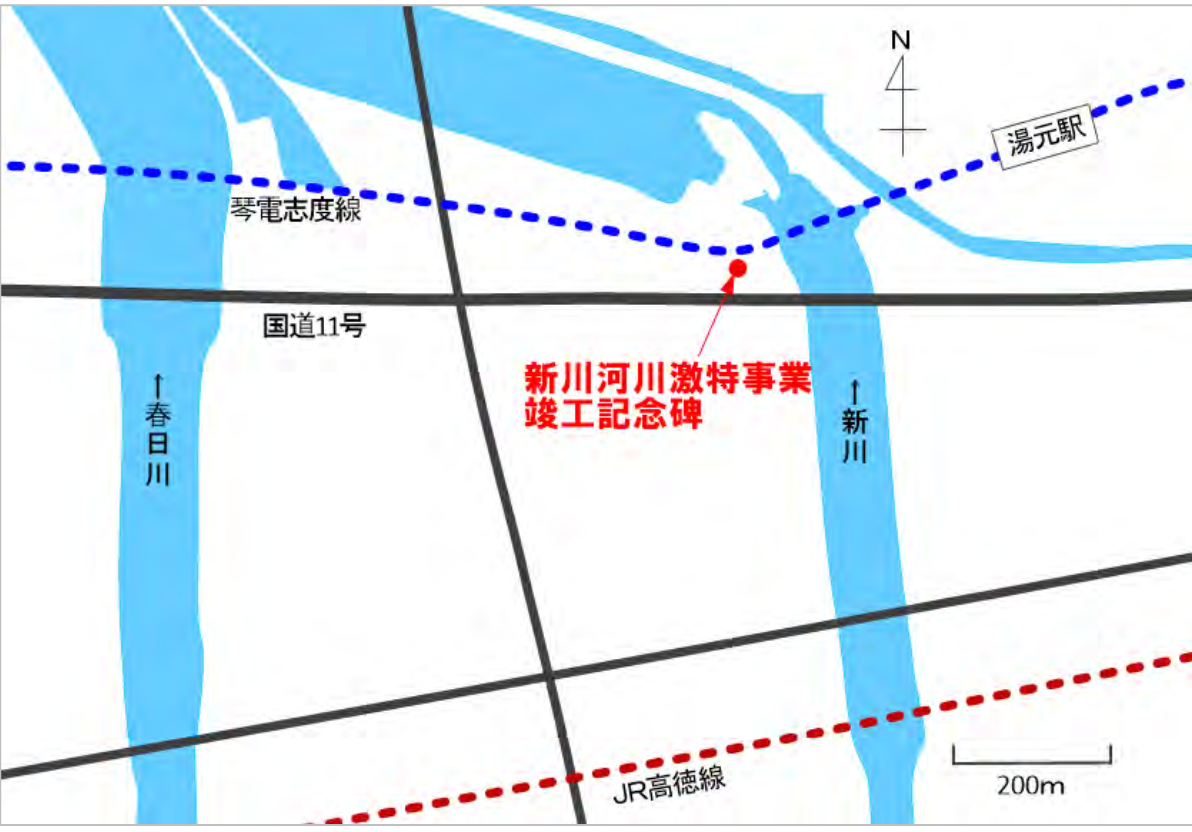


三木町の高野橋から新川下流方向

新川河川激特事業竣工記念碑	
事業概要	昭和 62 年 10 月 16 日夜から 17 日未明、 四国地方を通過した大型台風 19 号は県内全 域に豪雨をもたらし、特に新川水系では 16 日深夜には最大時間雨量 76mm を記録し、17 日未明には連続雨量も 475mm に達した。 新川及び支流吉田川では、数か所破堤溢 水し、高松市春日町、東山崎町、前田西 町、前田東町、亀田町及び木田郡三木町で 870ha にわたって浸水した。浸水家屋は 4200 戸余に及び、農地公共土木施設なども 甚大な被害を受けた。 このため香川県では、河川激甚災害対策 特別緊急事業等により、当該水系において 再びこのような大災害が起きることなく、 安全で快適な生活が確保出来るよう、緊急 かつ大規模な改修工事を行ったものであ る。 ここにこの事業を記し記念の碑を建立す る。 平成 6 年 3 月吉日 新川吉田川沿岸排水対策促進期成会
改修区間	
新川 L=9km (琴電志度線新川橋梁 ～三木町高野橋)	
新川支流吉田川 L=1.6km (合流点 ～高松市小村橋)	
工事概要	
護岸 21.2km	
橋梁 11 橋 (道路橋 9 鉄道橋 2)	
堰 14 基 (取水堰 13 潮止堰 1)	
樋門 10 基 落差工 2 基	
潰地面積 16.9ha	
移転家屋 86 戸	
総事業費	
激特事業費 141 億円 (一般被害総額)	
その他事業費 106 億円	
工事期間 自昭和 63 年 1 月 至平成 6 年 3 月	
事業主体 香川県	

■
碑文

■
位置図





■碑にまつわる社会資本整備の概要

クリエイティブ高松・中央通りプロムナード(国道一一号、三〇号)(平成2年完成)

高松駅前から栗林公園までの二、四キロメートルの区間を快適で美しい中央通りとするため、高松市及び沿線地域の協力を得て昭和60年度に「クリエイティブ高松・中央通りプロムナード計画」が策定された。直轄事業として、電線類の地中化のためのキャブ工事、それに伴う歩道のカラー舗装、装飾照明、植栽帯・標識類の整備、番町地下道の新設を実施し、平成2年に完成した。なお、キャブとは電力、通信などの各種ケーブルを集約して道路と一体的に収納する蓋がけ式のU字構造物である。

(参考文献・四国の建設のあゆみ編纂委員会編「四国の建設のあゆみ」一九九〇年)



高松中央通り

■ 碑文

顕彰碑

建設省は、日本の特色あるすぐれた道路を選定し顕彰することにより、道路に対する関心と道路愛護の精神を高める事を目的に、昭和六一年度、昭和六二年度にわたって「日本の道百選」を選定しましたが、この中に高松市内では比較的大い規格である二十三米、三十六米の幅員を持ち、中央分離帯にはクスノ木が植えられた緑の軸を形成し、優れた都市景観を創りだしている中央通りが「日本の道百選」の一つに選定されました。このたびクリエイティブ高松プロムナード事業の完成に合わせこれを記念し、ここに顕彰碑を建立いたします。

平成二年三月吉日

建設省四国地方建設局

香川工事事務所長

山本隆幸

■ 位置図



香川県高松市

香川 5 クリエイティブ高松・中央通りプロムナード事業記念碑

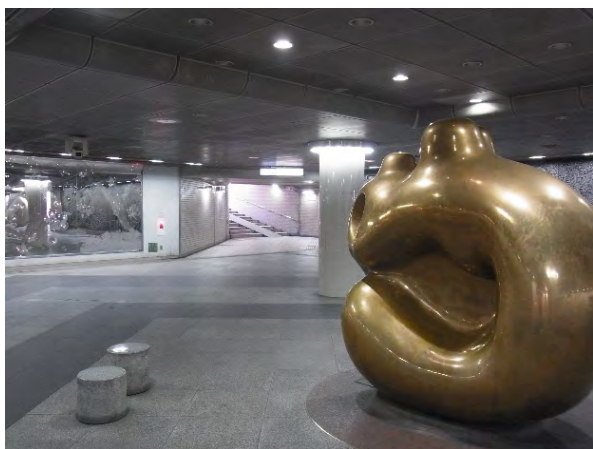
(道路、平成2年建立)



■碑にまつわる社会資本整備の概要

クリエイティブ高松・中央通りプロムナード（国道一一号、三〇号）（平成2年完成）

クリエイティブ高松・中央通りプロムナードは、高松駅と栗林公園を結ぶ南北二、四キロメートル、幅員三六メートルの中央通り（国道一一号、三〇号）で、安全で快適な美しい都市空間の創出を目的として電力、電話等のケーブルの地下化、カラーブロックの歩道、装飾照明及び交差点での地下広場の設置など総合的な整備を行ったものである。番町交差点には約五三〇平方メートルの地下広場がつくられ、地下広場の出入口部には斜路付き階段とともにエレベーターが設置されている。地下広場は「光の広場」と命名され、地上の採光器から運ばれた光が中央のモニメントを照らしている。（参考文献…土木学会中国四国支部編「土木へのいざない」一九九一年）



番町地下道（光の広場）

(左)

(右)

■
碑文

完成記念碑
クリエイティブ高松
中央通りプロムナード事業

ゆとりとうるおい心のある道路環境の形成、バランスがとれた都市景観の整備を進めるため、“クリエイティブ高松・中央通りプロムナード事業”が推進され、ここに完成を迎えたものがあります。

番町地下道（光の広場）及びキャブシステムによる電線類の地中化は、沿道地域の協力のもとに道路空間、沿道空間施設等が総合的に整備されたものであり、特に、規模、施設面に於て全国的に類のない“光の広場”が、広く県民の方々に愛され活用されることを念じ、ここに記念碑を設置するものであります。

平成2年3月吉日

建設省四国地方建設局
香川工事事務所長
山本隆幸

光の広場命名者
(1人の氏名省略)
工事従事者一覧
(52人の氏名省略)

■
位置図



香川県高松市

香川 6 高松港玉藻地区港湾整備事業着工記念碑

(港湾、平成3年建立)



■碑にまつわる社会資本整備の概要

サンポート高松港湾整備事業（平成13年竣工）

香川県では、サンポート高松総合整備事業の一環として、昭和63年2月に高松港港湾計画を改訂し、港湾の再開発に着手した。再開発にあたっては、港と街の機能が一体となった開発を進めるため、全国で初めて臨港地区に都市計画法を重層的に適用した。昭和63年4月に高松港港湾改修事業が採択され、旧連絡船用の泊地約一〇ヘクタールを埋立て、二万トン級の大型旅客船専用岸壁を含めた旅客船埠頭、延長約二キロメートルに及ぶプロムナードを含む港湾緑地や港湾関連事業用地を整備し、平成13年5月に港湾施設の供用を開始した。

（参考文献…香川県土木史編纂委員会編「香川県土木史第Ⅱ巻」二〇〇四年）



大型旅客船岸壁から高松シンボルタワー

■
碑文

礎 石
高松港玉藻地区港湾整備事業着工記念
平成3年9月11日
香川県知事 平井城一

■
位置図





■碑にまつわる社会資本整備の概要

旧高松空港（平成元年廃港）

昭和19年1月から旧陸軍が農地や宅地など約二七〇ヘクタールを買収し、軍用飛行場として建設に着手、同年8月に長さ八〇〇メートル、幅一五メートルの滑走路を完成させた。戦後、連合軍に接収されたが、昭和27年に返還され、昭和30年5月に民間飛行場として供用を開始した。昭和31年に旧高松空港は第二種空港に指定され、昭和33年6月に正式に供用開始となった。空港のジェット化が求められる中、香川県はジェット機が就航可能な空港の整備に向けて空港適地調査を行い、最終的に昭和54年11月に香南地区に候補地が一本化された。平成元年12月に新高松空港が開港し、開港前日に旧高松空港は廃港となった。

（参考文献：新高松空港史編さん委員会編「新高松空港史」一九九二年）



サンメッセ香川（旧高松空港跡地）

■碑文

旧高松空港跡地の碑

ここは昭和の後半から平成の初めまで香川県の空の玄関であった旧高松空港の跡地であるが、旧高松空港の成り立ちは地元との関わりを抜きにしては語ることができない。

太平洋戦争の戦局が激しくなる中、昭和十九年一月二十三日林村に青天の霹靂ともいべき事態が突発した。陸軍省から林村を中心に周辺三町村にまたがる約二百七十ヘクタールに飛行場を建設するとの連絡が入ったのである。時の三宅信夫村長は事の重大さのあまり顔面蒼白、絶句して言葉を失うほどであった。

五日後の二十八日、林小学校講堂に指定区域内の関係者四百余名が集められ土地の買収家屋の移転を正式に要請された。永年住み馴れた土地家屋への愛着、近隣の親しい友との別れ、新しい土地での生活の不安などが心中に激しく交錯し、場内は寂として声もなかった。戦争に勝つためとはいえ、断腸の思いでこれを承諾せざるを得なかった。

昭和十三年には優良町村として内務大臣表彰を受けた林村も、田畑の半分近くを失い、公共建物を含めた二百七十五戸の家屋を一挙に移転するに至っては、まさに崩壊寸前となり、村民の苦悩はその極みに達した。周辺市町村からの勤労奉仕隊の援助を得ながらも、縁故知人を頼って列をなして家財を運ぶ村民の姿は今も脳裏を離れるものではない。移転は四月末までの極めて短期間のうちに完了し、引き続き軍は飛行場の建設に着手した。作業はすべて人力に頼るため一般人はもとより学生・生徒まで連日数千人が勤労奉仕に動員された。夜を日につぐ突貫工事の末、八月には東西滑走路が完成し、九月からは軍用機の飛行訓練が始まった。しかし当初計画されていた南北滑走路は翌年八月の終戦時に至るも遂に完成し得なかった。

戦後、飛行場用地についてはいわゆる飛行場解放運動が行われたが、昭和三十年十二月運輸省高松航空保安事務所長と高井政雄村長との間で

高松飛行場敷地設定についての協定書が交わされ決着をみた。その結果大部分が農地等として売渡し、譲与され、約三十二ヘクタールが飛行場として残されることとなった。

本格的な民間航空による利用は昭和三十年五月の大阪―高松路線の開設にはじまり、昭和三十一年には第二種空港となり、滑走路や通信施設等の整備も順次進められ、香川県の空の玄関として広く県民に親しまれてきたところであるが、平成元年十二月の新しい高松空港の開港に伴い、三十余年に及ぶその使命を終え供用廃止された。

その後、この空港跡地は高松市の中心部近くに位置する立地条件を活かし二十一世紀に向けて香川県の産業の飛躍的發展や文化の振興を図るための拠点とするため、平成二年四月香川県が国から用地を取得し、技術・情報・文化の複合拠点としての「香川インテリジェントパーク」の形成を図るべく、地元の協力の下鋭意整備が進められたところである。

今、空港跡地の開発が進む中、空港の歴史を振り返り碑として後世に残すものである。

平成六年三月

林地区開発協議会



香川県高松市

香川 8 水穂 香川用水善海通水記念碑（用水、昭和51年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

香川町の香川用水（昭和55年完成）

香川用水は、早明浦ダムで開発される水を池田ダムから財田町の東西分水工へ導水し、ここで東部幹線水路と西部幹線水路に分けて県下に農業用水、上水道用水、工業用水として送水するものである。水資源開発公団と農林省が実施し、昭和43年に着工、昭和55年に完了した。香川町には東部幹線が大野地区から浅野地区に約三、四キロメートルにわたって走り、善海、東部幹線、舟岡池、平池の各分水工から農業用水の補給を受けるなどして農地五一三、六ヘクタールが受益している。また、水道用水も県営東部浄水場から香川町上水道が受益している。

（参考文献…香川町誌編集委員会編「香川町誌」一九九三年）



香川用水（高松市香川町大野）

■ 碑文

水 穂 香川 用水 善海通水記念碑	(表)
世話人 県会議員 2 人 (氏名省略) 町会議員 2 人 (氏名省略) 昭和五十一年四月吉日 善海水利組合建之	(裏)

■ 位置図



香川県坂出市

香川 9 番の州高架橋下の慰霊碑（道路・鉄道、昭和63年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

本州四国連絡橋児島～坂出ルート（昭和63年開通）

本州四国連絡橋児島・坂出ルートは、昭和48年10月に工事実施計画の認可を受けたが、石油ショックにより一時延期された。昭和50年8月に児島・坂出ルートを含む「一ルート三橋」の凍結解除が決定された。児島・坂出ルートは、道路と鉄道からなり、道路は早島IC～坂出IC間三七、三キロメートル、鉄道は茶屋町駅～宇多津駅間三二、四キロメートルである。途中の海峡部を含む区間一三、一キロメートルは、上が道路、下が鉄道の共用部となっている。児島・坂出ルートは昭和53年10月に起工し、昭和63年4月に道路、鉄道とも供用された。

（参考文献…本州四国連絡橋史編さん委員会編「本州四国連絡橋公団三十年史」二〇〇〇年）



聖通寺山山頂展望台から番の州高架橋

慰 靈

(表)

本州四国連絡橋公団
第二建設局

昭和六十三年三月

(裏)

■
碑文



■
位置図

香川県坂出市

香川 10 瀬戸大橋竣工記念碑(常盤公園) (道路・鉄道、昭和63年建立)



■碑にまつわる社会資本整備の概要

瀬戸大橋(昭和63年開通)

瀬戸大橋は本州四国連絡橋児島～坂出ルートの道路と鉄道の併用橋である。瀬戸大橋は昭和48年11月に着工予定であったが、オイルショックにより延期になり、昭和53年10月に着工された。その後、水中発破、設置ケーソン工法、緩衝桁軌道伸縮装置など数々の新工法を開発するなどして難工事を克服し、着工以来九年半の歳月と一兆一三〇〇億円(計画ベース)の費用をかけて、瀬戸大橋は昭和63年4月に開通した。

(参考文献…香川県土木史編纂委員会編「香川県土木史 第Ⅱ巻」二〇〇四年)



瀬戸大橋記念公園から瀬戸大橋

■ 碑文

瀬戸大橋竣工記念碑

瀬戸大橋竣工を記念して
人々は、一世紀もの永い間、瀬戸内の海に橋を架けることを夢みてきた。そして人々は、このとてつもない大きな夢に挑戦し、遂にその夢を現実のものとした。

瀬戸大橋は、多くの人々の限りない情熱と、最高の英知と、汗にまみれた努力を積み重ね、長い長い試練の歳月を経て、ここに輝かしく完成したのである。

いよいよ瀬戸大橋新時代の幕明けである。瀬戸大橋は、人と人、地域と地域を結びつけ、多くの幸せを運んでくれるに違いない。

蒼い海と、島々の緑に融け込んだライトグレイの壮大な橋の姿は、往き交う人々に、又新しい夢、新しいロマンを呼び寄せてくれるであろう。坂出市瀬戸大橋架橋工事促進協力は、十年にわたる架橋工事に全員が一丸となって協力し、この大工事にかかわってきた。いよいよ歴史にも燦然と光り輝く世紀の大橋の開通の日を迎え、この大事業に参加した大きな誇りと、深い感動に胸震える想いである。この佳き日を記念して、ここに全員の名を刻し、永くこの喜びを残し伝えたい。

瀬戸大橋新時代の限りなき発展を祈りつつ。

昭和六十三年四月十日

坂出市瀬戸大橋架橋工事促進協力会

会長 中村勝敏

撰文 草薙 繁

■ 位置図



香川県坂出市

香川 11 大久保謙之丞像（瀬戸大橋記念公園）（道路）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

大久保謙之丞と瀬戸大橋（昭和63年開通）

四国と本州を橋で結ぶ構想を最初に打ち出したのは、香川県の県会議員大久保謙之丞である。明治22年（一八八九）に讃岐鉄道の丸亀〜多度津〜琴平の開通祝賀会で、大久保は「塩飽諸島ヲ橋台トナシ山陽鉄道ニ架橋連絡セシメナバ常ニ風波ノ憂ヒナク午時ニ瀬戸ノ釣ヲ垂レタニ敦賀ノ納涼ヲ得ル実ニ南来北行東奔西走瞬時ヲ費サズ其国利民福是ヨリ大ナルハ莫シ」と挨拶していた。大久保の提唱から約一〇〇年後の昭和63年（一九八八）に瀬戸大橋が開通し、四国と本州が橋で結ばれた。

（参考文献…瀬戸大橋架橋史編さん委員会編「瀬戸大橋架橋史 通史・資料編」一九八九年）



四国と本州を結ぶ瀬戸大橋（青の山中腹より）

■ 碑文

瀬戸大橋の最初の提唱者

大久保謙之丞

(嘉永二年八月十六日〜明治二十四年十二月十四日)

この像は元々、仲南町立仲南西小学校の校庭にあったものを
小学校の廃校に伴い、地元の「厚意により、この地に移転したもので
す。

台座には、彼の代表的な歌が二首、刻まれています。

「わがものの人のものと云うもののものは世間のもののものなり」

「笑わしやんすな百年先は 財田の山から川舟出して 月の世界へ往来
する」

これらの歌には社会のために無私を貫き、

長い時間軸と広い空間軸で物事を考えた彼の面目が躍如しています。

■ 位置図



香川県宇多津町

香川 12 新宇多津都市の原形宇多津塩田の碑

(市街地開発、平成3年建立)



■碑にまつわる社会資本整備の概要

新宇多津都市の建設（平成3年竣工）

新宇多津都市は、瀬戸大橋の効果を受けとめる中讃都市圏の中核都市づくりとして、昭和53年6月から旧塩田跡地で整備が進められた。この事業は、瀬戸大橋の関連プロジェクトである鉄道電化・高架化、臨海産業道路（さぬき浜街道）の整備、香川県瀬戸大橋流通センターなどの一環としてスタートしたもので、香川県、宇多津町、地域振興整備公団が一体となって事業にあたった。平成2年度に総面積一八六ヘクタールの大規模造成工事が完了し、平成3年7月には市街地の核となる企業誘致・施設誘致も完了、平成3年11月に事業竣工式を行った。宇多津町では、塩づくりの歴史を後世に伝えるため、臨海公園に産業資料館と復元塩田をつくった。（参考文献…地域振興整備公団新宇多津都市開発事務所編「未来へ翔くターミナルシティ 新宇多津都市開発整備事業記録写真集」一九九二年）



宇多津臨海公園の復元塩田

(表)

(裏)

新宇多津都市の原形宇多津塩田の碑

宇多津塩田土地区画整理事業完成記念碑

昭和四十六年十二月宇多津塩田一〇四塩戸、一五六・七ヘクタールは塩業の整備及び近代化の促進に関する臨時措置法により廃止された。その後昭和五十二年十二月苦難の末漸く宇多津町施行宇多津塩田土地区画整理の事業計画が決定され、昭和五十四年度工事に着手した。事業計画区域は大東川以西の塩田及び入川・宇多津港・鉄道用地その他を含む面積一八六・三ヘクタールであつて地権者は塩業者等三百余名である。塩田土地埋立は漁業権にかかる海面浚渫土及び陸上よりの山土、その土量七四〇万立方メートル及び全容量は宇多津の角山の約二分の一に相あたる。なお百年を見越した公園、道路等公共施設の完備により平均減歩率は四一パーセントであり可成り高いものとなっている。当区域は多年念願の瀬戸大橋架橋に伴う本四備讃線の乗入れとJR予讃本線の付替により宇多津駅が移転拡充され四国の交通拠点として、その発展が期待されている。

国・県・宇多津町並びに地域振興整備公団の総合計画に基づき土地利用の方針及び各種公共施設が立案され、四国の玄関口に即応する新都市の整備事業が施行された。事業開始以来十六年の長い年月にわたり、多数地権者並びに地元各位の協力支援によって宇多津塩田区画整理事業は完成の域に達し、宇多津町の活性・熟成化が図られている。

なお一つには、我が郷土を愛する大平内閣総理大臣の蔭の力による大きい恩恵が追懐される。ここに国・県・宇多津町及び地域振興整備公団に対し深甚の謝意を表すると共に関係地権者及び地元各位の協力支援に厚くお禮を申上げる。旧塩業者一同、新宇多

津都市の完成にあたり一層の発展を冀念して、ここに完成記念碑を建立する。

平成三年四月吉日

宇多津塩田土地区画整理事業完成記念碑建立世話人会

世話人代表 (3人の氏名省略)

世話人 (17人の氏名省略)

設計監理 (法人代表の氏名省略)

記念碑製作 (法人代表の氏名省略)

土木工事一式 (法人代表の氏名省略)

■位置図



香川県宇多津町

香川 13 宇多津塩田土地区画整理事業竣工記念碑

(市街地開発、平成4年建立)



■碑にまつわる社会資本整備の概要

宇多津塩田土地区画整理事業（平成4年竣工）

昭和47年の製塩業の廃止により宇多津町には塩田跡地が残された。宇多津町では、四国の玄関口にふさわしい都市開発と健全な市街地の造成を目的として、地権者約三〇〇人、一八六、三ヘクタールの塩田跡地を、地域振興整備公団と香川県の技術的・財政的援助を得ながら土地区画整理事業の手法で開発した。宇多津塩田土地区画整理事業は、昭和52年12月の事業着工から一四年の歳月をかけて都市基盤施設の整備と住宅地の形成を行い、平成4年1月に土地区画整理事業の最終段階である換地処分を行った。

(参考文献…香川県土木史編纂委員会編「香川県土木史 第Ⅱ巻」二〇〇四年)



青の山山頂展望台から宇多津新都市をのぞむ

■ 碑文

(表)

宇多津塩田土地区画整理事業
竣工記念碑
宇多津町

(裏)

事業名 香川中央都市計画事業 宇多津塩田土地区画整理事業
事業期間 昭和五十二年十二月～平成四年三月
事業面積 一八六・三ヘクタール
事業費 二二三億円

本事業は、二十一世紀に向けて香川の中核都市として、さらに、瀬戸大橋の四国側の玄関口にふさわしい住みよい新都市を形成すべく、宇多津塩田跡地を主体に造成し、都市基盤の整備を図るよう計画されたものであります。

事業実施にあたっては、国、地域振興整備公団、香川県並びに、地元関係者等の多大なご支援、ご協力のもとに、ここにめでたく竣工の運びとなりました。

本事業地区が、香川の中核都市として地域の経済、文化の発展に寄与することを願うものであります。

宇多津町

(町長など5人の氏名省略)

宇多津町議会

(議長など10人の氏名省略)

このモニュメントは、宇多津町の自然と歴史と未来をイメージして、瀬戸内海のような穏やかで伸びやかそしてやすらぎのある形を表現したものです。

竣工記念碑制作者 塩田繚麻

平成四年三月吉日 宇多津町

■ 位置図



香川県多度津町

香川 14 四国鉄道発祥の地碑（多度津駅）（鉄道、平成元年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

讃岐鉄道丸亀～多度津～琴平間（明治22年開通）

多度津の廻船問屋の景山甚右衛門は上京した時に新橋～横浜間を走る汽車に注目し、金刀比羅宮参拝の鉄道の開設を決意した。景山甚右衛門らは明治20年5月に私設鉄道願を愛媛県知事に上申、知事から政府に提出され、明治21年2月に本免許が下付された。同年4月に讃岐鉄道株式会社により起工式が行われ、多度津を起点として琴平、丸亀の二方面に向けて工事が進められた。人力車夫や馬方、琴平の旅館組合・土産物業者、沿線の農民などの反対もあったが、着工以来約一年で完工し、明治22年5月に丸亀～多度津～琴平間一五、五キロメートルを開業した。

（参考文献…多度津町誌編集委員会編「多度津町誌」一九九〇年）



四国鉄道発祥の地（多度津駅）

四国鉄道発祥の地

明治 22 年 5 月 23 日讃岐鉄道株式会社が多度津を起点に丸亀～琴平間（15.5 キロメートル）で営業を始めたのが当社の鉄道の始まりです。

そのころの多度津駅は、この地点より西へ約 1 キロメートル（仲多度郡多度津町大通り、ＪＲ多度津工場の西側）の所にありました。

その後、大正 2 年 12 月には、多度津駅を予讃線と土讃線の分岐駅として現在の位置に新築移転しました。

当時の多度津は、讃岐随一の交通文化の中心地として栄え、大正 2 年には、文豪志賀直哉の小説「暗夜行路」の主人公謙作も、尾道から船で多度津に上陸、ここから汽車に乗って金刀比羅参りをしています。

明治 22 年の開業式の祝辞で、財田村出身の県会議員、大久保謙之丞が「塩飽諸島ヲ橋台トシテ架橋連絡セシメバ、常ニ風波ノ憂イナク、南来北行東奔西走瞬時ヲ費ヤサズ、ソレ国利民福コレヨリ大ナルハナシ。」と挨拶し、瀬戸大橋架橋を提唱しました。以来四国島民の夢であった瀬戸大橋は、約 1 世紀を経た昭和 63 年 4 月 10 日開通しました。

ここに展示してある車輪は、昭和 10 年から 42 年ころまで、四国の山野をかけめぐった、おなじみの 8620 形蒸気機関車の動輪です。鉄道開業 80 周年に際して、発祥の地（旧多度津駅跡）に建立していたものを、100 周年を記念してこの地に移転し、永久保存をはかります。

平成元年 5 月 23 日

四国旅客鉄道株式会社



香川県琴平町

香川 15 大久保謙之丞命像(琴平公園) (道路)



■碑にまつわる社会資本整備の概要

四国新道(明治27年完成)

四国新道の路線ルートは、丸亀、多度津、善通寺、琴平から阿波池田を経て高知、須崎に達し、さらに佐川、松山、三津浜と連なる四国全県にまたがる幹線道路である。大久保謙之丞は四国新道に深い関心を持ち、計画を立て、世論に訴え、賛同者を集めると、自費を注ぎ込んで測量等の準備作業を進め、県外の有志とも協力して中央官庁の支持を求めるなどして、明治19年2月に工事が開始されることになった。未だ鉄道も自動車もなく、ほとんど人馬の交通程度であった当時に、ほぼ幅員九メートル余り、総延長二八〇キロメートルの四国新道が明治27年に完成した。

(参考文献…香川県編「香川県史 第五巻通史編近代Ⅰ」一九八七年)



大久保謙之丞命像の側碑(琴平公園)

■碑文

(像)

四国開発の道路建設等
明治の大先覚者
大久保謹之丞命像

(側碑)

大久保謹之丞は 嘉永二年（一八四九年）三野郡財田上ノ村に生まれ 四国新道 讃岐鉄道 多度津港改築 北海道開拓移住等の多くの公益事業に参画し 四国の発展に大きく貢献した

特に丸亀から多度津 阿波池田を経て高知さらに松山に至る四国新道は 謹之丞の奔走によって明治十九年（一八八六年）着工にこぎつけ 途中多額の予算超過により工事の継続が困難になった際 彼みずから新道工事請負人となり苦心経営の結果 明治二十三年（一八九〇年）讃岐新道分（丸亀 多度津く猪ノ鼻峠間）を完成させた この讃岐新道は 将来の交通量の増加を予想して 多度津港から十郷村字坪ノ内まで 当時としては非常に広い道中四間に並木敷を両側に設けて七間巾にしたこと 金蔵寺から琴平まで約七キロメートルを一直線の道路にしたこと等 すぐれた特徴をもっている

謹之丞は また 猪ノ鼻峠に隧道を掘り 吉野川に注ぐ伊予川から水路を引き 西讃一帯の灌漑用水を供給する計画を提唱したり 塩飽諸島を橋台として本州との間に橋を架けるといふ まさに現在の瀬戸大橋の構想を披瀝する等時代にさきがけた着想の持ち主でもあった

彼は 明治二十四年（一八九一年）香川県会で討議中四十二歳の若さで他界したが 郷土発展のために何よりも道路の整備をと説き献身した功績は偉大である

■位置図



香川県まんのう町

香川 16 真野池記碑（ため池、明治8年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

明治3年の満濃池の改修（明治3年竣工）

満濃池は安政元年（一八五四）6月の地震で地盤が緩んだためか、普請工事のためか、水漏れが発生して同年7月に決壊した。榎井村百姓総代の長谷川佐太郎が慶応4年（一八六八）に政府に満濃池再築の嘆願書を提出したところ、政府より倉敷県が許しを受けて高松藩、丸亀藩、多度津藩の三藩に対して満濃池改築を働きかけることになったが、三藩の意見は一致しなかった。佐太郎が私財を投じて各藩の間を斡旋、奔走した結果、明治2年9月に石穴掘削の工事が着手されることになった。工事は高松藩執政・松崎洪右衛門の意見により堤防西隅の岩盤に穴をうがって底ゆるにすることとし、明治3年3月に石穴が貫通、同年6月に築堤が完成した。（参考文献…満濃池土地改良区「満濃池史 満濃池土地改良区五十周年記念誌」二〇〇一年）



満濃池

真野池記

碑文

弘仁八年旱自四月抵八月郡縣奏之僧空海舊蹟也干時京寓十二丑三月命於是乃甘臨民
子來七月乙巳成靈汪元曆元五月朔洪渰滔天破堤而謂池內村寬永三夏九十五日不雨生
駒高俊臣西嶋之尤詢度之五歲創貴鍾八辛未果編戶歛賞文化十季文為猪辰豹變水晞之
謾難啻後畚役先冠攘丁械換五表培克駢羅□集上下交征利讚汙瘠有信直者厭夥耗訴請
官以庵治石疊方欲傳無疆嘉永二秋終始明春半濟同五繼築頻崩潰至七寅春稍畢苟以石
翕之不能釘用膏庸水候雷流并登潛□洞出而樋外漫滑布護豈圖同自七月五日格九日肆
決渫漑下大殘害黎首號泣荒疇信直輾轉反側將再封因九合三藩丸龜多度津失三為乖戾
故未移決辰為赤地筮涌氣浚井設樺夙夜繙挽妻夫汲々老稚配分炎熱如燃汗如沸希水體
疲渴望洽祈雨燎炬奉百神偶甘露堪憐田如鰓口剖然則何益矣慶應二八月七日蕩々森漫
懷山囊丘琴平屋橋落雨町暴漲老弱男女□啖泣血漣如溺叵計家財大木泛々脉連與北邨
旋陀羅鳩漂潦越市鄉為空動浩魃淺襲穀深為赭埵允巨圯莫比農商欸殫不遑書契焉明々
源賴總朝臣在屯之□九陽德彌玄黃元々如父母思服如衆星共之三田深田木崎障溜三新
池且欲使萬湖穿岩壁先寒川郡使彌勒沼試可最元吉松崎祐敏慨然以一手欲經營之遭戎
來愈勞劬十七曆明治二九月谷本信誼督堯罕工既成者翌稔也壬申大膜源泉混々拜穗之
瑞敞閑復蘇踊躍不焉余環匝徹徹塞尾張有入鹿池泐波及八万石云雖然槭漫吐緒同州甲
費也如十市者天下一懸高五万石寶磐石防聊數十間双沃歐曷昔空海不究勲天平命乎君
德乎悠遠省國徭實鴻恩均乾坤公俊德尖被六合嗚呼可謂累緒不朽神功者也矣

千秋來曆萬濃池為野為原嘉永時百姓傷心將廿載天成磐寶不窮乖

鳳鳥翱東海雖離万里鳴仁人民父母親去子何行

真野乃池者池之大王動無石槭尔早流水能白幢

明治八年歲次乙亥秋九月 矢原正敬撰兼題額男正照書并建

位置図



■碑文の解釈

弘仁八年（八一七）の旱ばつは四月から八月まで続き、仲多度郡庁では朝廷にこれを奏上した。よって池を築いたのは僧空海の旧蹟である。時に彼は都に住んでいたが三月にこの命令を受け満足して人民たちと接した。人々は子が親を慕うようにすること七か月、弘仁十二年（八二二）にりつばな池を竣工した。

元暦元年（一一八四）五月一日に大洪水があつて天まで水が届き、堤は破壊された。したがってこの地を池内と言う。

寛永三年（一六二六）夏、九十五日間雨が降らない。丸亀城主生駒高俊は家来の西嶋之尤と相談すること五年にしてりつばな池を創作し、辛末には新しく戸籍を作る。民は治世を賞賛した。

文化十年（一八一三）は旱ばつと洪水とが急激に変化する恐ろしい災難の年であつた。もつこで土を運ぶか運ばない中に土が削り取られて流されてしまう。池の配水口の所に五基の功績を表わした碑を誇らしげに建てても、集まる人々は上下こもごも利益を取得するに一生懸命であり修復にまじめに努力する者は体力をおびただしく消耗するので、改修を官に請願した。そこで庵治石を畳のように敷き詰めようと努力した。

嘉永二年（一八四九）秋より始めて来春の半ばに休む。これを繰り返して嘉永五年（一八五二）まで続行したが、七度崩壊した。正月には遂に石で造ることにした。石を合わすために釘を用いることができず、かつては配水口に敷き瓦を並べたり、樋の外側が滑らないように布で護ったりした。が、七月五日から九日にこの装置が水で洗われ、ぶつつかり合つて池の水が大流出し、下流に大きな被害をもたらした。人民たちは泣き叫び、田畑は荒れ、転々と寝返りをうって転げ回り、安んじて生活ができない。今まで統治の行き届いていた丸亀・多度津など三藩は三つとも水害によつてしいたげられた。ため池に水を貯めることなく、樋を造り、井戸をさらえて朝早くから夜遅くまで夫や妻はただきゅうきゅうとつるべで水を汲む。老人や子供は暑い中で

汗を流し、また雨が降るようにたくさん神々に明々と燈明をあげ雨乞いをしている。神も憐んで鰐口から流れ出るように大雨が降った。しかし益はなかった。

慶応二年（一八六六）八月七日滔々と流れ漫々と湛えられた水は山を包み丘に登り、琴平屋橋落雨町に氾濫し老若男女は泣き叫び、血を流し溺れる人の数を知らない。また大木も浮かび連なつて流れて行く。洪水は村々に拡がつて穀物を襲い土橋を越えて流れて行く。

時に源頼総朝臣がこの地に任ぜられており、人の行ふべき九つの徳を備え民衆から子の父母を慕うが如く心服されていた。特に三田と深田と木崎の三箇所取水堰を新に造った。また池の配水口のため岩盤に穴をあける計画をし、寒川郡の弥勒沼で試すことになった。

松崎祐敏は世を憂い嘆き、自分ひとりでの難事業に挑んだ。苦労は十七年間続き、明治二年九月谷本信誼の監督のもとに壬申完成し、混々と流れ出る水は稲田を蘇生させた。私が池の周囲を見回つて見るに高々と水門の装置が見える。尾張の国に入鹿池という八万石懸りの池があるというけれども、この十千池（とおちのいけ）ともいう万農池は池懸り五万石で配水口は岩盤を穿ち、石が堤防数十間に敷き詰められ肥沃な土地を造る日本一の池である。

昔の空海が勲を独占せずに天が君の徳に応じて与えたものである。悠然として国の土木工事に従事したことは天地の深い恵みと貴公の高い徳によるものであつて、全世界に神の功績として不朽である。

千年来の万濃池を野のため原のために、また清き水思ふ百姓の心になりて二十年の長き間岩盤を穿ち続けたことよ。

おほとりのひなを離れて万里の空を天翔る如く人民の父母と慕いし徳高きあなたは今何処に行かれる。

真野池は池の大王なり、岩盤に流れ走る水は白き大のぼりなり。

（香川県農林部編集「讃岐農林業の石碑」より）

香川県まんのう町

香川 17 松坡長谷川翁功德之碑（ため池、明治29年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

長谷川佐太郎と明治3年の満濃池の改修（明治3年竣工）

安政元年（一八五四）7月に満濃池の堤防が決壊して以来、幕府領の榎井・五条・苗田の三村（現琴平町）では用水の手当がななく、植え付けに困窮していた。榎井村百姓総代の長谷川佐太郎が、慶応4年（一八六八）政府に満濃池再築の嘆願書を提出したところ、政府より倉敷県が許しを受けて高松藩、丸亀藩、多度津藩の三藩に対して満濃池改築を働きかけることになったが、三藩の意見は一致しなかった。佐太郎が各藩の間を斡旋、奔走した結果、明治2年9月に石穴掘削の工事が始まり、明治3年3月に石穴が貫通、6月に築堤が完成した。満濃池は破堤から16年目に甦った。満濃池改修に私財一万数千円を投じていた佐太郎は、大正4年に満濃池のほとりにある神野神社境内の松崎神社に合祀された。

（参考文献…満濃池土地改良区「満濃池史 満濃池土地改良区五十周年記念誌」二〇〇一年）



神野神社から満濃池をのぞむ

從一位勲一等候爵山縣有朋篆額

松坡 長谷 川翁 功德 之碑

志於道據於德依於仁遊於藝蓋長谷川翁之謂也翁名信之字忠卿號松坡稱佐太郎讚岐那珂郡榎井村豪農考諱和信妣為光氏翁為人溫良有義氣好救人急夙憂王室式微與日柳燕石美馬君田等協力廣交天下士松本謙三郎藤本津之助久阪義助等先後來議事文久三年有大和之拳翁與燕石整軍資將赴援聞事敗不果桂小五郎來多度津翁延之姻家密議徹夜高杉晋作韜迹來投翁與燕石君田等庇護具至既而事覺逮捕甚急使晋作揮去燕石君田下獄翁幸得免竊扶助兩家族及王政中與翁至京都知友多列顯職勸翁仕官翁固辭而素志專在修滿濃池池為國中第一巨浸自古施木閘每卅歲改造為例嘉永中變例置雜石作堰浸漏生寶水勢蕩蕩決裂堤防漂沒口舍人畜巨數十村田疇率付荒蕪爾來十四年旱澇臻萬民不聊生翁慨然計畫修治屢上書切請明治三年正月得免起工高松藩松崎佐敏倉敷縣大參事島田泰夫等克輔翁志五閘月告竣單工十四萬四千九百九十六人荒蕪忽化良田黎民勸農五稼均登藩侯賞翁功許稱姓帶刀且賜米若干苞翁撰為區長後為滿濃池神野神社神官廿七年叙正七位翁多年盡瘁國事頗傾儲蓄且修滿濃池蕩盡家產遂為無一物亦踴躍焉洋洋焉縱心所之樂書畫好俳句不敢以得襄介意尚聞義則趨聞仁則起可謂偉矣廿八年滿濃池水利組合贈有功紀念章於翁且為翁開賀宴會者三百五十餘人寄詩歌連俳頌翁德者亦無口廿九年十一月朝廷賞翁功賜藍綬褒章及金五拾圓云鄉人感懷仁慕義胥謀建碑請文予乃序繫以辭

大寶始築萬濃池 弘仁奉勅空海治 寬永補修雖稍整
嘉永置石累卵危 安政蟻穴千丈破 慶應早潦萬家飢
松坡老叟振袂起 豈為國土惜家貲 覃懷底績農林野
承前善後策無遺 曾悼亡友營祠宇 趨義詎肯畏嫌疑
去富居貧率天性 蓋忠報國心所期 不俟臚傳遭顯達
由來天爵大宗師

明治廿九年 從二位勲二等子爵品川彌二郎撰

衣笠豪谷書

(下の解説文)

松坡長谷川翁功德之碑

長谷川佐太郎は松坡と号し幕末から明治にかけて満濃池の再築に家財を傾けて尽力した人である

榎井村の豪農の家に生まれ勤王の志士日柳燕石と交流し 事変に追われた高杉晋作を自宅にかくまうなど幕末には勤王運動にも挺身している

一方安政元年に決壊した満濃池は その水掛かりが高松 丸亀 多度津の三藩にまたがり一部に天領も含まれていた このため復旧には各藩の合意を必要としたが意見の一致を見ないまま十六年のあいだ放置されていた この間長谷川佐太郎は満濃池の復旧を訴えて 倉敷代官所や各藩の間を奔走するが目的を果たせないままやがて幕府は崩壊する

彼は好機到来とばかり勤王の同志を頼って上京し維新政府に百姓たちの苦難を切々と訴え早期復旧の嘆願書を提出した

この陳情が功を奏し高松藩の執政松崎澁右衛門の強力な支援のもとに明治二年着工にこぎつけ同三年に竣工した この間彼は一万二千両にも及ぶ私財を投入し晩年には家屋敷も失い清貧に甘んじている

この碑は彼の功績を称え 明治の元勲山縣有朋が題字 品川弥次郎が撰文したものである

扇山書

■碑文の解釈

志は道により徳は仁において遊は芸による長谷川翁の名は信之字は忠卿号は松坂佐太郎と称す讃岐那珂郡榎井村の豪農であるいみ名は和信母は為光氏翁人となり温良義氣ありよく人の危急を救う夙に王室の衰微を憂い日柳燕石美馬君田等と協力広く天下の士と交る松本謙三郎藤本津之助久坂義助ら先後して来り事を議す文久三年大和の義挙あるや燕石と共に軍資を整えまさに助けに赴かんとして事敗れしを聞き果たさず桂小五郎多度津に来る翁これを親戚の家に迎えて徹宵密議する高杉晋作逃れて来り翁燕石君田らと疵護す既に事発覚し逮捕急なり晋作逃亡するも燕石君田は捕えられ下獄す翁幸に逮捕をまぬかれひそかに両家族を扶助す王政中興に及び翁京都に上る知友多く頭職に列しあり翁に仕官をすすむ翁固辞して帰る素志は満濃池の修築にあった池は國中第一の大池であつたため木製の樋閘は三十年に一回改造しなければならなかつた嘉永中雑石で堰堤を疊んだので浸漏水を生じ宝永の時勢を増して堤防が決裂し民家人畜の漂没するもの数十村に及び田畑は荒れるに任かせた以来十四年早に水なく作物はできず万民生色なしであつた翁慨然として修治を計画ししばしば上書請願した明治三年正月免許起工高松藩松崎佐敏倉敷県大参事島田泰夫等よく翁の志を助けて五か月竣工人夫十四万四千九百九十六人荒地は良田と化し零細な農民は農に励み五穀等しく稔る藩大に欣び翁の功績を賞し姓を与え帯刀を許し且つ賜米若干包をもつてした翁撰ばれて区長となり後満濃池神野神社の神官となる廿七年正七位に叙せられる翁多年国事に尽瘁し貯蓄を傾けて満濃池を修築して家産をなくし無一物となるとも一人静に心に従つて書画を楽しみ俳句を好むなど貧乏を意に介さなかつたまた義におもむき仁に立つなど偉大といふべきである廿八年満濃池水利組合は有功記念賞を贈り翁のため祝賀会を開くや来会者三百五十人詩歌をよせて翁の徳を讃えた廿九年十一月朝廷翁の功を賞し藍綬褒賞および金五十円を賜う郷人大いに翁の義を慕い建碑を相謀り予に請文する

(香川県農林部編集「讃岐農林業の石碑」より)

■位置図



香川県まんのう町

香川 18 松崎洪右衛門辞世の歌碑（ため池）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

松崎洪右衛門と明治3年の満濃池の改修（明治3年竣工）

榎井村百姓総代の長谷川佐太郎が慶応4年（一八六八）に政府に満濃池再築の嘆願書を提出したが、関係する高松藩、丸亀藩、多度津藩の合意を得ることはできなかった。満濃池を視察した高松藩の執政・松崎洪右衛門は堤防西隅の岩盤に穴をうがって底ゆるにすることを主張し、工事は高松藩が主となり、丸亀藩が協力して進められることになった。勤皇家の洪右衛門は工事着手前に高松藩の城内で守旧派により謀殺されたが、満濃池の改修工事は明治2年9月に着手、明治3年6月に竣工した。洪右衛門は満濃池のほとりにある神野神社境内の松崎神社に祀られている。

（参考文献…満濃池土地改良区「満濃池史 満濃池土地改良区五十周年記念誌」二〇〇一年）



神野神社

■ 碑文

君の為
國のためには
惜し
からじ
仇に散り
なん
命なり
せば
澁右衛門

松崎澁右衛門辞世の歌碑

松崎澁右衛門佐敏は高松藩尊王派の藩士で榎井村勤王の志士日柳燕石とも交流があり幕末には入獄の憂き目にあっている明治維新により出獄し藩の家老職となり農政長をつとめた

ときに満濃池は安政元年に決壊したまま放置され旧のめどが立たなかった 彼は榎井村の勤王家長谷川佐太郎の要請を受け丸亀多度津藩や倉敷県の間を奔走して藩論をまとめ明治二年着工にこぎつけた このとき松崎は自ら満濃池の現地を視察し従来の木造底樋管に代えて岩山を石穴で貫く画期的な工法を実現させている満濃池の用水は現在もこのトンネルを通じて配水されている

彼は満濃池の完成を見ないまま明治二年九月八日高松城内桜の馬場で旧佐幕派集団に謀殺され四十三歳の生涯を終えたがかねて覚悟の辞世を常に用意していたという

君の為国の為には惜しからじ
仇に散りなん命なりせば

註 この歌碑は松崎澁右衛門の末孫松崎正照氏の自宅高松市片原町に建立されていたが片原町再開発事業により移転を余儀なくされ満濃池土地改良区が寄贈を受けたものである

■ 位置図



香川県まんのう町

香川 19 満濃池配水塔碑（ため池）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

満濃池の配水塔の建設（大正3年竣工）

大正2年に満濃池普通水利組合の管理者であった仲多度郡長の乾貢は、旧態依然の取水施設を視察し、前任地愛知県の入鹿池の取水塔方式を提案した。組合内部では旧来の水利慣行が損なわれるとの懸念があつたが、従来の水利慣行を存続する条件で配水塔の建設が議決された。工事は大正3年9月起工し、同年11月に竣工した。配水塔は全高一九、七メートル、円筒形の基底部の径七、三メートル、上部径四、六メートルであつた。当時はコンクリートやモルタル煉瓦積みが珍しく、取水塔に鉄管を配置し、バルブ操作で配水するなど画期的な設備であつた。

（参考文献…満濃池土地改良区「満濃池史 満濃池土地改良区五十周年記念誌」二〇〇一年）



満濃池配水塔

■ 碑文

大正三年九月十三日起工
同年十二月廿三日竣成
満濃池配水塔
總工費金壹万八千圓

全高六十三呎
内径七呎
外径上部十五呎
外径底部二十四呎
吸入鐵管径廿二吋七個

■ 位置図





■碑にまつわる社会資本整備の概要

満濃池の第二次嵩上げ（昭和5年竣工）

大正13年の干ばつを契機に、満濃池の再度嵩上げの要望が高まった。満濃池普通水利組合は大正14年に県に調査を依頼し、県営満濃池用排水改良事業として工事を行うことになった。工事内容は（一）堤防を一、五二メートル嵩上げし、貯水量を一五〇万トン増加して総貯水量を七八〇万トンとする、（二）導水トンネル（四〇〇メートル）と取付水路（二八〇メートル）を建設し、財田川から満濃池に導水する、（三）用水損失を防止するため丸亀幹線水路約五キロメートルを改修する、というものであった。第二次嵩上げ事業は昭和2年10月に着工し、昭和5年12月に完成した。

（参考文献）満濃池土地改良区「満濃池史 満濃池土地改良区五十周年記念誌」二〇〇一年）



満濃池

■ 碑文

修 拓 記 念 碑

満濃池や其流域ノ山谷此年土砂ヲ流出シテ池中ヲ埋メ又幹線水路ハ不備
 狹隘ニシテ乾涸ノ憂屢々ナリ殊ニ大正十三年ノ如キハ灌漑区内挿括不能
 ノ田實ニ一千町歩ニ亘リ其惨状言語ニ盡シ難シ因テ官民鳩首凝議シテ曰
 ク修拓以テ灌漑ニ資セスンハ農村ノ疲弊ヤ知ルヘキナリト即チ縣ニ之力
 調査ヲ申請シタリ縣直チニ同池ヲ調査シ優ニ二十四万五千立坪ヲ加量シ
 得ルヲ知レリ是ニ於テ水利組合全員一致以テ縣營起工ノ事ヲ懇請セリ縣
 之ヲ容レ昭和二年十月工ヲ起シ同五年十二月竣成セリ年ヲ累スル四年夫
 ヲ役スル十四万七千余人工費三十二万三千圓余國庫補助十六万圓縣費補
 助六千余圓池水面積一百六町最深五十五尺余水吐幅九十六尺満濃道路三
 百八十六間其他二千間余ノ道路ヲ新設シ二百三十四間ノ塩入隧道ヲ穿鑿
 シ財田川ヨリ引水シテ貯水ノ湛碧ヲ期シ且ツ大分木ヨリ藤兵衛股ヲ經テ
 田村池ニ至ル四千間余ノ幹線水路ヲ混凝土張ニ改メ以テ配水ニ便セリ蓋
 シ其工事ノ壮大ナル本縣未曾有ト稱ス起工以來幾多ノ迂餘曲折アリシモ
 無事竣成ヲ告ケタルハ農林省ノ指導ト縣ノ事業施行其宜キヲ得タルト水
 利組合関係者一同ノ熱誠トノ致ス所ニシテ永ク区内農家ヲシテ旱災ノ憂
 ヲ免レシメ其福祉ヲ増進セシムルモノト云フヘシ茲ニ碑ヲ建テ其梗概ヲ
 叙シ以テ後世ニ傳フ時ニ昭和六年三月ナリ

満濃池普通水利組合管理者 地方事務官正六位勲六等 齋藤助昇

■ 位置図



香川県まんのう町

香川 21 縣営満濃池用水改良事業竣工記念碑（ため池、昭和36年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

満濃池の第三次嵩上げ（昭和33年度竣工）

昭和9年、14年の干ばつを機に、昭和15年度に塩野池貯水池の築造と満濃池の嵩上げを内容とする県営土器川沿岸用水改良事業が着手されたが、戦争の激化により昭和19年に中断された。戦後、塩野池貯水池計画は天川導水路計画に変更され、昭和27年に県営満濃池用水改良事業と県営土器川右岸用水改良事業の二つの事業が実施されることになった。昭和32年度に満濃池の嵩上げ工事が完了、天川導水路の取水口である天川頭首工も昭和33年度に竣工し、第三次嵩上げ事業は完了した。満濃池の六メートルの嵩上げで、貯水量は七八〇万トンから一五四〇万トンに倍増された。（参考文献…満濃池土地改良区「満濃池史 満濃池土地改良区五十周年記念誌」二〇〇一年）



満濃池

■ 碑文

縣營満濃池用水改良事業
竣工記念碑

津島寿一書

満濃池の碑
名にし負う 満濃池は こゝだくの
おち同胞の 限りなく 池の築
きに励みあう 心に明う 逞しき
光かゝげし弘法の 聖の教を今も尚
傳えて香る真野の里
その村人の営みは 国の援けを継
ぎうけて かたく太しういや高く
池なし遂げし今日よりは 九十九谷
の空かけて 水紺碧に輝きぬ 遙か
に洋々 また渾々
まことや真野の池こそは 池の大
玉ゆるぎなき 姿になせし諸人の
功を偲びつ常永久に 穰りを祈り今
こゝに 誠を致すと謹みて記す
昭和三十六年四月
香川県知事 金子正則撰

■ 位置図



香川 22 県営金倉川沿岸用水改良事業の完成記念碑

[illegible]

県営金倉川沿岸用水改良事業（昭和44年度竣工）

(参考文献…讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」二〇〇〇年)



94

完成記念碑

県営金倉川沿岸用水改良事業は昭和二十八年度農林省の採択を得て着工し県営満濃池用水改良事業の関連として継続した大事業でありこの事業の中期に於て満濃池土地改良区は極度の財政不振に陥り憂慮すべき状態に遭遇したるも関係役員は不屈の精神を以て悪条件を克服し金子正則知事の良き指導のもとに総事業費六億参阡余萬圓を以て天川頭首工満濃池放水路並に 12 幹線水路の改修新設工事を完成し満濃池を源として基幹の用排水路が名実共に最大の利用効果を挙げ不用排水の放出を瀬戸内海に納めるの真に治水と利水の大事業の完成を記念する事となったこの喜びは七阡九百余名と共に後世に記念すべきである

昭和四十五年七月二十日 満濃池土地改良区理事長宮武榮一

事業概要

1. 総事業費 639122 千円
2. 総延長 55338m
3. 受益地積 3400ha
4. 受益戸数 7900 戸
5. 着工 昭和 28 年 4 月 1 日
6. 竣工 昭和 44 年 3 月 31 日
7. 完成式典 昭和 45 年 7 月 20 日

主要工事の概要

丸亀幹線水路	ℓ=539893m	豊原庄幹線水路	ℓ=263832m
蓮池幹線水路	913537	青木幹線水路	285340
宝幢寺幹線水路	558600	道福寺幹線水路	321780
金倉幹線水路	754414	竜川幹線水路	424897
金蔵寺幹線水路	446107	寛田幹線水路	312147
北鴨幹線水路	325845	満濃池放水路	15726
豊原幹線水路	274350	天川頭首工改修	97340





■碑にまつわる社会資本整備の概要

満濃池（大宝年間創築）

満濃池は堤高三メートル、堤長一五五、八メートルのアーチ型の土堰堤によって金倉川を堰き止め、貯水量一五四〇万トン、周囲約二〇キロメートルの規模を有する。満濃池は大宝年間（七〇一～七〇四年）に讃岐国守道守朝臣により創築されたが、一〇〇年余を経た弘仁9年（八一八）の洪水で堤が決壊したことに伴い、弘仁12年に空海が当時の最新の土木技術で池の修築を完成させたと言われている。その後も決壊、復旧、荒廃の歴史を経たものの、明治3年に長谷川佐太郎らにより改修が行われて以降、明治から昭和にかけて三度の堤防の嵩上げが行われるなどして、今日わが国最大の灌漑用ため池としての役割を果たしている。

（参考文献…土木学会中国四国支部編「土木へのいざない」一九九一年）



満濃池

(側碑裏)

世界かんがい施設遺産記念碑建立協賛者

まんのう町
丸亀市
善通寺市
多度津町
琴平町

満濃池土地改良区
(理事長など20人
の氏名省略)
施工者 1社
石工事 1社
(社名省略)

平成 29 年 6 月 15 日建立

(主)

満濃池
世界かんがい施設遺産

(側碑)

日本国香川県まんのう町の金倉川水系に位置する満濃池を、
1300 年以上前のアーチ型堤体、放水口、芝を用いた特殊な護岸、革新的な盛り土の突き固め法などの環境面にも配慮した技術設計のため、
I C I D 世界かんがい施設遺産に登録する。
平成 28 年 11 月 8 日登録



香川県まんのう町

香川 24 昭和三年拾月貳拾壹日満濃池分水協定要項碑（ため池）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

満濃池の第二次嵩上げに伴う財田川分水（昭和3年協定成立）

大正13年の干ばつを契機に、満濃池の再度嵩上げの要望が高まった。満濃池普通水利組合は大正14年に県に調査を依頼し、県営満濃池用排水改良事業として工事を行うことになった。第二次嵩上げ事業では満濃池の堤防を嵩上げて貯水量を増やすため、財田川から満濃池に導水する計画を立てたが、財田川沿岸地域から反発が起こった。県と満濃池普通水利組合は、財田川沿岸の三一の水利組合の説得を続け、昭和3年10月に財田川分水協定が成立した。財田川の満濃池取入口に、「昭和三年拾月貳拾壹日満濃池分水協定要項碑」が建立されている。これは、昭和42年の野口ダムの建設に伴い碑が湖底に沈むため、湖畔の県道沿いに移設されたものである。（参考文献…満濃池土地改良区「満濃池史 満濃池土地改良区五十年記念誌」二〇〇一年）



分水協定要項碑と野口ダム堰堤（右）

■碑文

- 昭和三年拾月貳拾壹日満濃池分水協定要項
- 一、財田川ヨリ満濃池ヘ分譲スル下水ハ毎年拾壹月壹日ヨリ翌年四月参拾日迄ノ期間ノ餘水ニ限ルモノトス下流利害關係町村ニ於テ将来耕地整理其他用水ヲ必要トスル場合ハ雙方協議ノ上本項ノ期間ヲ制限スルコトトスルベシ
 - 二、取入口及堰修繕ノ設計ハ下流利害關係町村ト協定ヲ為シ工事ハ委員立會ノ上施行スルモノトス
 - 三、取入口水門ニハ貳個ノ鎖鑰ヲ設ケ常務委員ニ於テ保管スルモノトス
 - 四、非灌漑時期ト雖モ下流ニ於ケル必要上下水ノ阻止スルノ設備ヲナスコトヲ得ザルモノトス
 - 五、春日横井ヨリ取入レタル水ハ方法ノ如何ニ拘ハラズ満濃池ニ取入ルルコトヲ得ザルモノトス
 - 六、常務委員ハ取入口ノ水門其他水利ノ状況ヲ常ニ監視ス
 - 七、取入口水門ノ開閉ハ委員立會ノ上之ヲ行フモノトス期間外ト雖モ大水ノ場合ハ委員協議ノ上分譲スルコトヲ得
 - 八、工事竣功ノ上ハ協定ノ要項ヲ記録シ永久ニ之ヲ表示シ實地ヲ撮影シ各利害關係町村ニ分テ保持スルモノトス

■位置図



香川県まんのう町

香川 25 佐文の香川用水記念碑（用水、昭和51年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

仲南町の香川用水（昭和51年竣工）

香川用水事業は、吉野川総合開発計画の一環として吉野川の水を香川県に導流して、県下の水不足を解決しようとするものである。昭和43年10月に起工、昭和54年6月に竣工した。仲南町で香川用水事業に関係するのは地形上佐文地区のみであり、佐文地区の工事は昭和47年4月に着工し、昭和51年3月に竣工した。佐文地区の受益面積は九〇ヘクタール、受益者は一一三戸である。佐文地区では昔から旱魃に苦しめられ雨乞いのための綾子踊りが伝わってきたが、香川用水の完成により従来の不合理な水利慣行に終止符を打ち、水不足が解消されることが期待されている。

（参考文献・仲南町誌編集委員会編「仲南町誌」一九八二年）



綾子踊の碑（佐文の加茂神社）

■ 碑文

香川県仲多度郡仲南町佐文は千数百年昔より雨乞踊り香川県指定無形文化財綾子踊りが伝わっている。特に水利には立地条件悪く古来屢々干魃に悩まされ先人は水不足解消のため雨乞踊り溜池築造等幾多苦心の対策がなされて来た。佐文の歴史は水との闘いの歴史であつたと言つても過言ではない。幸いにして国県において実施中の香川用水事業に当地区も昭和四十四年導水計画に参画し総事業費二億三千万円受益面積九十九ヘクタール受益者百十三戸年間給水量五十四万トン昭和四十七年四月着工同五十一年三月竣工。県営事業として東部幹線佐文分水工を起点に各ポンプ場を経て延長三千八百米の送水管を敷設し山神池中谷、尾郷各池に送水し更に団体営事業として四個ポンプ場を設置し五十一ヘクタールの樹園地にスプリンクラー灌水工事を施工した。この事業完成によつて従来の不合理な水利慣行に終止符を打ち佐文各池は統合され香川用水の近代的水利団体として発足することとなった。これで水不足は全く解消し将来地域の営農向上に大いに貢献するものと期待している。特に仲南町においても当香川用水事業を重視され県営事業負担金三千三百万円を助成された茲に事業完成に当たり沿革を誌し同事業を指導された多数諸賢の労を多とし榮譽を讃へ感謝の意を表しこの碑を建設するものである。

昭和五十一年三月建

香川用水佐文地区畑灌導水共同施行 代表者 池口光春

題字 仲南町長 枝園貞夫書

■ 位置図



香川県三豊市

香川 26 宝山湖の碑（用水、平成21年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

香川用水施設緊急改築事業（平成20年度竣工）

香川用水により農業用水、工業用水、水道用水が供給されているが、香川用水施設緊急改築は、緊急に対策が必要な水路施設等を改築し、水の安定供給と施設の安全性の確保を図るとともに、事故時・地震時等の緊急水源・代替水源として活用し、さらに渇水による断水等の影響緩和を可能とする調整池を設置するものである。平成11年度から平成20年度にかけて、取水工、幹線水路等の共用施設と貯水量約三〇〇万トンの調整池等の専用施設の整備が行われた。

（参考文献…水資源開発公団吉野川開発局編「輝く21世紀の暮らしと水」）



宝山湖展望台より宝山湖をのぞむ

香川用水調整池

宝山湖

香川県知事 真鍋武紀

(表)

■
碑文

平成二十一年三月吉日

(裏)



■
位置図

香川県三豊市

香川 27 讃岐財田駅創業50周年記念碑（鉄道、昭和48年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

土讃線と讃岐財田駅（大正12年開業）

土讃線の琴平～財田間は、大正12年5月に開通し、讃岐財田駅が開業した。次いで昭和4年4月には猪ノ鼻トンネルを貫いて阿波池田まで延びた。土讃線の路線については、猪ノ鼻経由か曼陀線経由にするかの論議があり、猪ノ鼻・塩入線路の比較調査も行われ、総合的に猪ノ鼻線の優位性が明らかになり、現在の路線が決定された。大正12年5月の開通式は、琴平町、榎井村、十郷村、七箇村、財田村が合同で開催し、財田駅及び付近で盛大に挙行された。（参考文献…新修財田町誌編集委員会編「新修 財田町誌」一九九二年）



讃岐財田駅

■ 碑文

(裏)	(表)
昭和四十八年五月二十一日 祝賀記念行事 総経費約十万円 此寄金者 財田町長川崎清氏 其他町内外有志者各位	サヌキ財田駅 創業 50 周年記念碑

■ 位置図



香川県三豊市

香川 28 大久保謙之丞君碑（道路、明治27年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

四国新道（明治27年完成）

四国新道の路線ルートは、丸亀、多度津、善通寺、琴平から阿波池田を経て高知、須崎に達し、さらに佐川、松山、三津浜と連なる四国全県にまたがる幹線道路である。大久保謙之丞は四国新道に深い関心を持ち、計画を立て、世論に訴え、賛同者を集めると、自費を注ぎ込んで測量等の準備作業を進め、明治19年2月に工事が開始されることになった。未だ鉄道も自動車もなく、ほとんど人馬の交通程度であった当時に、ほぼ幅員九メートル余り、総延長二八〇キロメートルの四国新道が明治27年に完成した。

（参考文献…香川県編「香川県史 第五巻 通史編近代I」一九八七年）



大久保謙之丞翁の碑の標識

大久保謹之丞君碑

從五位三島毅撰 正五位日下部東作書
從二位勲一等子爵谷干城題額

大久
保謹
之丞
君碑

南海之為地峻峯雄嶺橫斷南北如馬脊四州割扼而邊異風俗閉產物古來偏僻陋而開通之為一區同風俗通產物創萬民殷富之基者為大久保謹之丞君君為人仁孝而有膽畧溫良而果斷思國如家奉公忘私夙謂殖物產盛盛商業宜自道路開修始性好算數頗詣奧妙及擲私金測量四州地理或學險峻或穿榛莽星行露宿具嘗酸苦凡山川之高低里程之遠近暗記而明并胸算既成然後公之世募同志而封建餘習守奮厭新自信疑他相庇者甚少君單身奔走予豫讚土阿四州之間百方說諭盡數年之力始得同志請之官得允許明治十八年起工二十三年告竣得新道凡五十餘里刈蕪鑿巖拓狹為闊斫阻為夷汙者平迂者直遠者近人馬不痛車軌不仄物貨運輸如流人智發達日嚮文明異日祝為異域殊境者今日開通如一鄉人民之利便不可言方是時讚岐鐵道之工亦與君与有力焉他年延長遍四州其利便不可言而開通首唱之功不得不推君君之畫公益不獨比鄉黨諸川新架橋梁者大小九所其費過半出己又与同志謀鑿長谷池溉田凡二十五町時屬凶荒貧民得工錢免饑餓者數百人最用心農業廣菜穀百果良苗分與邨民又率先養蚕製糸十數年其業盛大冠縣內獎勵鄉里子弟就小學校秀者入之中學或師範校憂僻陋無良醫選學生修醫術或其給其資讚地膏腴流眠四集人有餘而田不足君自出費每歲移數百人於北海道從事開墾又欲募同志設一社積資金益圖移住而中道罹病亡呼嗟可惜哉君先業豐富稱一鄉素封為義棄損不少吝死之日遺產不足糊八口自非思國如家奉公忘私者惡能至比事聞朝廷賜銀盆追賞之君嘉永二年八月十六日生子讚岐国三野郡財田邨明治五年為邨吏尋為副區長管三野豐田二郡勸業學務等事又為愛媛縣農談會勸業諮問會六郡農產共進會等委員二十年為愛媛縣會議員二十二年轉香川縣會議員二十四年為閣龍世界博覽會委員其十二月十四日歿享年四十二葬邨中先塋妻同族利吉女舉一女曰菊枝配義子衡

平衡平早世有孫男曰豪承祀祖父稱与三治勸邨民種甘蔗製砂糖致今日一鄉之盛其力居多又改修阿讚山道便運搬投資助築多度津港父稱森治鑿池墾田種果木利邨民不少君以第三男嗣家其平生圖公益皆繼父祖志也兄稱菊治所能體先志君之奔走四方代之守家送資使君無內顧之憂弟稱彦三郎好學曾在余門君介之見余談及四州開道之事余贊之書集大成三字以贈後聞其能集合衆志成大業甚喜之二幾接其訃又其惜之昨秋財田邨長正木美隣來請碑銘曰一縣有志之士相謀欲不朽其功余諾而未援筆偶歸展備中遂航海訪彦三郎觀建碑之地爽塏宜眺瞻南仰連山欽嶺想開削勤苦北俯多度津洋商舶幅湊喜陸貨輸出致比繁盛嗚呼余一旅人猶追感遺功不能已矧於往其地受其利者乎歸京後寄銘便鐫其碑曰

慮始維難 君独遑々 彼誘此導 奔走欲狂 樂成維易 民咸欣欣
南運北輸 車馬如雲 陋嚮開明 于嗟誰績 峻變平坦 于嗟誰力
逶邐大道 貫通四域 一步半跬 永懷遺德
明治廿七年七月

■碑文の解釈

大久保謙之丞君碑

従五位三島毅撰 正五位日下部東作書

従二位勲一等子爵 谷干城題額

南海の地たる峻峰雄嶺南北を横断して馬脊ばせきの如く、四州割拠して両辺風俗を異にし産物を閉じ、古来僻陋へきろうに安んず。而してこれを開通して一区となし、風俗を同じくし産物を通じ、万民殷富いんぷの基を創めしものを大久保謙之丞君となす。

君、人となり仁孝にして胆略あり、温良にして克く果断、国を思うこと家の如く、公に奉じて私を忘る。夙つとに謂おもえらく、物産を殖し商業を盛にするには、宜しく道路の開修より始むべしと。性、算数を好み、頗る奥妙いたに詣よる。すなわち私金を擲なげうちて、四州の地理を測量し、或は險峻しんぽうを挙げ、或は榛莽しんぼうを穿ち星行露宿つふさ具に酸苦を嘗め、凡そ山川の高低里程の遠近暗記して明弁す。胸算既になり、然る後これを世に公にして同志を募る。しかるに封建の余習、旧を守り、新を厭い、自を信じて他を疑い相応ずるもの甚だ少なし。君、单身予讃土阿四州の間に奔走し、百方説諭するに数年の力を尽くし、始めて同志を得てこれを官に請い、允許いんきょを得たり。

明治十八年工を起こし二十三年峻を告ぐ。新道を得ること凡そ五十余里、蕪ぶを刈り巖を鑿くつち、狭きを拓きて闊かつとなし、阻そを斫きり夷となし、汗あせなるものは平らかに、迂うなるものは直く、遠きものは近く、人馬痛ほせず、車軌そく仄せず物資の運輸流るるが如く、人智発達して日に文明むかに嚮むかい、異日視て異域殊境となせしもの今日開通して一郷の如し。人民の利便言うべからず。

是時あたに方り讃岐鉄道の工もまた興り君あずか与りて力あり、他年延長して四州に遍く其の利便さらに言うべからず。而して開通首唱の功は君を推さざるを得ず。君の公益を図りしは独りこれのみならず郷党の諸川新に橋梁を架するもの大小九所、その費の過半は己に出ず。又同志と謀りて長谷池を鑿そり、田およそ二十五町に溉そぐ。時凶荒に属し、貧民工錢をえて饑餓をまぬがるもの数百人なり。最も心を農桑に用い、広く菜穀百果の良苗を索もとめて、村民に分与し、又率先して蚕を養い、糸を製すること十数年、その業盛大にして県内に冠たり。郷里の子弟を奨励して小学に就かしめ、俊秀なるものはこれを中学或は師範校に入らしむ。僻陋へきろう良医へきすうなきを憂え、学生を選びて医術を修めしめ、或はその資を給す。讃の地膏腴こうゆにして流民四集し人余りありて田足らず。

君、自ら資を出し毎歳数百人を北海道に移して開墾に従事せしめ、又同志を募りて一社を設け、資金を積みて益々移住を図らんと欲して中道病に罹りて亡し。呼嗟^{ああ}惜しむべきかな。君の先業豊富にして一郷の素封と称せられ、義の為に棄捐少しも吝^{おし}まず。死するの日遺産八口を糊するに足らず。国を思うこと家の如く、公に奉じ私を忘るる者に非らざるよりは悪くんぞ此に至らんや。事、朝廷に聞こえ銀盃を賜いてこれを追賞せらる。

君、嘉永二年八月十六日讃岐の国三野郡財田村に生まれ、明治五年村吏となり、尋いで副区長となり、三野、豊田二郡の勸業学務等の事を管し、又愛媛県農談会勸業諮問会六郡農産共進会等の委員となり、二十年愛媛県会議員となり、二十二年香川県会議員に転じ、二十四年閣龍世界博覧会委員となりその十二月十四日歿す。享年四十二、村中の先塋^{せんえい}に葬る。妻は同族利吉の女、一女を挙ぐ。菊枝と曰う。義子衡平と配す。衡平早世す。孫男あり豪と曰う。祀を承ぐ。祖父は与三治と称す。村民に勧めて甘藷を種え、砂糖を製し今日一郷の盛を致せるはその力多きに居る。又阿讃の山道を改修し、運搬に便し、資を投じて多度津港を助け築く。父は森治と称し池を鑿ち田を開き果木を種え村民を利すること少なからず。君は第三男を以て家を嗣ぐ。其の平生公益を図りしは皆父祖

の志を継ぎしなり。兄を菊治と称し、能く先志を体し君の四方に奔走するや、これに代りて家を守り、資を送り君をして内顧の憂なからしむ。弟を彦三郎と称す。学を好み曾て余の門にあり。君、これを介して余を見、談四州開通のことに及ぶ。余、これを賛して集大成の三字を書して以て贈る。後、その能く衆志を集合し大業を成すと聞き、甚だこれを喜びしに幾くもなくして其の訃に接す。又甚だこれを惜しむ。

昨秋、財田村長正木美隣来りて碑銘を請いて曰く、一県有志の士相謀りてその功を朽ちざらしめんと欲すと。余、諾^{だく}して未だ筆を援^とらず。偶々^{たまたま}備中に帰展し遂に海に航して彦三郎を訪う。建碑の地を観るに爽塏^{そうがい}にして眺^{ちよう}に宜しく、南に連山の嶽^{さんぎ}巖たるを仰いで開鑿の勤苦を想い、北に多度津洋の商船輻湊するを俯して、陸貨の輸出この繁盛を致せるを喜ぶ。嗚呼、余、一旅人にして猶遺功を追感して已むこと能わ^いず。矧^いんやその地に住しその利を受くる者に於ておや。帰郷の後、銘を寄せてその碑に刻ましめて曰く。

始を慮^{おも}るは維難^いし

君独遑々として彼誘い此導き

奔走狂せんと欲す

成を楽しむ維易し

民は欣々として

南運北輸 車馬雲の如し

陋として開明に嚮わしめしは

于嗟誰の績ぞや

峻をして平坦に変ぜしめしは

于嗟誰の力ぞや

逶邐たる大道 四域に貫通し

一步半跬 永く遺徳を懷う

明治二十七年七月

高松市石工 山本佐平刻

(新修財田町誌編集委員会編「新修 財田町誌」より)

■位置図





■碑にまつわる社会資本整備の概要

四国新道（明治27年完成）

明治17年、大久保謙之丞が四国四県を結ぶ新しい道路として四国新道の開鑿を提唱し、建設計画を立てた。この計画は、当時としてはあまりにも壮大で、賛否の世論が起ったが、協力者を求めて奔走するなどした結果、明治19年4月に琴平で四国新道の起工式が行われた。工事はしばしば難関に出会い思うように進まなかったが、困難を乗り越えて明治23年3月に多度津く猪ノ鼻間三八、三八二キロメートルが竣工した。四年後の明治27年5月には高知・愛媛両県の工事が竣工し、四国新道（総延長二八〇、三六一キロメートル）が完成した。

（参考文献…新修財田町誌編纂委員会編「新修 財田町誌」一九九二年）



大久保謙之丞翁像（たからだの里）

■ 碑文

大久保謙之丞

謙之丞は、一八四九年（嘉永二年）、財田上奥尾谷に、森治の三男として生まれました。二十三歳から、財田村役場に勤め、その後、戸長や、愛媛県議会議員などをへて、一八八九年（明治二十二年）に、香川県議会議員になりました。しかし、残念なことに、一八九一年（明治二十四年）議場で倒れ、四十二歳で亡くなりました。その一生は、ただ、ひたすら、郷土と公共のために、すべてを、ささげ尽くした一生でした。大変多くのことを成しとげていますが、主なものは、次の通りです。

- 一、四国新道をはじめ、多くの道路、橋の建設
 - 二、吉野川導水計画と、政府への働きかけ
 - 三、瀬戸大橋の発想と提唱
 - 四、北海道移民計画と推進
 - 五、育医講をつくり医者養成
 - 六、養蚕、製糸、鉄道建設、港改修、育英など
- 百年先を見通す先見性と、すばらしい実行力は、今もなお、私たちをふるい立たせます。

平成七年十月吉日 財田町

■ 位置図



香川県三豊市

香川 30 香川用水記念公園の豊潤碑（用水、昭和49年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

香川用水事業（昭和52年度竣工）

香川用水事業は、吉野川総合開発計画の一環として早明浦ダムで新たに開発された水のうち香川県に配分される分を池田ダムで取水し、八キロメートルの導水トンネルで財田町に導き、ここから東西に延びる幹線水路によって、東部は白鳥町宮奥池まで（延長七キロメートル）、西部は豊浜町姥ヶ懐池まで（延長一三キロメートル）、高瀬支線は高瀬町満水池まで（延長一一キロメートル）導水し、農業用水、都市用水に利用するものである。農業用水と都市用水の共用区間は公団営（水資源開発公団）で、農業専用区間は国営（農林省）で行い、公団営は昭和49年度に、また国営は昭和52年度に完了した。

（参考文献…香川用水史編集委員会編「香川用水史」一九七九年）



香川用水東西分水工（香川用水記念公園）

■ 碑文

(裏)	(表)
昭和 49 年春 香川県知事 金子正則書 水資源開発公団総裁 柴田達夫建	豊潤

■ 位置図





■碑にまつわる社会資本整備の概要

香川用水事業（公団営）（昭和49年度竣工）

香川用水事業は、吉野川総合開発計画の中核早明浦ダムの建設で生み出される年間八億五五〇〇万トンの水の中から香川県に分水される年間二億四七〇〇万トンの水を県内に導水し、農業用水、都市用水として利用し、香川県の水不足を抜本的に解消することを目的とするものである。昭和43年8月主務大臣（農林、厚生、通産）からの事業実施方針に基づき、香川用水事業のうちの共用区間総延長約四六、六キロメートル（導水幹線約八キロメートル、東部幹線約三四、七キロメートル、高瀬支線約三、九キロメートル）が水資源開発公団事業として発足し、昭和49年度に竣工した。

（参考文献…水資源開発公団香川用水建設所編「香川用水工事誌」一九七五年）



香川用水取水工（池田ダム）

■ 碑文

慰霊碑
殉職者 (4人の氏名省略) 昭和四十九年春 水資源開発公団建

■ 位置図



香川県観音寺市

香川 32 豊稔池碑（ため池、昭和8年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

豊稔池の築造（昭和5年竣工）

水不足を解消するため、大正7年に大関耕地整理組合が設立され、その中で田野々新池築造計画が発議されて、農民の新池築造への期待が高まった。大正13年に加地茂治郎組合長は三土忠造農林政務官の助言を受けて、知事らに対して田野々新池工事を県営用排水事業として実施するよう請願し、県議会で決定された。工事は救農土木事業として地元から人夫を調達して組合が行い、築堤材料の石は現地で採掘した。セメントや砂は海岸から牛車で運び、四年の歳月と一五万人の労力によって築き上げられ、豊稔池は昭和5年3月に完成した。池の命名は三土忠造大蔵大臣による。

（参考文献…讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」二〇〇〇年）



豊稔池堰堤

■碑文

豐稔池碑

鐵道大臣正三位勲一等三士忠造先生題字 堰堤式撰定者農林省技師 杉浦翠
香川縣三豐郡大關耕地整理組合地區ハ土地肥沃ニシテ最モ農耕ニ適ス然ルニ水利ノ便少キヲ以テ古來無數ノ小池ヲ設ケテ耕地ノ灌溉ニ供スト雖モ數々旱害ヲ蒙ル明治二十七八年ノ旱災ハ最モ劇シク就中大野原村ハ土地高燥ナルヲ以テ被害殊ニ甚シク農家ノ慘狀實ニ言フヘカラサルモノナリキ是ニ於テ一大貯水池築造ノ議起リタレトモ未果サス大正七年ニ至リ既設ノ大谷井關兩池ノ擴張ト配水路ノ改修トヲ目的トスル大關耕地整理組合ヲ設立シタリト雖モ組合内ノ部落各々其ノ利害ヲ異ニスルヲ以テ議容易ニ熟セス從ツテ毫モ事業ノ進捗ヲ見ルコト能ハス全十二年組合地區ヲ三區二分テ各々自區ニ有利ナル事業ヲ起サントス加之全十三年ノ大旱ハ大ニ吾人ニ自覺ヲ促シテ益々水利増大ノ機運ヲ早メタリ第一區即チ井關池水利區ニ於テハ五鄉村大字田野々ニ最好池床ヲ發見シ敢然新池築造計畫ヲ為ス偶々用排水幹線改良事業補助法ノ發布セラレタルヲ以テ直ニ本工事ヲ縣營ニ移シ工費ハ同區ノ負擔トス同十五年三月二十七日ヲ以テ起工シ惠澤ヲ地方民ニ頒タシ力為ニ專ラ區内住民ヲシテ力役ニ從事セシメタリ拮据經營ニ四箇年ノ星霜ヲ經昭和五年三月二十七日ヲ以テ竣工ス大蔵大臣三士忠造閣下本工事ノ達成ヲ激勵シテ助力ヲ與ヘラレタルコト勲カラス駕ヲ枉ケ之ヲ視察シ名ヲ命シテ豐稔池ト曰フ爾來區内六百二十七町歩ノ耕地ハ灌溉水豊富ニシテ畜ニ昔日ノ如キ旱災ヲ免ルルノミナラス稲田豐二稔リ黄雲穰々トシテ庶民鼓腹擊壤ノ樂ヲ得テ聖代德澤ヲ謳歌スルニ至リ又噫々此ノ大工事ノ成ルヤ固ヨリ本縣當局者ノ施設其ノ宣シキヲ得タルト農林省有司諸賢ノ指導其ノ正鵠ヲ誤ラサリシトニ因ルト雖モ區内農民ノ一致團結ト關係者各位ノ熱誠トハ大ニ興ツテ力アリト謂ハサル可カラス將ニ碑ヲ樹テ本工事ノ顚末ヲ勒シテ後世ニ傳ヘントス乃チ之ヲ叙ス

昭和八年八月

從六位勲七等 請川新次郎 撰
香川縣立三豐中学校教諭 白川大吉 書
建碑責任者 三豐郡大關耕地整理組合長 加地茂治郎

築堤概要及主要ナル役員

様式農林省指定多拱式石堰堤
總工費五拾壹萬九千八百圓
内譯
石堰堤築造費參拾六萬參千五百圓
土地家屋買収費拾貳萬四百圓
道路改修費參萬五千九百圓
堤塘容積參千六百八拾壹立坪
使用材料及人夫内譯
セメント數量貳萬壹千五百八拾九樽
硅藻土數量四千五百五拾俵
砂數量千四百五拾六立坪
人夫延人員拾參萬四千八百人
石工鍛治大工坑夫壹萬六千人
堤体 高廿壹百尺
延長四百八拾尺
餘水吐幅壹百四拾九尺
水面積 四萬八千坪
水深 九拾尺
貯水量 貳拾六萬五千立坪
支配田面積 六百貳拾七町步餘
内譯
國庫補助金 貳拾四萬壹千貳百參圓五拾六錢
用排水幹線改良事業
拾七萬八千八百參拾五圓拾壹錢
開墾助成金
六萬貳千參百六拾八圓四拾五錢

組合評議員

11人（氏名省略）

組合會議員

13人（氏名省略）

築造役員

組合長ら8人（氏名省略）

大正六年十一月組合設立認可申請者

大野原村長ら9人（氏名省略）

大正七年十一月設立認可役員

組合長ら4人（氏名省略）

第一區分區會議員

29人（氏名省略）

位置図





■碑にまつわる社会資本整備の概要

豊稔池の改修工事（平成6年度竣工）

豊稔池は築造後半世紀余りを経過した昭和50年代後半に堤体にクラックが入り、漏水が目立つようになった。このため、本格的な修復工事が必要になり、農林水産省に申請し、昭和61年5月に採択された。その後、工法等を検討する中で防災ため池工事での採択に変更することになり、昭和63年4月に防災ため池工事として採択され、平成元年11月に起工式が挙行された。主要工事は堤体工、洪水吐工、取水工、減勢工等で、平成5年度に竣工した。さらに平成5～6年度に堰堤周辺が活用保全施設として公園化され、多くの人に親しまれている。

（参考文献：讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」二〇〇〇年）



重要文化財の豊稔池堰堤

(表)

豊稔池改修事業竣工記念碑

豊稔池は貯水量百五十九万立方メートルを擁し、杵田川西岸の農地五百三十ヘクタールをかんがいする農業用ため池である。

豊稔池が全国にその名を知られているのは堰堤が全国でただ一つのマルチプルアーチダムとして築造されていること、しかも、その築造が大正十五年に着工され、昭和五年に竣工して、我が国ダム築造技術が草創期にあった時代に、当時の常識を打ち破って、画期的なダム形式を大胆に採用しているばかりでなく、洪水吐をサイフォン形式にするなど随所に斬新な設計を取り入れていて、学術的に評価の高いダムであるからである。

また、事業の実施は、農林省所管のもとに県の直営にて実施され、工事の施工は、地元の受益農家を主体に構成された、施工の各作業組と、技術陣との、統制のとれたチームワークによって実施され、短期間で工事を完成させている。

しかし、豊稔池堰堤は、築造から半世紀余の年月を経て、堤体の一部に漏水が生じるなどの老朽化がみられるところから、調査の結果、県営農地防災事業によって改築することとし、昭和六十三年度に、農林水産省の承認を受け事業に着手した。改修工事の設計施工に際しては、堰堤築造当時の外観を損なうことのないよう配慮がなされ、二十億円余の事業費を費やし、平成六年三月竣工をみた。

杵田川上流の大野原町田野々の山あい、まるで中世ヨーロッパの古城の如くそびえる豊稔池の堰堤は、我が国ダム築造史に特筆される金字塔であることは勿論のこと、我が郷土の誇りであり歴史的遺産である。

平成六年三月

題字

香川県知事

平井城一

撰文

豊稔池土地改良区

理事長 村上利武

(裏)

豊稔池の沿革

堰堤の構造概要

堰堤の形式	マルチプルアーチダム (多拱扶壁式粗石モルタル積堰堤)
堤 高	三〇・四メートル
堤 長	一二八・〇メートル
総貯水量	百六四万三千トン
有効貯水量	百五十九万三千トン
最大水深	二七・三メートル
満水面積	一五・一ヘクタール
集水面積	八・〇平方キロメートル
堤 体 積	二万二千立方メートル
洪水吐	バットレス(扶壁)に内蔵された五力所のサイフォンより放水 毎秒三十二トン
取水施設	取水工 スルースゲート 径六百ミリ 三門 土砂吐 スルースゲート 径千二百ミリ一門
工事期間	着工 大正十五年三月 竣工 昭和五年三月
総事業費	五十一万九千八百円

(裏)

改修事業の概要

事業名 県営農地防災ダム事業（大野原町開基三百五十年記念）
改修内容

堤体工

前面部

コンクリート 九千三百六十立方メートル

石積工 千二百八十八平方メートル

背面部

コンクリート 六千九百十四立方メートル

石積工 千五百二十一平方メートル

基礎処理

カーテングラウト 百三十九孔

コンソリデーショングラウト 百十五孔

洪水吐工

サイフォン補修

取水工

土砂吐 補修 一ヶ所

取水工 補修 三ヶ所

減勢工

一式

総事業費 二十億二千四百四十六万二千円

工事期間 昭和六十三年四月着工

平成六年三月竣工

事業主体 香川県

設計施工監理 香川県三豊土地改良事務所

技術協力 ダム技術検討委員会

(財)ダム技術センター

(株)日本農業土木コンサルタンツ

施工 清水・フジタ建設共同企業体

大野原町

町長 薦田良知

豊稔池土地改良区

理事長 村上利武 ほか30人（氏名省略）

位置図



香川県観音寺市

香川 34 姥ヶ懐池の碑（用水、昭和54年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

豊浜町の香川用水（昭和53年完成）

香川用水事業は早明浦ダムによって開発される水量のうち香川県に配分される年間二億四七〇〇万トンを農業用水、上水道用水、工業用水、上水道用水として供給するものである。豊浜町内には財田町から西部幹線約一三キロメートルを通ってくる。上水道の水は、雲岡受水槽と一の宮浄水場に貯められた水が町内各地で使われている。また、農業用水は、姥ヶ懐池に集められた水が箕浦の箕池まで各溜池に配水されている。香川用水の恵みで、町内の田約二七〇ヘクタールと畑約一九〇ヘクタールが水の心配をしなくて済むようになった。

（参考文献…新修豊浜町誌編さん委員会編「新修 豊浜町誌」一九九五年）



姥ヶ懐池

姥ヶ懐池

大平正芳書

姥ヶ懐池の起原は詳かではないが天正年間一五八〇年頃当時の領主大平伊賀守国祐が長曾我部元親に攻められて落城した際姥が国祐の子を懐に抱いてこの池に入水自殺をしたという伝説がある。これによればこの池は相当古くから築造されていた模様である。その後下流地域の新田開発に伴い漸次増築され寛永年間一六三〇年頃に一応溜池として形態を整えていたものと推定される。以後数回は修復されたようであるが昭和二十七年四月堤防老朽化のため一部が決壊した。幸い人畜に被害はなかったが耕地の一部が流失して下流に被害を与えた。昭和二十九年衆議院議員大平正芳先生並びに香川県議会議長長久保雅彦先生の御配慮により国及び県の補助を得て復旧工事に着手し昭和三十二年に竣工した。これに要した総工費は約二千万円である。その後また老朽化が激しくなり再び漏水の危険が生じたので昭和四十五年から老朽溜池補強対策事業として堤防に対するグラフト工事を施し現在の如く完全な溜池が完成した。このたびの工費は約一千万円であった。

なおこれらの工事の責任者は次の諸氏である
(会長など4人の氏名省略)

昭和五十四年四月五日 建之

題字 内閣総理大臣 大平正芳先生之書



愛媛県



■碑にまつわる社会資本整備の概要

新宮ダム（昭和50年竣工）

新宮ダムは、洪水調節、かんがい用水、工業用水、発電を目的とした多目的ダムである。計画高水流量一六〇〇立方メートル／秒のうち四〇〇立方メートル／秒の洪水調節を行い、川之江地区の農地約六五〇ヘクタールにかんがいをを行い、早明浦ダム、柳瀬ダムと相まって当ダムにより三、二八立方メートル／秒の工業用水を伊予三島、川之江地区に供給し、愛媛県が新設する銅山川第三発電所で最大出力一万一七〇〇キロワットアワの発電を行う。新宮ダムは当初、愛媛県の利水単独ダムの計画であったが、昭和45年7月に多目的ダムに変更されて、水資源開発公団により昭和45年10月着工、昭和50年10月に完成した。

（参考文献…四国の建設のあゆみ編集委員会編「四国の建設のあゆみ」一九九〇年）



新宮ダム

和	(表)
愛媛県知事 白石春樹 書 水資源開発公団 総裁 山本三郎 建 昭和 50 年 10 月	(裏)

■ 碑文



■ 位置図



■碑にまつわる社会資本整備の概要

新宮ダム建設事業（昭和52年完了）

新宮ダム建設事業は、洪水調節と発電を目的にするとともに、新宮地点から愛媛県に分水を行い、愛媛県の工業用水及び農業用水を確保するものである。事業主体は水資源開発公団で、昭和45年3月に新宮ダム調査所が伊予三島市に開設されて建設が始まった。新宮ダムによる新宮村（現四国中央市）の水没戸数は65世帯であったが、水没補償の交渉は比較的短期間で妥結に至った。新宮ダム工事は昭和50年10月に竣工、その後地すべり対策工事が行われ、昭和52年3月に新宮ダム建設事業が完了した。

（参考文献…新宮村誌編纂委員会編「新宮村誌 歴史行政編」一九九八年）



新宮ダム

■ 碑文

古野小学校跡地の碑

この地は、新宮ダム建設工事に伴い水没した古野小学校の跡地である。

閉校時（昭和48年度）の児童数は45名。水没地区住民の村外への転出や、全村的にも急速な児童数の減少が見込まれ、また、適当な学校用地の確保が困難なことから、村は、新宮小学校との統合を決定した。

昭和49年3月23日閉校式が行われ同年4月1日新宮小学校に統合された。

（この下100メートル）

古野小学校

■ 位置図



愛媛県四国中央市

愛媛3 柳瀬ダムの慰霊碑（河川、昭和28年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

柳瀬ダム（昭和28年度竣工）

柳瀬ダムは、吉野川水系銅山川に洪水調節、発電、かんがい、都市用水（上水道、工業）の確保を目的に建設された多目的ダムである。昭和22年3月の愛媛県と徳島県の第三次分水協定により、昭和24年4月に愛媛県の委託を受けて建設省が柳瀬ダムの建設に着手し、昭和28年度に完成した。柳瀬ダムの建設には、ダムコンクリートにわが国で初めてA E剤（混和剤）を導入したり、多段式五門の取水口を設け冷水対策を図るなど、新しい技術が取り入れられた。

（参考文献…四国の建設のあゆみ編集委員会編「四国の建設のあゆみ」一九九〇年）



柳瀬ダム

■ 碑文

慰 霊 碑

今此處に碑を建銅山川柳瀬ダム竣工を記念し左の殉職者の霊を慰む 昭和二十八年五月一日
鹿島建設株式會社
社長 鹿島守之助

殉職者氏名
(8人の氏名省略)

■ 位置図



愛媛県四国中央市

愛媛 4 銅山川疏水功労者頌徳碑（戸川疏水公園）

（河川、昭和38年建立）

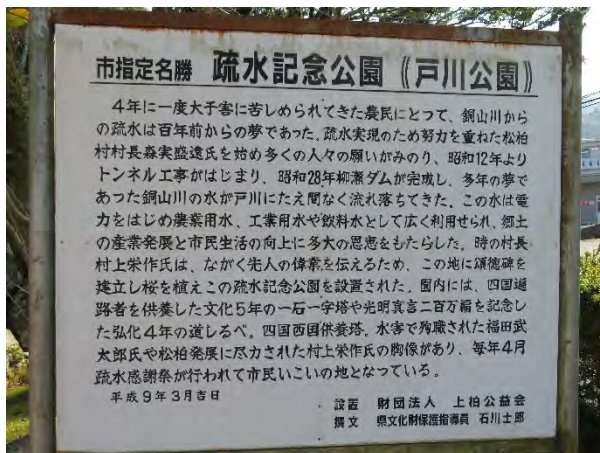


■碑にまつわる社会資本整備の概要

銅山川疏水事業（昭和29年完成）

銅山川の水を宇摩平野に導水する計画は幕末に考えられ、それ以降昭和初期にかけてさまざまな動きがあったが、実現には至らなかった。昭和11年に内務省の斡旋のもと、愛媛県と徳島県の間で協定が成立し、内務省から事業が認可されたが、戦争により工事は中止を余儀なくされた。戦後、昭和22年に改めて両県の分水協定が締結され、昭和23年に愛媛県が建設省に委託して柳瀬ダム建設に着手し、昭和28年8月からダム貯水が始まり、10月には発電を開始、昭和29年8月から農業用水が供給されて宇摩郡の水田を潤すようになった。

（参考文献…愛媛県史編さん委員会編「愛媛県史 近代下」一九八八年）



戸川疏水公園の標識

正篤書 碑 德 頌

(表)

銅 山 川 疏 水 功 勞 者

灌漑用水に悩む宇摩農民は安政の昔より銅山川疏水を企画し多数の先輩がこれを実現させようとして挺身明治末期より大正初期に至つていよいよ積極的に計画が推進せられ特に松柏村民の関心は最も深く大正十三年宇摩疏水組合の設立と共に村長森実盛遠村会議員村上恒一同じく福田武太郎の諸氏らが率先これに協力その後昭和十一年森実氏が組合長となるに及んで同年一月三十日徳島県との分水協定成立十二月五日起工式を挙行同十三年八月六日隧道工事着工日夜寢食を忘れて努力中惜しくも逝去され村上恒一氏はその後を受けて昭和十七年九月村長並びに銅山川疏水組合長に就任 戦時中及び終戦後の複雑な社会情勢の下において幾多の困難を克服昭和二十四年七月一日待望の隧道を貫通 福田武太郎氏は森実村上氏を強力に補佐し疏水実現のため東奔西走された また在京の森実易氏は本問題のため数十回に及んで上京する郷土代表者を物心両面に亘つて助け励まし中央政界との連絡を計り協力を惜しまなかった 殊に福岡農士学校学監伊藤□一氏の中央における政治工作とその蔭の働きは極めて大なるものがあつた 銅山川疏水はこれらの諸先輩の尊い汗の結晶と地区民の熱意により結実し郷土の繁栄をもたらしたものでこの千歳不朽の功績を万世に伝えその徳を敬仰すべく郷民挙つてこの碑を建立する

(裏)

昭和三十八年十月

安岡正篤額

銅山川疏水史著者合田正良撰

柏堂石川尚市書

建設世話人

伊予三島市松柏地区協議会
全 松柏地区有志一同

近藤富頼刻
宮崎利光造園

■位置図



愛媛県四国中央市

愛媛5 福田武太郎翁之碑（戸川疏水公園）（河川、昭和47年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

銅山川総合開発事業（昭和29年完成）

銅山川総合開発事業は、吉野川からの分水を前提とした水資源総合開発事業であり、具体化されたのは昭和22年3月に愛媛県と徳島県が合意した第三次分水協定に始まる。愛媛県では、宇摩郡金砂村小川地区に柳瀬ダムを建設することを決定し、昭和28年に完成した。柳瀬ダムは、吉野川下流の洪水調節を図るとともに、宇摩平野にかんがい用水・上水道用水・工業用水を供給する多目的ダムである。これに関連して発電所の建設が昭和25年4月に着工され、銅山川第一発電所が昭和28年10月に、銅山川第二発電所は昭和29年3月に完成し、本県の産業経済の基盤として貢献することになった。

（参考文献…愛媛県史編さん委員会編「愛媛県史 県政」一九八八年）



愛媛県銅山川発電所

■碑文

(表)

福田武太郎翁之像

愛媛県知事 白石春樹書

(裏)

故福田武太郎翁は幼少より人に秀で成人するに及びその人格は円満重厚識見は衆に卓越し推されて松柏村議会議員となり献身議員活動の一方他町村に先んじて明治の末期に上柏青年会及び消防組を組織し大正五年農協の前身である松柏信用組合を其の先頭に立って設立し尚万難を克服して地区公共財源の基盤である松柏村入会野山を統一植林を奨め治山治水事業に盡力す又銅山川疏水事業完成のためには先覚者の遺志を継承して一生を通じて同志と共に弛まぬ活躍を続け灌漑用水不足に悩む宇摩平野農家の悲願を達成したのみに止まらず郷土産業の一大発展の基盤を樹立する等翁の生涯における社会的貢献は枚挙にいとまがない この偉大な郷土の大先覚者も天命なるかな昭和十三年九月五日の大水害において橋梁及隣家の危機を救わんとして不慮の難に遭いその光輝ある六十三年の生涯を閉じ今は翁の警咳に接すること能わず何時までも故人の面影を偲び翁の遺徳に想いを馳せ敬慕の念を新たにすると共に後世に其偉業の数々を伝える為郷民相計り翁の胸像を建立して其遺徳を永く稱えるものである

昭和四十七年一月

■位置図





■碑にまつわる社会資本整備の概要

銅山川疏水事業（昭和29年完成）

銅山川疏水の計画は幕末に考えられ、それ以降昭和初期にかけて事業申請がなされたが、実現には至らなかった。昭和11年に内務省の斡旋のもと、愛媛県と徳島県との協定が成立し、長年の懸案であった分水問題が解決した。その後、昭和20年2月の第二次協定で発電事業が追加され、昭和22年3月の第三次協定で河水統制事業が承認され、愛媛県は柳瀬ダムの建設に着手、昭和28年に完成させた。昭和28年10月に発電事業が稼働開始、昭和29年8月からかんがい補給水が通水開始となり、産業振興、食糧増産、銅山川下流の洪水災害の防止に効果を上げるに至った。

（参考文献…伊予三島市史編纂委員会編「伊予三島市史 中巻」一九八六年）



頌徳の記（銅山川疏水功労者頌徳碑の裏面）

頌徳碑
銅山川疏水功労者

(裏)

頌徳の記

緑滴る神秘の山影を湖面に映し紺碧に澄んだ金砂湖は伊予三島市川之江市宇摩地区の人々に灌漑用水と工業の栄養源を供給して産業の振興に大きな力を与えているがこの建設の陰には安政の昔より幾多の先覚者がその実現のために精魂を傾けて挺身し或は故郷を湖底に沈め新天地を求めて立ち去った数百千の人々のあつたことを忘却すべきでない即ち銅山川の分水は遠く安政の昔に始まり明治十六年三島地区の有志測量を実施して計画続いて明治四十年中之庄村長高倉要が金砂村長鎌倉伊勢吉とともに愛媛県知事に銅山川分水のことを出願して不許可となるや川滝の人紀伊為一郎これを慨嘆し大正三年十月十九日宇摩郡十二ヶ町村有志代表の署名を求め深町愛媛県知事に出席大正五年内務省に進達されたが徳島県の反対により許可に至らずその後大正十三年九月佐竹愛媛県知事の認可により宇摩疏水組合が設立され組合長に郡長高橋惣太郎が就任したが翌年七月同氏の転任により後任郡長高木茂正が組合長となった同十四年九月組合名称を銅山川疏水期成同盟会と改め大正十五年郡制廃止により高木会長辞任県議員山中義貞が会長に選任されるや氏の努力により銅山川疏水は県営事業と決定され山中会長は中央及び徳島県との交渉に東奔西走したが徳島県の反対により分水協定の調印に至らず昭和十一年松柏村長森実盛遠会長となり幾多の苦難を克服して同年一月三十日愛媛徳島両県の間に分水協定成立調印同年十二月五日銅山川ダム起工式執行同十三年三月三十一日銅山川疏水組合と改称同年八月六日隧道工事着工いよいよ順調に進捗しつつある時森実組合長昭和十七年七月四日途半ばにして惜しくも不帰の客となり九月松柏村長村上恒一が後任組

合長に就任苦難な大東亜戦争中及び戦後に亘り不断の活躍をつづけ幾多の成果を挙げつつ完成を目ざして一路邁進し曙光を見た時辞任 昭和二十五年七月三島町長合田鶴太郎が組合長に就任同年八月仮通水二十八年八月十八日柳瀬ダム完成昭和三十一年五月代議士井原岸高組合長に就任氏は県会議員時代及び代議士として疏水実現に尽くした働きは実に計り知れないものがあった

本事業の完遂については多年に亘る地方有志並に政財界の多大の協力を得たものであることを銘記したい

ここに碑を建立し先人の功を永く称えんとする次第である

銅山川疏水史筆者 合田正良撰文

昭和四十九年 霜月

銅山川疏水組合長

伊予三島市長

川之江市長

土居町長

森川孝夫

川崎喜三郎

松本正俊

位置図



愛媛県四国中央市

愛媛 7 紀伊為一郎翁頌徳碑（三島公園）（河川、昭和59年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

紀伊為一郎と銅山川疏水事業（昭和28年通水）

銅山川疏水をめぐる動きは幕末に始まり、大正3年には紀伊為一郎らがかんがい用水供給を目的として用水路開設願を、大正5年にはかんがい区域の変更追加願を愛媛県に出願した。これを受けて愛媛県は河水引用願を内務省に申請したが、徳島県が分水に反対したため実現しなかった。愛媛県は大正14年に銅山川疏水事業を県営化する方針を決め、県主導で関係機関との調整を進め、戦後になって柳瀬ダムが建設され、昭和28年に銅山川疏水が実現した。疏水事業の基礎づくりにとって紀伊為一郎の労苦は大きな力となり、その後の進展を促した。

（参考文献…伊予三島市史編纂委員会編「伊予三島市史 中巻」一九八六年）



紀伊為一郎翁頌徳碑（側碑）

■碑文

(主) 紀伊為一郎翁
頌徳碑

(側) 紀伊為一郎翁頌徳碑

翁は明治十三年川滝成尾紀伊義珍の子として生れ、松山中学を経て京都美術学校に入学、栖鳳、春拳等に就き日本画を学び、卒業後岡山市に於て美術倶楽部を設け活躍中大正元年宇摩地方が大旱魃により苦難の状態にあることを知り、この解決は銅山川の水を引水するのほかなしと、大正三年自から宇摩郡十二ヶ町村を巡り、有志を説いて銅山川分水請願書に署名を求め愛媛県知事に提出、更に大正五年内務省に進達されたが認可に至らずその後大正十三年宇摩疏水組合が結成されるや翁は常任幹事に選任され言語に絶する苦難を克服して不断に活躍、昭和十一年一月三十日、愛媛、徳島両県の間に分水協定が成立し同日内務大臣より河水引用の認可があり、同年八月六日隧道工事着工昭和二十八年八月十三日翁が活動開始以来四十二年振りに柳瀬ダム完成、宇摩平野の灌漑用水、上水道、工業用水のすべてが満たされ、この豊富な水によって当地方は、生活用水、農業用水に恵まれると共に今日の製紙産業の発展を見るに至ったもので、紀伊翁の遠大な理想と尊い努力に対し心から感謝し、碑を建立し、その功績の一端を誌して徳を顕彰する次第である。

昭和五十九年十一月

撰文銅山川疏水史著者 合田正良

建立者 銅山川工業用水企業団

企業長伊予三島市長 篠永善雄

川之江市市長 石津榮一

■位置図



愛媛県四国中央市

愛媛 8 四国高速道路発祥之地記念碑（三島公園）

（道路、平成6年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

伊予三島市の松山自動車道（昭和60年開通）

伊予三島市に關係する高速自動車道の整備計画決定及び施行命令は、善通寺～伊予三島間が昭和47年6月で、伊予三島～土居間が昭和48年10月であつた。建設工事は日本道路公団で進められ、四国初の鍬入れ式が昭和55年4月に中之庄町的之尾で行われた。この区間には中央構造線があり、難工事となつたが、最新の工法で克服した。松山自動車道三島川之江～土居間の開通式は、昭和60年3月に三島川之江インターチェンジで挙行され、四国の高速道路時代の幕開けを祝つた。

（参考文献…伊予三島市史編纂委員会編「伊予三島市史 中巻」一九八六年）



松山自動車道（三島公園付近）

■
碑文

四国高速道路発祥之地記念
 四国の高速道路の歴史が当市
 から始まったことを記念しここに
 この碑を建立する
 市制 40 周年 平成 6 年 11 月吉日
 伊予三島市長 篠永善雄

■
位置図



愛媛県西条市

愛媛9 壬生川港改築記念碑（港湾、大正5年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

大正5昭和戦前期の壬生川港（東予港）（昭和11年竣工）

大正4年3月に壬生川港の最初の港湾改修が着工され、港内の浚渫・拡張、護岸の石垣改築が行われ、同年12月に竣工した。これにより帆船や小型機帆船の入港が容易になり、従来の不便はやや解消された。昭和7年には匡救事業として港湾改修及び土地造成事業に着手した。堀川港下口に突堤を築き、そこを壬生川外港とするために浚渫し、同時に浚渫土砂で突堤の北側（大新田地先）に土地造成を行い、昭和11年3月に竣工した。この港湾改修により、汽船や機帆船の接岸が可能となり、港の機能は大幅に向上した。

（参考文献…壬生川郷土史研究委員会編「壬生川郷土史」二〇〇九年）



東予港（西条市大新田）

■ 碑文

(表)

壬生川港改築記念碑

本港内土砂堆積且狹隘不便ヲ感ズル多年大正三年十二月知事ノ許可ヲ得同四年三月起工同年十二月浚渫ヲ了シ港内壹千七坪ヲ擴大シ工費壹万二千五百餘円ヲ投ジ以テ改築全ク竣成ヲ告グ因テ記念碑ヲ建テ以テ関係者ヲ記録ス

(側)

大正五年四月廿七日 落成式挙行日

(裏)

関係者愛媛県知事など12人
(氏名省略)

■ 位置図





■碑にまつわる社会資本整備の概要

道前道後平野農業水利事業（平成20年度完了）

面河ダムを築造し道前平野及び道後平野に導水する道前道後平野農業水利事業は昭和32年に事業着手、昭和42年に完成し、道前道後両平野の発展に貢献してきた。しかし、その後の社会情勢の変化に伴い、畑作振興による冬期灌漑用水の確保等新しい水需要への対応が要望されるとともに、施設の老朽化が課題となってきた。このため、既存水利施設の改修、志河川ダム及び佐古ダムの築造、志河川幹線用水路を整備する国営道前道後平野農業水利事業を行うこととした。平成元年度に工事着手し、平成20年度に完了した。

（参考文献…農林水産省中国四国農政局道前道後平野農業水利事業所編「道前道後平野農業水利事業概要」一九九一年）



志河川ダム

■ 碑文

(右)

志河の恵水

愛媛県知事 加戸守行 書

(左)

志河川ダムは 農林水産省の
国営道前道後平野農業水利事業
の水源施設として建設されたも
のであり 平成十九年度に完成
した

志河川は 石鎚山北麓の天ヶ
峠に源を発し 年間を通して切
れることなく清水が脈々と流れ
楠窪 湯谷口 志川地区の農地
を潤すとともに人々の命を支え
てきた

志河川ダムは この志河川の
恵みの水を道前平野全体に導く
ための施設であり地元住民をは
じめ多くの方々の御協力を得て
ここにダムは完成した

志河川の恵みの水により 道
前平野の大地が潤い 更に農業
が発展し 豊かな美郷が築かれ
ることを願う

平成十九年十月吉日建立

■ 位置図



愛媛県今治市

愛媛11 来島海峡サービスエリアの慰霊碑（道路）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

来島海峡大橋（西瀬戸自動車道）（平成11年開通）

来島海峡大橋は、大島と今治との間の約四キロメートルの来島海峡に架かる世界初の三連吊橋である。大島側から来島海峡第一大橋（橋長九六〇メートル）、来島海峡第二大橋（一五一五メートル）、来島海峡第三大橋（二五七〇メートル）の三つの吊橋で構成される。本橋は昭和62年12月に事業化が認められ、平成2年9月に本格着工した。来島海峡大橋の建設は、激しい潮流という自然環境や、大型船が航行する国際航路であるという困難な条件のもとで行われた。平成11年5月に来島海峡大橋は多々羅大橋、新尾道大橋とともに完成し、これにより既に供用中の区間も含めて西瀬戸自動車道の全線が開通した。

（参考文献…本州四国連絡橋公団編「しまなみ海道 西瀬戸自動車道建設誌」一九九九年）



来島海峡大橋

慰 霊

■ 碑文



■ 位置図

愛媛県上島町

愛媛12 弓削大橋開通記念碑（道路、平成8年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

弓削大橋（県道岩城弓削線）（平成8年開通）

弓削大橋は、弓削島と佐島の間に架かる総延長九八〇メートル（主橋梁三二五メートル、取付橋梁二四二メートル、取付道路四一三メートル）の斜張橋である。両島を結ぶ架橋は「町を一つに」という町民の悲願であった。架橋事業は広域市町村構想に基づいて、上島架橋の早期整備を図ったことに始まる。昭和63年度には県の重点施策として弓削大橋架橋計画・調査が開始され、平成元年度には町道佐島循環線橋梁整備（国庫補助）事業が採択された。平成2年7月に弓削町から愛媛県に事業委託され、平成8年3月に完成した。町道佐島循環線は平成8年4月に県道岩城弓削線に昇格移管された。

（参考文献…弓削町編「弓削町誌 補遺」二〇〇四年）



弓削大橋

弓削大橋
開通記念
平成 8 年 3 月 弓削町

■
碑文



■
位置図



■碑にまつわる社会資本整備の概要

生名橋（県道岩城弓削線）（平成23年開通）

生名橋は、上島町の生名島（旧生名村）と佐島（旧弓削町）を結ぶ橋長五一五メートル、コストダウンを図るため車道を一、五車線にした斜張橋である。平成16年3月に国土交通省四国地方整備局より予算成立に伴う事業概要の発表があり、上島架橋構想の一環として生名橋は事業化され、平成23年2月に開通した。なお、上島架橋は、上島町の岩城島を起点に、生名島、佐島を経て弓削島に至る県道岩城弓削線に架かる弓削大橋、生名橋、岩城橋の三橋の総称であり、平成26年に「ゆめしま海道」の愛称が制定された。

（参考文献…生名村誌編纂委員会編「生名村誌」二〇〇四年、上島町ホームページ）



生名橋

■ 碑文

(裏)	(表)
平成二十八年二月吉日 愛媛県知事 中村時広書	ゆめしま海道

■ 位置図



愛媛県久万高原町

愛媛 14 檜垣翁碑（道路、昭和6年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

三坂新道（明治27年完成）

藩政期の土佐街道は、松山市荏原から久谷を経て三坂峠に通じていたが、桜から峠まで急峻な坂道が二キロメートルも続き、土佐街道最大の難所となっていた。このため、上浮穴郡長桧垣伸の尽力により、従来の土佐街道の西に砥部から三坂峠（標高七二〇メートル）に通ずる三坂新道の建設が明治19年に開始され、明治27年に完成した。三坂新道の完成により、麓から峠に至る道は土佐街道の急坂から約十キロメートルの緩やかな登り坂に変わり、明治・大正時代は主に馬車道として利用された。

（参考文献…愛媛県史編さん委員会編「愛媛県史 地誌Ⅱ（中予）」一九八四年）



三坂峠

■ 碑文

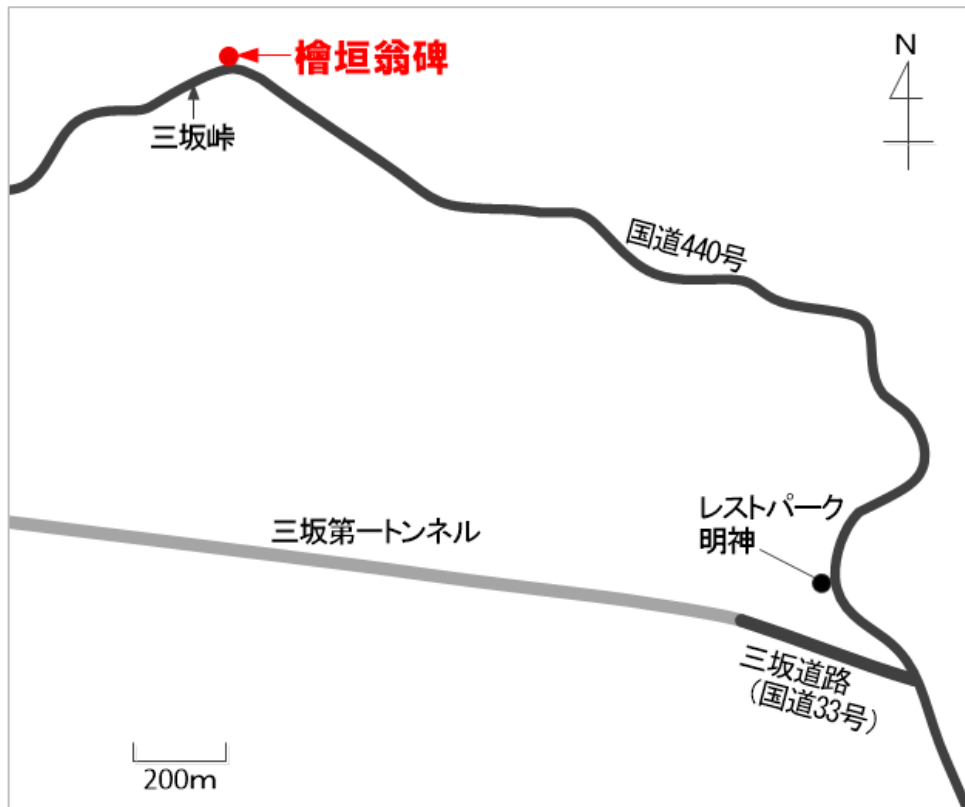
檜垣翁碑

翁檜垣氏名伸松山人少入藩學才兼文武後歷任諸職明治十四年為上浮穴郡長郡山峻路險交通不開翁憂之會四國亦議新通便道翁躍然欲必成其事而三阪嶺最難乃躬測量險阻又勸說隣縣日夜焦勞殆忘寢食二十四年所謂四國新道始成翁又夙唱四國橫貫鐵道之要而二十六年官決全國鐵道豫定線也不及豫土翁慨然大會同志以揚衆論翌年退官而持志益堅數上京謀於代議士及諸先輩計畫甚力奔走盡瘁不知老之至私財為空大正十一年鐵道敷設法成而新加松山佐川間焉翁志乃達尋罹病十三年十一月十五日遂歿享年七十五葬久万町真光寺翁識高而氣剛誠篤好義其執職一郡者實十有四年以興治益民為念產業教育備荒救窮諸事莫一不盡其力者先歿自表其墓曰埋骨注心血之地至今郡民多受其惠焉頃者慕德者胥謀欲建碑傳後請予文蓋翁功業之多不可悉記今特揭其大者銘曰

富強之本 職由交通 況斯新道 四國攸同 計畫展力 畢生圖功

翁實建始 誰成厥終 昭和六年三月 阿波對南岡本由撰併書

■ 位置図



■ 碑文の解釈

翁檜垣氏、名伸、松山の人。若くして藩学に入り、文武を兼ね、後に諸職を歴任。明治十四年上浮穴郡長となった。郡の山高く路険しく交通開けず、翁之を憂いた。たまたま四国もまた新に通す道を議論し、翁は躍然とそのことの必成を欲した。三坂嶺の最難の險阻を自ら測量し、また隣県に日夜殆ど寢食を忘れ説き勧め、明治二十四年にいわゆる四国新道が完成した。翁はまたつとに四国横貫鉄道の必要を唱えた。しかし、明治二十六年に政府が全国鉄道予定線を決するに予土線は及ばなかったことを翁遺憾とし、大会同志で世論の喚起に努めた。翌年翁は郡長を退官したが、志はますます堅く、上京して代議士や諸先輩と謀り、計画に尽力、奔走した。全力を尽くし、老いを知らず、ここに至り私財は空となった。大正十一年鉄道敷設法が成立し、そこに松山から佐川間が新たに加わり、翁の志が達せられた。まもなく罹病して大正十三年十一月十五日に遂に歿した。享年七十五才。久万町の真光寺に葬られた。翁は見識が高く、気は勇ましく、誠篤く、義を好んだ。上浮穴郡長として実に十有四年、盛んに治め民を益することを信念とした。産業、教育、備荒救窮などその力を尽くさないものは一つもなかった。翁自ら墓に、骨を埋め心血を注いだ地と表わした。今に至るまで郡民多くその恵みを受けてきた。近頃徳者を慕い、ここに建碑を欲して謀り、後世に伝えようとして、予に文を請うた。翁の功業の多くを悉く記すことはできないが、今その大なるものを特に掲げる。銘に曰く

（筆者の解釈による）

愛媛県久万高原町

愛媛15 檜垣伸翁の顕彰碑(檜垣桜公園) (道路、平成24年建立)



■碑にまつわる社会資本整備の概要

四国新道(愛媛県分)(明治25年竣工)

明治17年に大久保謙之丞が四国新道を提唱した時、高知県と愛媛県をつなぐ予土横断道路の開削計画も練られていた。この予土横断道路に丸亀・多度津く高知ルートを加えて、明治18年に愛媛県、高知県、徳島県の三県(香川県の分離独立は明治21年12月)で四国新道開削計画が内務省に提出された。明治19年4月、四国新道の起工式が琴平宮で行われ、明治20年9月に三坂峠の開削が完成した。四国新道のうち愛媛県分の工事は明治25年8月に落出橋の渡船場の完成を期して竣工し、三坂峠で完工式が行われた。

(参考文献…久万町誌編集委員会編「久万町誌 増補改訂版」一九八九年)



レストパーク明神

■ 碑文

久万地域の発展を願って

明治十四年第二代の上浮穴郡長となった檜垣伸さんは、上浮穴郡の発展には道路を整備することが重要だと考え、各方面に熱心にはたらきかけ、郡民の先頭に立って多くの困難を乗り越え、七年間の歳月をかけて、国道三十三号の開通を成し遂げました。

そのほか、久万凶荒予備組合結成の基礎をつくったり、また、植林や三極の栽培を進めるなど、上浮穴郡の発展に大きな力を注がれました。

檜垣伸さんの業績をたたえる、道路開通の記念碑は、現在も三坂峠に建てられています。

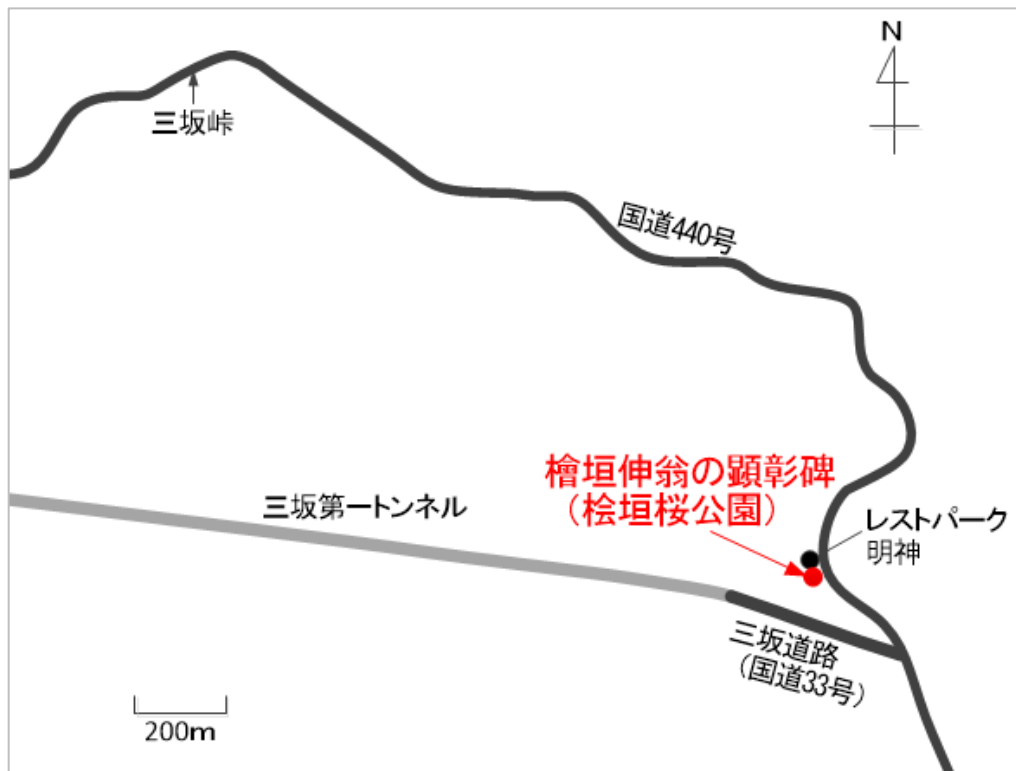
伸さんのお孫さんで東京にお住まいだった、檜垣端さんは、おじいさんの素晴らしい業績に強く心を打たれ、久万地域の人々が、地域を大切にすることを一層強め、久万の地域がますます栄えることを願い、平成十三年、久万町に三千万円というたくさんのお金を寄付されました。

檜垣伸さんの尊い業績と、檜垣端さんのご意志に深く感謝し、そのご意志を受け継ごうとの強い決意で、檜垣端さんの寄付金をもとに、ここに「桧垣桜公園」をつくり記念碑を建てて記念します。

平成二十四年三月吉日

檜垣伸翁を顕彰する会

■ 位置図



愛媛県久万高原町

愛媛16 水徳洽豫洲の碑（用水）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

面河ダム（道前道後用水事業）（昭和40年竣工）

面河ダムは、道前平野と道後平野に農業用水を補給するとともに、臨海工業用水を確保し、あわせて導水途中の落差利用により三つの発電所で水力発電を行う道前道後用水事業の水源としての役割を果たすものである。面河ダムは昭和35年10月に起工、昭和36年12月には定礎式が行われてコンクリート打設が始まり、昭和40年4月に竣工式が行われた。ダムの規模は堤高七三、五メートル、堤長一五九メートル、堤体積一九万一〇二立方メートル、総貯水量二八三〇万立方メートル、有効貯水量二六八〇万立方メートルである。

（参考文献…道前道後用水史編集委員会編「石鎚の水ここに展く道前道後用水史」一九七八年）



面河ダム

■ 碑文

水徳治豫洲
参議院副議長 重政庸徳

■ 位置図



愛媛県東温市

愛媛17 石鎚の水ここに展く碑（用水、昭和45年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

道前道後用水事業（昭和42年竣工）

道前平野及び道後平野の関係者から別個に要請を受けた農林省は、検討の結果、道前平野と道後平野の事業を統合し、仁淀川水系面河川を水源として農業用水、発電、上水道用水を確保する案を策定し、昭和27年に道前道後平野農業水利事業の計画調査を開始した。その後関係者間の調整が行われ、昭和32年度に全体実施設計が完了し、工事着工となった。さらに面河ダムの水没補償、仁淀川分水交渉等を経て、昭和39年1月に面河ダムの水が中山川に放流され、同年4月に工業用水が、同年6月には農業用水が配水された。昭和42年9月に国営道前道後農業水利事業の竣工式が行われた。

（参考文献：道前道後用水史編集委員会編「石鎚の水ここに展く道前道後用水史」一九七八年）



面河ダムと道前道後第一発電所

■ 碑文

(表)

石鎚の
水
ここに
展く
愛媛県知事 久松定武書

(裏)

道前道後水利総合開発事業は 昭和二十六年以来愛媛
県政最大の事業として企画され 昭和三十二年着工 同
三十五年高知県との仁淀川分水協定成立 昭和四十五年
三月総事業費一五四億円で完成した この事業は石鎚山
系の水を面河ダムに集め 道前道後平野一万三千ヘクタ
ールの耕地に三千三百万トンの農業用水 中予臨海工業
地帯に日量十万六千トンの工業用水を供給 さらに出力
二万五千キロワットの発電を行なうものである 事業
完成にあたり 尊い人命をささげ あるいは 湖底に故
郷を沈めた方々に哀悼と感謝の意を表わすとともに関係
者の努力をたたえ碑を建立して偉業を伝える
昭和四十五年十月建之
道前道後水利開発竣工記念事業実行委員会
土地改良区連合会代表者ら
及び関係町村長の16人(氏名省略)

■ 位置図



愛媛 18 国営道前道後平野農業水利(二期)事業完工碑

(用水、平成20年建立)



■碑にまつわる社会資本整備の概要

道前道後平野農業水利(二期)事業(平成20年度竣工)

面河ダムを築造し道前道後平野に導水する道前道後平野農業水利事業は昭和32年に事業着手、昭和42年に完成し、道前平野及び道後平野の発展に貢献してきたが、その後の社会情勢の変化に伴い、畑作振興による冬期灌漑用水の確保等新しい水需要への対応が要望されるとともに、施設の老朽化が課題となってきた。このため、国営道前道後平野農業水利事業が計画され、一期事業として既存水利施設の改修を、二期事業として志河川ダム及び佐古ダムの築造、志河川幹線水路の整備を行うこととした。二期事業は平成3年度に工事着手し、平成20年度に完了した。

(参考文献・農林水産省中国四国農政局道前道後平野農業水利事業所編「道前道後平野農業水利事業概要」一九九一年)



志河川ダム



佐古ダム

■ 碑文

国営道前道後平野農業水利（二期）事業完工記念碑

石鎚山系の水を面河ダムに集め 道前道後平野への農業用水
中予臨海工業地帯への工業用水 さらに水力発電による電力を安
定的に供給する道前道後水利総合開発事業が昭和四十五年三月完
成以来 本県の産業発展に大きく貢献してきた

しかしながら 事業完成後約二十年を経過 老朽化・旧式化し
た水利施設を再整備するため 平成元年度から国営事業（一期地
区）と県所管の工業用水及び発電事業との共同事業に着手し 平
成十八年度に完成

さらに 農業用水の通年通水や新規受益地の拡大など 新たな
水需要に対応するため 平成三年度から同国営事業（二期地区）
に着手 道前平野に志河川ダム 道後平野には佐古ダムを築造し
平成二十年度に完成

事業完成にあたり 仁淀川分水に協力いただいている高知県や
久万高原町の皆様方に改めて感謝の意を表すとともに 平成十八
年二月「全国疏水百選」に選ばれたこの「道前道後用水」を後世
まで伝えるべく ここに碑を建立して偉業を伝える

平成二十年二月吉日建立

■ 位置図



愛媛県東温市

愛媛19 佐古の恵水碑（用水、平成15年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

佐古ダム（道前道後平野農業水利事業）（平成12年竣工）

道前道後平野農業水利事業は昭和42年に完成し、面河ダムを水源として灌漑期の用水を確保してきたが、その後の社会情勢の変化に伴い、畑作振興による非灌漑期の灌漑用水の確保等、新しい水需要への対応が必要となった。このため、重信川水系佐古川にある既存の佐古谷池を撤去し、佐古ダムを築造することにより、非灌漑期の水田裏作六七〇ヘクタール及び輪換畑四七〇ヘクタールの農業用水を確保することとした。佐古ダムは、農林水産省が平成8年に着工し、平成12年に完成した。

（参考文献…東温市史編纂委員会編「重信町誌 続編 川内町新誌」二〇一二年）



佐古ダム

佐古の恵水

愛媛県知事 加戸守行 書

(表)

佐古ダムは、農林水産省の国営道前道後平野農業水利事業の水源施設として建設されたものであり、平成十三年度に完成した。

もともとこの場所には、約百五十年前に築造された佐古谷池があり、重信町下林・上村地域の農地を潤してきた。

佐古ダムは、佐古谷池の堰堤を撤去して建設されたものであり、旧池の使命を引き継ぎながら、道後平野地域全体の農地を潤す水源として新しく生まれ変わったものである。

佐古谷池受益者や地元住民をはじめ、多くの方々の協力を得てここに佐古ダムは完成した。

佐古の恵みの水により、道後平野地域の農業が更に発展することを願う。

平成十五年三月建立

(裏)



愛媛県松山市

愛媛 20 小林信近翁像（鉄道）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

伊予鉄道松山～三津間（明治21年開通）

製材を大阪方面に輸送していた小林信近は、松山～三津間の運搬費が三津～大阪間の海上運賃よりはるかに高いため、交通機関の改善の必要を強く感じていた。小林は明治18年に鉄道局に松山～三津間の軽便鉄道の願書を申請し却下されたが、明治19年に再度願書を提出し許可を得て、明治20年9月に伊予鉄道会社を創立した。明治21年9月に松山、三津口（現古町）、三津停留場の建設工事が竣工し、同年10月に営業を開始した。松山～三津間を28分で走り、運賃が安価なため利用者が増加した。

（参考文献…創立百二十五周年史編纂委員会編「道は、みらいへ 伊予鉄道創立百二十五周年史」二〇一二年）



伊予鉄道三津駅ホーム

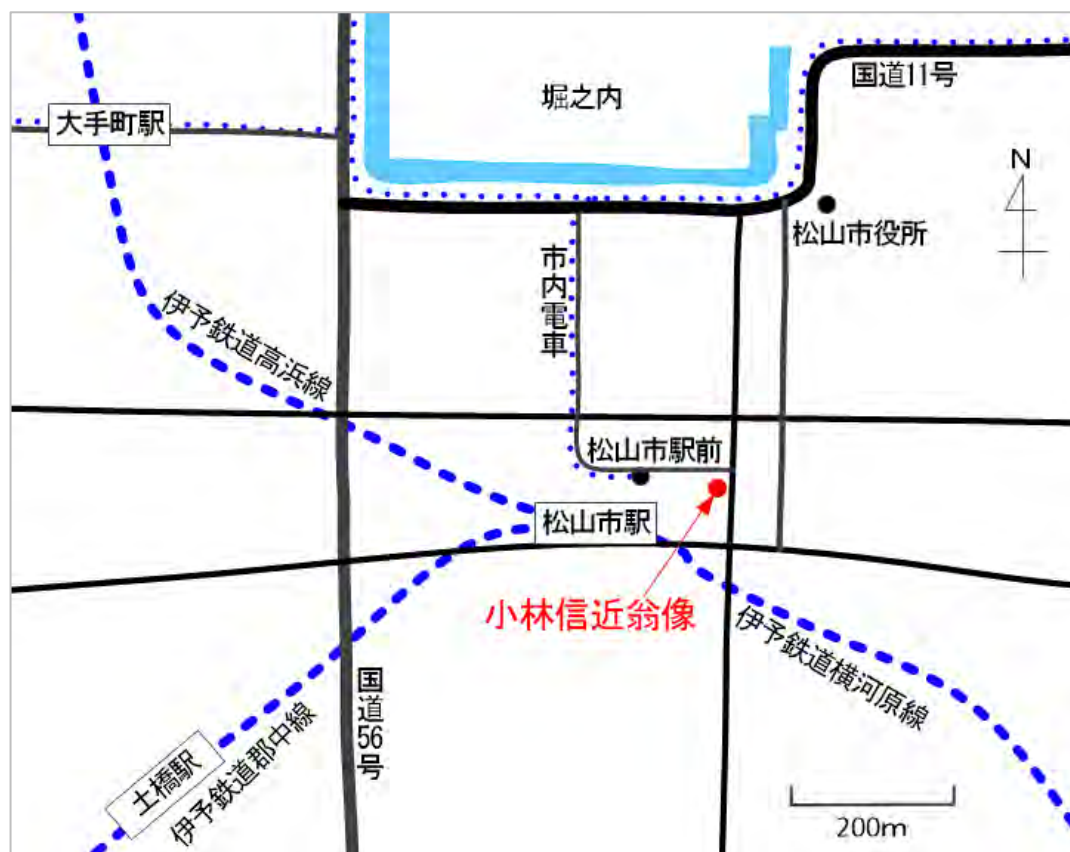
(像)

小林信近翁

(碑)

小林信近 1842 年（天保 13）－1918 年（大正 7）

松山藩士の中島家に生まれた信近は、11 歳で小林家に養子として迎えられ、藩主・松平勝成、続いて世継ぎの定昭の小姓役に取り立てられた。版籍奉還・廃藩置県が行われた後に県庁出仕を経て事業活動を開始し、維新後に困窮した旧藩士の授産のための会社を設立し、製靴や織物などの事業を行ったほか、士族が政府から与えられた公債の保全のために第五十二国立銀行（現・伊予銀行）を設立（1878 年・明治 11）、初代頭取に就任した。また、商法会議所（現・松山商工会議所）を設立（1882 年・明治 15）、海南新聞（現・愛媛新聞）の社長を務めた（1883 年・明治 16）。明治中期に入ると、地方では初の民間鉄道として伊予鉄道会社（現・伊予鉄道）を開業（1888 年・明治 21）させ、後に全国各地で作られる軽便鉄道の先駆けとなった。さらに、伊豫水力電気会社（現・四国電力）を開業（1903 年・明治 36）、松山の産業発展に大きく貢献した。このように、経済発展に寄与する会社や地域に貢献する経済団体を設立したほか、愛媛県会初代議長、松山市会初代議長、国会議員を歴任し、政治活動を通して、松山の発展の礎を築いた。



愛媛県伊予市

愛媛21 大谷池記念碑（ため池、昭和21年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

大谷池の築造（昭和20年竣工）

大正11年の大干ばつと大正12年の大水害を機に、南伊予村長の武智惣五郎は大正12年に大谷池築造を決意した。大正13年に南伊予村外三ヶ町村耕地整理組合を設立し、昭和5年に県知事に干ばつの窮状を訴え、県知事が県議会に大谷池築造の議案を提出したが、政争により否決された。しかし、大谷池築造は昭和6年1月に内務省より許可され、昭和7年に工事が開始された。昭和9年の室戸台風により基礎工事がほとんど流失埋没する被害を受けたため、漏水防止のため苦勞をしたが、昭和17年度からは耕地整理組合に代わって県が直営方式で工事を進め、昭和20年3月に完成した。工事従事者は延べ三七万三〇〇〇人に及んだ。

（参考文献…伊豫郡大谷池土地改良区編「大谷池 築造五拾周年記念誌」一九九四年）



大谷池

■碑文

(表)

大谷池記念
若槻禮次郎書

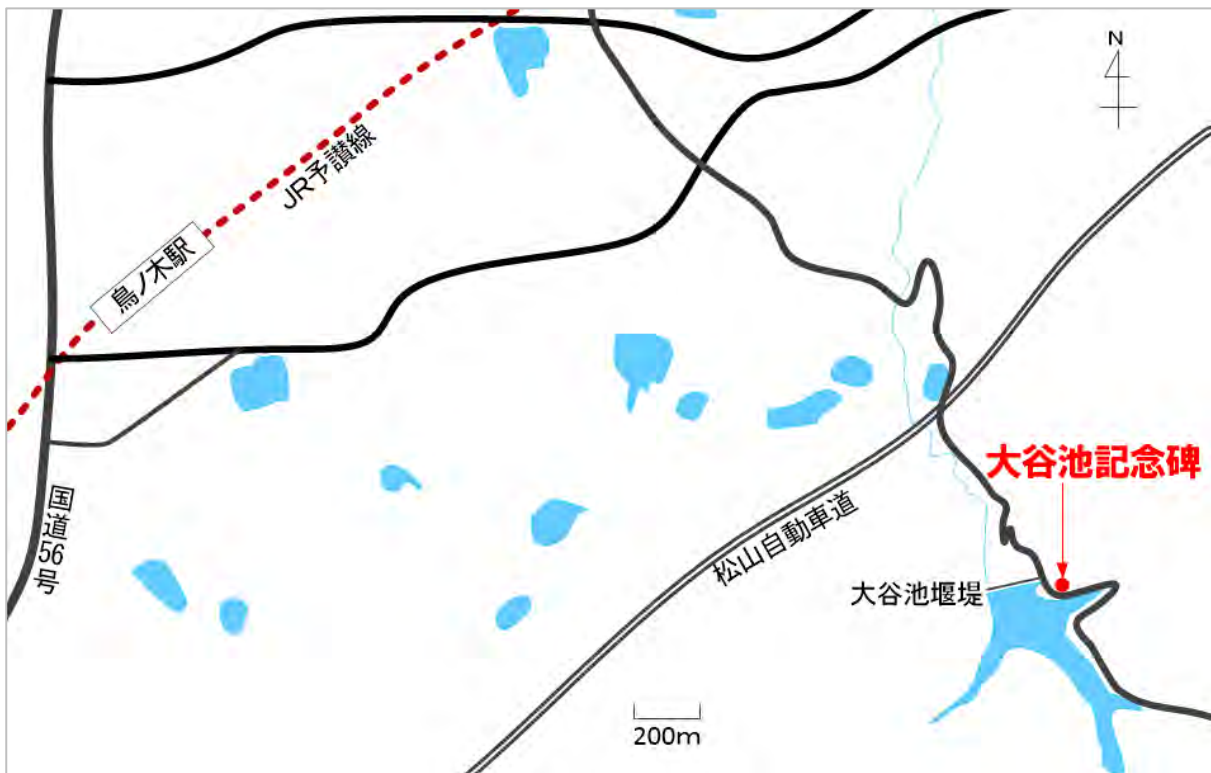
(裏)

大谷池ノ灌漑地區ハ古來用水ノ涵養裕力ナラズ早害屢至ル加之大谷川時ニ汎濫シテ地區民ノ困憊名状スベカラザルモノアリ此ニ於テコレガ災禍ヲ永遠ニ防止シテ農産物ノ増進ヲ圖ラント大正十二年南伊豫村長武智惣五郎氏大谷池ノ築造ヲ發起シ全十三年四月南伊豫村外三ヶ町村耕地整理組合ヲ組織シテ其ノ實現ニ努ム昭和六年ニ至リコレヲ縣營ニ移シ更ニ全年十二月關係地區用排水改良工事組合ヲ興シ翌七年一月第一期導水溝工事ヲ創メ全年五月竣工セリカクテ昭和八年八月二及ビ第二期築堤工事ニ着手セシガ昭和九年偶地方稀有ノ大水害アリ基礎工事ハ殆ンド畫餅ニ歸ス然レドモ是レニ屈セズ着々エヲ進タリ蓋シ該工事ハ岩層ト土質トノ關係上實ニ難工事ナリシガ漸ク茲ニ完成ノ慶ニ接スルヲ得タリ時ニ昭和二十年三月ナリ依テ大谷池ノ概要ヲ記スコト左ノ如シ

一堤防直立高百十六尺五寸 一堤防延長百十間 一堤防底巾百十間
一堤防盛土六万一千四百立坪 一堤防勾配 内法面三割 外法面上段二割中下段二割五分 一堤内部石張面積四千二百面坪 一水深八十四尺四寸
一貯水量三十万立坪 一導水溝延長八百六十五間 内隧道三百三十三間
一灌漑面積五百七十町歩 一工事ニ従事シタル延人員三十七万二千七百人

昭和二十一年十月建之

■位置図





■碑にまつわる社会資本整備の概要

武智惣五郎と大谷池の築造（昭和20年竣工）

大谷川は、いったん大雨が降れば洪水となり田畑や作物に被害をもたらした。また、日照りが続けば、大谷川沿川では干ばつによる被害が起こった。そこで南伊予村長の武智惣五郎は、大正12年に大谷池築造を発起した。大正13年4月に南伊予村外三ヶ町村耕地整理組合を設立し、昭和6年1月に工事の許可を得て、昭和7年1月から工事に着手した。昭和9年の大水害で基礎工事はほとんど破損したが、その後、工事を再開し、特に漏水防止に苦心して、14年の歳月を経て昭和20年3月に完成した。大谷池の堤防には武智惣五郎の頌徳碑が、伊予小学校には胸像が建てられている。

（参考文献・伊予市史編さん会編「伊予市誌」一九八六年）



武智惣五郎翁像（伊予小学校）

■碑文

(表)

武智惣五郎氏頌徳碑

愛媛縣知事 青木重臣書

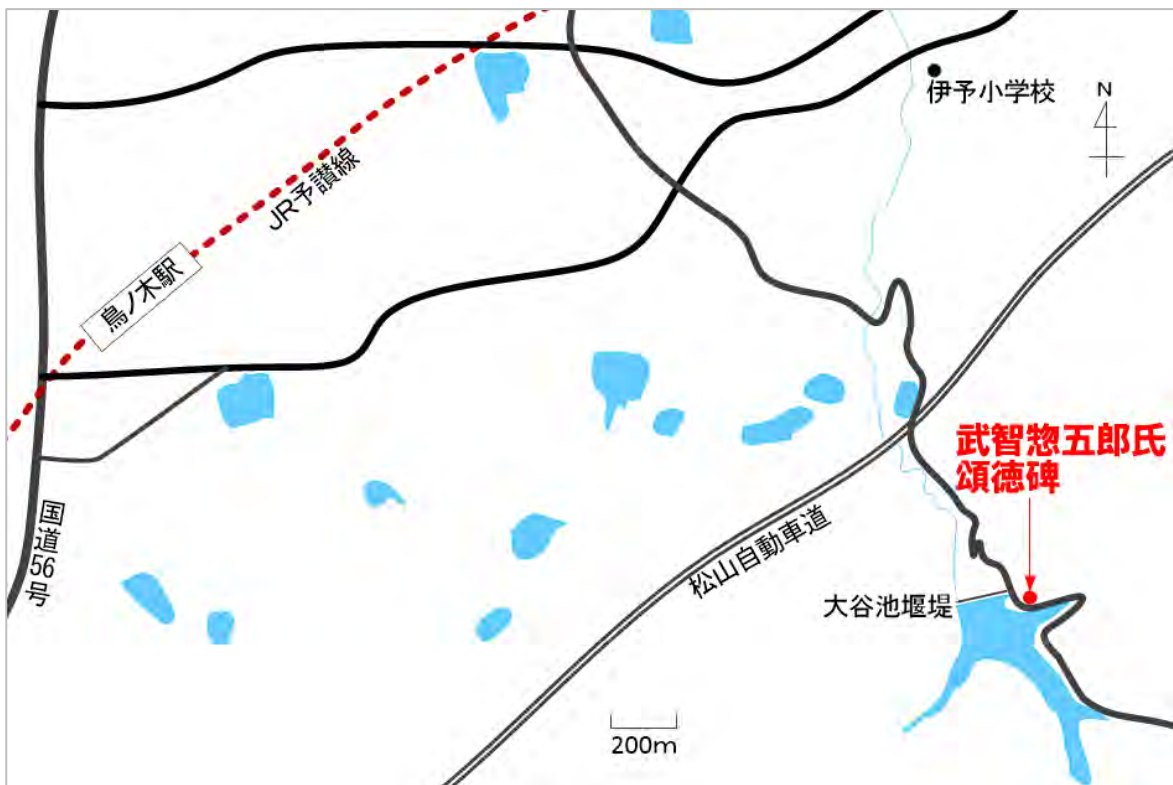
(裏)

武智惣五郎君ハ愛媛縣伊豫郡南伊豫村上三谷ノ人ナリ資性俊敏頗ル公共心ニ富ム南伊豫村々長ノ職ニ在ルコト二十有餘年其ノ間伊豫郡町村長會々長愛媛縣町村長會々長全國町村長會理事ニ選バレ更ニ愛媛縣會議員トシテ縣政ニ參與シタリ殊ニ心ヲ産業ノ發展ニ注ギ自治ノ振興ニ貢獻セシコト枚舉ニ遑アラズ就中大谷池ノ築造ハ實ニ君ノ創始完成セシ所ナリ惟フニ南伊豫村外三箇町村ハ古來灌漑水ニ乏シクシテ早害頻ニ至リ大谷川ノ氾濫ニヨル水害モ亦多ク該地區住民ノ困憊眞ニ名状スベカラザルモノアリ君座視スルニ忍ビズトナシ其ノ水源地ニ水量三十万立方坪ヲ貯溜スベキ大谷池ノ築造ヲ企テタリ時正ニ大正十二年君年齒三十八歳ナリキ翌十三年南伊豫村外三箇町村耕地整理組合ヲ興シ其ノ實現ニ努ム蓋シ其ノ事業タルヤ縣下唯一ノ大貯水池ニシテ其ノ土堰堤ハ我が國ニ於ケル最高ノモノナレバ到底不可能ノ事業ナリトノ論議勦力ラズ加之當時政黨ノ争ヒ熾烈ヲ極メタレバ工事ノ實施容易ナラザルモノアリ君慨然トシテ曰ク成否ハ固ヨリ天ニ在リ吾レ死ストモ辞セズト或ハ内ニ諮リ或ハ外ニ説キ苦心經營スルコト正二十年漸ク各方面ノ支援ヲ受ケ昭和六年之ヲ縣營ニ移管ス依テ更ニ關係地區用排水改良工事組合ヲ組織シ翌七年愈々第一期導水溝工事ニ着手竣功セリ然ルニ翌八年第二期工事ニ移ルヤ岩層ト土質トノ關係ヨリシテ工事ニ支障ヲ来シタルノミナラズ昭和九年ニハ不慮ノ大水害アリ為メニ既成ノ基礎工事ハ全ク画餅ニ歸スルノ已ムナキニ至レリ君猶屈セズ着々其ノエヲ進ムト雖モ規模宏大ニシテ所要資材ノ巨額ナルト岩層土質ノ關係ニヨル工事ノ至難ナルトハ胥テ其ノ進展ヲ阻礙セシメシガ君ハ殆ド寢食ヲ忘レテ事ニ從ヒ昭和二十年三月ニ至リ漸ク完成ノ慶ニ接ス其ノエヲ起シテヨリ正二十有餘年ノ星霜ヲ經タリ之ヨリシテ確確ノ地忽チ豊穰ノ沃土ト化シ農産物ノ増進期シテ俟ツベキヲ見ル是レ一ニ君ノ卓見ト至誠トノ實ニシテ餘澤遠ク後世ニ及フ其ノ功實ニ偉ナリト謂フベシ因テ茲ニ此ノ碑ヲ建テ功ヲ勒シテ其ノ徳ヲ不朽ニ傳フ

昭和二十三年八月

愛媛縣伊豫郡南伊豫村外三箇町村耕地整理組合建之

■位置図



愛媛県伊予市

愛媛23 大谷池改修事業の概要碑（ため池、平成18年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

大谷池改修工事（平成17年竣工）

大谷池は昭和20年に完成してから半世紀以上が経過すると老朽化が顕著になり、堤体などから漏水するようになった。このため、平成12年から愛媛県が県営ため池等整備事業として堤体の大改修工事に着手し、平成17年に完成した。ここに県下最大のため池にふさわしい施設として再び甦った。平成18年5月には加戸守行知事を現地に迎え、竣工記念式典が挙行された。加戸知事揮毫による記念碑「甦る大谷の塘」が建立されている。

（参考文献…伊豫郡大谷池土地改良区編「県下最大のため池 大谷池」二〇一一年）



甦る大谷の塘碑

■碑文

大谷池改修事業の概要

武智惣五郎翁をはじめ先人の永年にわたる労苦のもと、県営用排水改良事業として昭和二十年三月に完成した大谷池は、昭和四十二年からは国営道前道後平野地区農業水利事業の調整池の役割も担い、爾来伊予市と松前町に拡がる約一千ヘクタールに及ぶ農地を潤し、地域の農業はもとより産業経済の振興発展に多大な貢献をしてきた。

しかしながら、完成後五十年余が経過して老朽化が進行し、堤体や底樋内からの漏水が増加するとともに、大雨時には余水吐隧道が溢れる事態も起こり決壊の虞が強まったことから、伊豫郡大谷池土地改良区は改修を決意、平成十二年度に県営ため池等整備事業として採択され、六年の歳月を経て完成をみた。

国、県、市町、道後平野土地改良区、愛媛大学農学部をはじめ関係各位の適切な指導、援助に感謝するとともに、今後とも貴重な地域資源である大谷池を立派に守り育て後世に伝承することをここに誓う。

伊豫郡大谷池土地改良区

平成十八年三月吉日建立

事業名 県営ため池等整備事業（大規模）

地区名 大谷地区

受益面積 九百八十五ヘクタール

事業費 八億二千六百五十万円

負担割合 国五十五%

県二十五%

市町 伊予市

松前町

堤体工、取水施設工

十%

洪水吐工

十五%

地元 伊豫郡大谷池土地改良区

堤体工、取水施設工

十%

伊予市配水協議会

洪水吐工

五%

事業内容

堤体工（上部の中心遮水コア土置換）

百七十七メートル

取水施設工（堤樋トンネル内巻工法にて補強）

百九十六メートル

洪水吐工（放水路隧道式を開水路式に改築）

二百一十一メートル

工期

平成十二年度～平成十七年度

（裏）

大谷池改修当時役員

伊豫郡大谷池土地改良区（23人の氏名省略）

伊予市配水協議会（24人の氏名省略）

■位置図





■碑にまつわる社会資本整備の概要

大谷池の築造（昭和20年完成）

南伊予村長の武智惣五郎は大正12年に大谷池築造を決意した。大正13年に南伊予村外三ヶ町村耕地整理組合を設立し、昭和5年に干ばつによる窮状を県知事に訴えたところ、県知事が県議会に大谷池築造の議案を提出したが、政争により否決された。しかし、大谷池築造は昭和6年1月に内務省より許可され、昭和7年に県営用排水改良事業として工事が開始された。工事は南伊予村外三ヶ町村用排水改良工事組合が請け負い、人海戦術により工事を進めたが、昭和9年の室戸台風による被害を受けたため漏水防止に苦労した。昭和17年度からは組合に代わって県が直営方式で工事を進め、昭和20年3月に完成した。

（参考文献：伊豫郡大谷池土地改良区編「県下最大のため池 大谷池」二〇一一年）



大谷池の全国ため池百選の標識

(標識)

全国ため池百選

大谷池

大谷池は、全国に21万あるといわれるため池の中から、農林水産省の「全国ため池百選」に選定された。

選定の理由は、①地域の先人が心血を注ぎ、14年の歳月をかけ、昭和20年に完成した県下最大のため池である。②貯水量180万トン、灌漑面積は1,100haにも及び、地域農業発展の礎を築いている。③地域住民の参画による保全・維持活動が継続的に行われている。④マガモ・カルガモなど2,000羽近くの渡り鳥が飛来し、その越冬地として重要な役割を果たしている。⑤周囲は美しい国有林に囲まれ、春は桜、夏は青葉、秋は紅葉、冬は渡り鳥と、四季折々の彩を水面に映し、訪れる人たちの憩いの場になっていることによる。

愛媛を代表するため池として、歴史にその名を刻む大谷池は、伊予市が誇る貴重な文化的遺産である。

伊豫郡大谷池土地改良区

伊予市配水協議会

伊予市

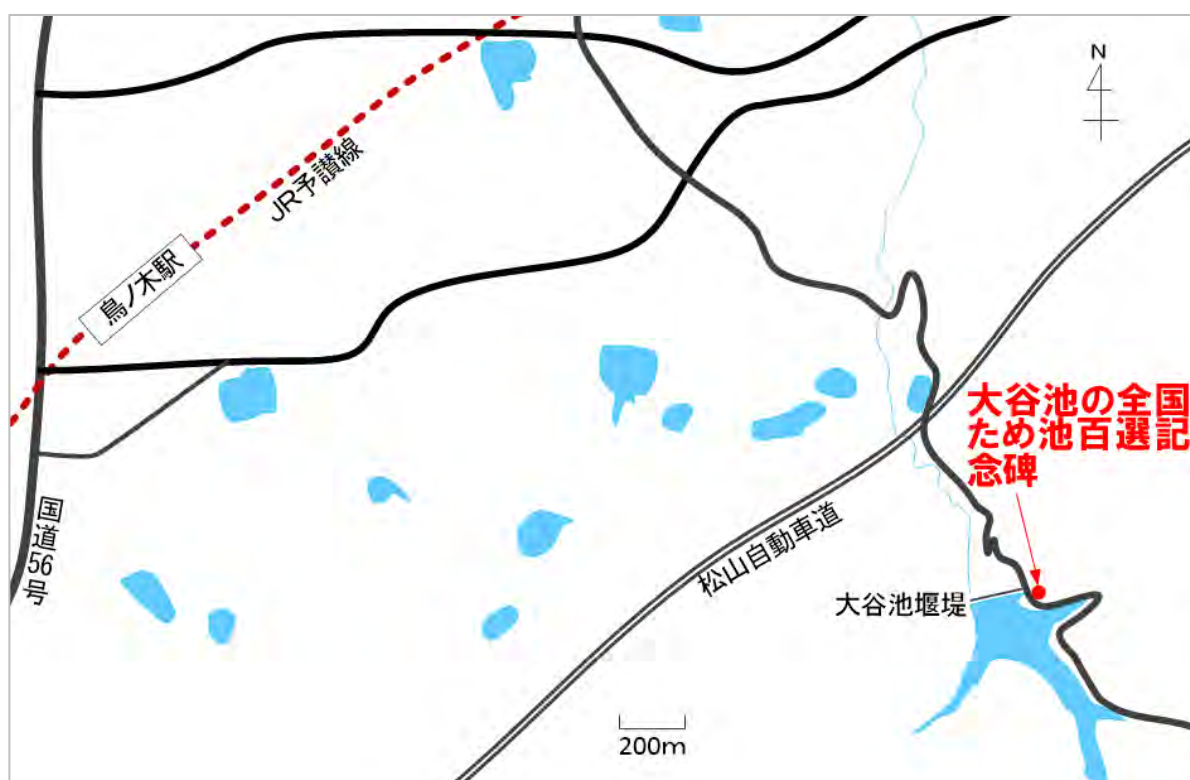
(碑)

大谷池

全国ため池百選記念碑

平成二十二年三月
農林水産省選定

■
碑文



■
位置図

愛媛県大洲市

愛媛25 肱川治水碑（河川、平成12年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

肱川激甚災害対策特別緊急事業（平成12年度竣工）

平成7年7月梅雨前線による豪雨のため、東大洲地区から大和橋付近の区間では浸水被害を受けた。平成7年9月の直轄河川激甚災害対策特別緊急事業の事業採択により、東大洲地区から大和橋付近の一〇地区で河川改修計画がなされ、長浜町（現大洲市）では岡、豊中、柿早、加屋、田ノ淵、郷（下須戒）の六地区が対象となり、工事に着手した。長浜町の築堤整備の延長は約三、五キロメートルに及んだ。平成12年11月には白滝地区で完成を祝い、記念の碑除幕式が行われた。

（参考文献…長浜町誌編集会編「長浜町誌 続編」二〇〇四年）



肱川右岸堤防（大洲市白滝）

■ 碑文

(主)

肱川治水碑

平成十二年十一月吉日

(側碑)

平成七年七月三日および四日の
梅雨前線の南下に伴う豪雨により
大洲盆地を中心とした肱川沿川で
約九百三十戸が浸水被害を受けた
これに対し、平成八年一月より
肱川激甚災害対策特別緊急事業に
より大洲市、長浜町の肱川沿川の
十箇所において堤防や樋門などの
整備を実施した

地元関係者を始め多くの方々の
多大なるご協力とご尽力を頂き、
全事業を完成することができた

ここに肱川の治水と安全、地域
発展を願い、記念の碑を建立する

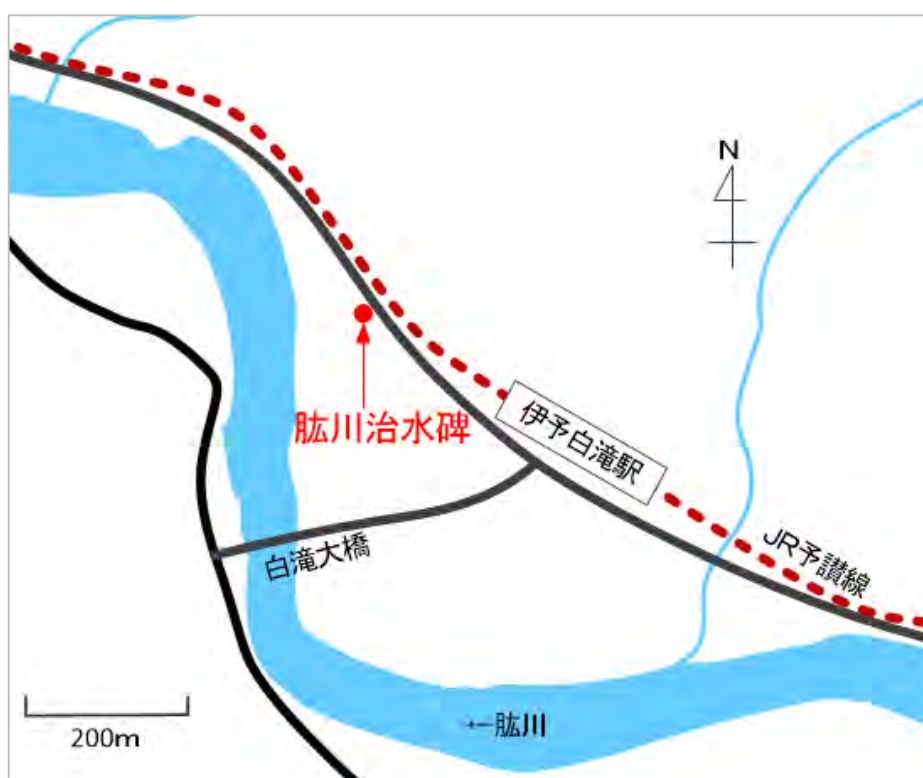
平成十二年十一月吉日

四国地方建設局

大洲市

長浜町

■ 位置図



愛媛県八幡浜市

愛媛26 南予用水碑（用水、平成8年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

南予用水農業水利事業（平成8年度竣工）

南予用水農業水利事業は、野村ダムから取水してみかん園に農業用水を供給し、渇水被害の軽減、薬剤散布の労力軽減などにより地域のみかん農業の基盤を強化することを目的に実施された。事業は、農林省により昭和46～47年度に地区調査計画、昭和48年度に全体実施設計を経て昭和49年10月に着工した。受益地は二市七町の五七六三ヘクタールを対象とされていたが、その後受益地拡大の要望を受け、事業計画の変更が必要となり、平成元年度に受益地を二市七町の七二〇〇ヘクタールに拡大して、平成8年度に工事が完了した。

（参考文献…続伊方町誌編集委員会編「続 伊方町誌」二〇〇五年）



南予用水農業水利事業完工之碑
（南予用水碑の側碑）

■碑文

(主)

南予用水
愛媛県知事
伊賀貞雪書

(側碑)

南予用水農業水利事業
完工之碑
南予は水資源が乏しく 柑橘栽培主体の農業は繰り返し深刻な干ばつ被害を蒙ってきた 昭和四二年の大干ばつを契機に水資源確保とかがい施設整備を目指す機運が大きく盛り上がった
国営南予用水農業水利事業は 野村ダム(建設省所管)から導いた用水を柑橘園に供給することにより地域農業の基盤強化と合理化を図るものである
この事業の完成により南予の農業農村が発展することを祈念してこの記念碑を建立する
事業概要
事業主体 農林水産省 中国四国農政局
事業地域 宇和島市 八幡浜市 保内町 伊方町 瀬戸町 三崎町 三瓶町 明浜町 吉田町
受益面積 七、二〇〇ヘクタール
最大取水量 毎秒三、五一立方メートル
総事業費 七八六億円余
事業期間 自 昭和四九年度 至 平成八年度

主要施設

吉田導水路 延長六、四キロメートル
幹線水路 延長九七、六キロメートル
支線水路 延長七一、九キロメートル
補助水源 一ヶ所(東蓮寺ダム)
調整池 二ヶ所(布喜川 伊方)
揚水機場 二ヶ所
調整水槽 三七ヶ所

平成八年十月吉日

■位置図



愛媛県八幡浜市

愛媛27 布喜川調整池の碑（用水、平成9年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

南予用水事業（平成8年度竣工）

南予用水事業は、昭和42年の干ばつを契機に愛媛県が昭和45年に南予水資源開発計画を策定したことに始まる。昭和49年に宇和・野村の二町の同意を得て野村ダムの建設が始まった。南予用水は、野村ダムの水を法華津峠の下を通し、吉田町大河内で北幹線と南幹線に分岐し、北幹線は八幡浜の布喜川調整池と伊方調整池に通して三崎町まで運び、南幹線は宇和島市内の三浦半島まで配水され、途中から九島へ海底パイプラインにより配水するもので、平成8年度に完成した。

（参考文献…八幡浜市誌編纂会編「合併十周年記念版 八幡浜市史 第一巻 歴史編」二〇一八年）



布喜川調整池

■ 碑文

(表)

布喜川調整池
八幡浜市長
吉見弘晏

(裏)

布喜川調整池は長大な北幹線水路において円滑な送水 配水管理を行うことを目的とした施設である
この調整池により野村ダムから佐田岬半島まで延びる約七七キロメートルの北幹線水路の水管理をきわめてスムーズに行うことができる
水が必要なときには野村ダムからの送水待つ(約八時間)ことなく調整池に貯留されている水をすぐに使うことができ 需要に対応した水管理を行うことができる

諸 元

位置	愛媛県八幡浜市布喜川地先
河川	流田川(二級河川)
ダム型式	直線重力式コンクリートダム
堤高	三三、七メートル
堤頂長	一一〇、〇メートル
堤頂標高	EL九八、七メートル
総貯水量	一九七〇〇〇立方メートル
有効貯水量	一五〇〇〇〇立方メートル
常時満水位	EL九五、〇メートル
低水位	EL八六、三メートル
取水量	毎秒二、一〇二立方メートル
工期	昭和五四年〜昭和五九年 平成九年三月吉日 農林水産省

■ 位置図





■碑にまつわる社会資本整備の概要

予讃本線八幡浜く卯之町間(昭和20年開通)

予讃本線は昭和14年までに高松から八幡浜まで開通し、昭和16年には宇和島く卯之町間が開通した。残された八幡浜く卯之町間は昭和17年から工事が始められた。戦争下にあつて建設用資材の確保と労力の不足に悩みながらも、国土防衛上の必要から地元の勤労奉仕隊員約五万人が動員されて八幡浜く卯之町間の建設が急ピッチで行われ、昭和20年6月に開通して予讃本線が全通した。

(参考文献…八幡浜市史編纂会編「合併十周年記念版 第一巻 歴史編」二〇一八年)



双岩駅

(側面)

建立者
4人
(氏名省略)

(正面)

鉄道開通記念碑

昭和8年今は黄泉の人士たる菊池教之翁 佐竹岩松翁 三瀬利孝翁
及び井上永治翁らが先導となり 双岩村に鉄道誘致運動おこる
村民の奉仕の精神と相まって

昭和20年6月20日 予讃本線八幡浜卯之町間開通す 第二次大
戦後 苦難の時代にもひたすら走り続け国土の復興産業の発展に寄
与すること顕著なり

モータリゼーションの進展とともに 鉄道利用は激減し今昔の感ひ
としお深し 輸送の使命再び大ならんことを期するとともに 先人
の偉業を偲んでこの碑を建つ

昭和60年10月14日

■
碑文



■
位置図

愛媛県伊方町

愛媛 29 国道改築記念碑(国道一九七号) (道路、昭和62年建立)



■碑にまつわる社会資本整備の概要

佐田岬地区改良工事(国道一九七号)(昭和62年完成)

国道一九七号の八幡浜市矢野町から三崎町に至る五四、四キロメートル(旧道)の間は、愛媛県により改築された区間を除いて、平均幅員三、六メートルの狭小な道路であったため、早期の改築が望まれていた。このため、昭和45年度に八幡浜バイパスで改築事業が開始されたのに引き続き、順次事業化された。施工区間には、トンネルが大峠トンネル外一九箇所、橋梁が堀切大橋外三一箇所計画され、総延長が三八、九キロメートルとなり、旧道と比べて延長で約一六キロメートル、時間で六〇分短縮された。昭和62年12月に全線完成供用し、管理を建設省から県に引き継いだ。

(参考文献：建設省四国地方建設局大洲工事事務所編「大洲工事五十年史」一九九四年)



堀切大橋

■ 碑文

(上)

国道改築記念
四国地方建設局長 岡田朋

(下)

一般国道 197 号
佐田岬道路事業概要

一般国道 197 号佐田岬道路は四国西南部と九州中部を結ぶ唯一の幹線道路であるが、古くから交通の隘路となっていた。この解消のために、建設省大洲工事事務所は八幡浜から三崎間延長 38.9KM の道路事業に昭和 45 年より着手し 18 年の歳月をかけて昭和 62 年に完成させた。

路線名 一般国道 197 号
規格 第 3 種 3 級 設計速度 40 及び 50KM
延長 38.9KM (うち県施工 3.7KM)
事業費 約 410 億円
幅員 車道 6.0M 歩道 1.5M 全幅 9.5M
全線供用 昭和 62 年 12 月 4 日

■ 位置図





■碑にまつわる社会資本整備の概要

宇和島市の南予農業用水事業（平成13年度竣工）

南予農業用水事業は、南予地区二市七町七二〇〇ヘクタール（宇和島市七五〇ヘクタール）の樹園地に農業用水を供給する計画のもと事業が実施された。宇和島市では昭和49年12月に宇和島市土地改良区が設立されて、本格的に事業への取り組みが始まった。野村ダムを水源として、吉田導水路六、四キロメートルを経て、吉田分水工より南幹線水路として三浦に至る国営幹線水路二七、一キロメートルが設置され、県営かんがい排水事業として幹線水路二一、二キロメートルの管路工と三十箇所配水槽が設置された。末端施設までの全事業が完了したのは平成13年度であった。

（参考文献：宇和島市誌編集委員会編「宇和島市誌 下巻」二〇〇五年）



東蓮寺ダム

■碑文

(主)

山緑水豊地
吉田町長
児玉武夫

完工記念碑

本町の農業は、急傾斜畑における柑橘栽培が中心である。
用水を天水に依存しているため、毎年のごとく干ばつの脅威
にさらされていた。

県営かんがい排水事業は国営分水施設から各樹園地までの
基幹施設を工事することにより農業経営の安定と農業振興に
大きく貢献するものである。

事業の完成にあたり関係各位の御尽力に深く感謝し我々の
産地発展を誓いこの碑を建立する。

事業概要

事業名 県営かんがい排水事業

事業主体 愛媛県

地区名 南予第二地区（玉津工区）

施工年度 昭和五十八年度～平成八年度

総事業費 七億七千五百万円

主要工事 用水路工 九千六百メートル

受益面積 三百三十二ヘクタール

地区名 吉田南部地区

施工年度 昭和五十九年度～平成十年度

総事業費 十五億二千八百万円

主要工事 用水路工 一万八千六百メートル

受益面積 九百二十ヘクタール

地区名 吉田東部地区

施工年度 昭和六十年～平成九年度

総事業費 十一億円

主要工事 用水路工 一万六千メートル

受益面積 四百四十八ヘクタール

関連事業 国営南予農業水利事業

畑地帯総合整備事業





■碑にまつわる社会資本整備の概要

明治期の宇和島港の改修（明治43年竣工）

明治期の宇和島港では須賀川、辰野川などが運び込む土砂が堆積して、内港は干潮時には舟の出入りさえも不自由になっていた。町長に就任した中原渉は内港の浚渫を決意し、県に対して港湾改修事業の実施を働きかけ、その費用のうち人夫二万人役の提供と用地及び支障物件に要する経費を町が負担する代わりに、事業により生じる土砂埋立地の無償払い下げを受ける約束を取り付けた。県は明治41年からの土木事業計画に宇和島港の改修計画を編入して本格的に取り組み、内港の浚渫、辰野川口及び須賀川口の埋立や浚渫が明治43年に竣工した。内港は蘇り、船舶の航行が自由となつて経済の振興に貢献するとともに、造成された埋立地が町有財産となり、新市街地が生まれることになった。

（参考文献…宇和島市誌編纂委員会編「宇和島市誌 上巻」二〇〇五年）



宇和島新内港

■碑文

澤 恵 受 長

中原町長頌功碑 侯爵伊達宗陳篆額 高田忠周書

軍国ノ都市ハ城池ヲ中心トシ文明ノ都市ハ港灣ヲ中心トス我宇和島ノ地タル舊伊達氏封疆ノ首府ニシテ士邸商鋪鶴島城ヲ繞リテ櫛比シ前ニハ豊豫海峡ノ險灘ヲ擁シ背ニハ鬼城ノ峻嶺ヲ負フ詢ニ軍國天險ノ城市ナリ而モ沿岸水浅ク港口壅塞シテ舟楫ノ利乏ク船舶ノ錨地ハ遠ク市街ヲ距ル樺崎ノ一角ニ在リ我町ヲシテ文明ノ都市タラシメントス抑亦難イ哉陸軍少将中原涉君ノ推サレテ我町長ト爲ルヤ深ク茲ニ見ル所アリ大ニ内港修築ノ必要ヲ唱ヘ屢當局ニ迫リテ其急施ヲ促シ竟ニ知事ヲ動力シテ縣議ヲ決セシメ町ハ之ニ對シテ地所及工費ヲ提供シ其代償トシテ沿岸ノ水面ヲ埋メ之ヲ町有財産ト爲スコトヲ許サルニ至ル爾來町會ハ石崎庄吉居村繁治郎堀部乙藏神森眞市高畠秋松吉田百三長瀧嘉三郎山村豊次郎山本助治郎蛭子屋惣六郎ノ諸氏ヲ擧ケテ委員トシ助役桑山吉輝氏ト共ニ町長ヲ助ケテ事ニ當ラシメ町民亦町長ノ勸誘ニ應シ喜ンテ地所工費ヲ提供ス是ヲ以テ工事遂行ノ準備速ニ成リ尋テ縣ハ工ヲ起シ暮年ニシテ竣成ス實ニ明治四十三年ナリ茲ニ於テ我宇和島町ノ中心ハ鶴島山頂翠松ノ間ニ屹立スル天王閣ヨリ轉シテ帆檣林立萬貨幅湊ノ内港ニ移リ地方ノ民人永ク其惠福ニ賴ルコトヲ得ルニ至レリ抑此事業タルヤ前記諸氏亦興リテ大ニ力アリト雖モ町長熱誠ノ功其最モ多キニ居ル聞ク安藤知事曾テ人ニ語テ曰ク中原町長ハ武勲赫赫ノ人ニシテ高齢軍職ヲ退クモ敢テ其身ヲ私セス老軀ヲ自治制ニ捧ケテ奉公ノ誠ヲ竭ス余力企畫セル縣下七十二工事中劇甚ナル競争ヲ排シテ先ツ宇和島内港ノ改修ニ着手シタルハ實ニ中原氏ノ至誠人ヲ動シタル力爲ノミト嗚呼此軍國ノ市街ヲ變シテ文明ノ市街タラシメタルハ中原老将軍其人ナリ將軍曾テ日清日露ノ兩戰役ニ從フテ偉勲アリ後町長ノ職ニ在ルコト十年施設ノ見ルヘキモノ甚多シ就中其最モ顯著ナルモノヲ内港ノ修築トス斯武功ノ人ニシテ斯文勲アリ郷人深ク之ヲ德トシ有志胥謀リ碑ヲ建テ功ヲ勒シ永ク後昆ヲシテ其餘澤ヲ忘ルルコト勿ラシム

大正八年十月 正三位勲一等法学博士男爵穗積陳重撰

■位置図



愛媛32 内海ふれあいトンネル開通記念碑（道路、平成4年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

内海ふれあいトンネル（国道五六号）（平成4年完成）

国道五六号内海トンネルは、昭和45年の開通以来、須ノ川地区の中学生が通学路として使っていたが、交通量が多く危険性が高かった。昭和62年に村内の中学校の統合により、柏・柏崎地区の中学生が須ノ川地区の内海中学校への通学路として使い始めたのを契機に、柏・柏崎地区の住民から要望が出され、既設トンネルに平行する歩道トンネル（自転車歩行者道）を設けることとした。平成元年に調査を開始、平成2年に着工し、平成4年に「内海ふれあいトンネル」（延長一〇六〇メートル、幅員四、〇メートル）が完成した。

（参考文献…内海村史編纂委員会編「新訂 内海村史」二〇〇四年）



内海ふれあいトンネル

■ 碑文

(裏)	(表)
平成四年十二月吉日	内海ふれあいトンネル 開通記念

■ 位置図



高知県

高知県室戸市

高知 1 佐喜浜川砂防の記念碑（治山、昭和8年建立）

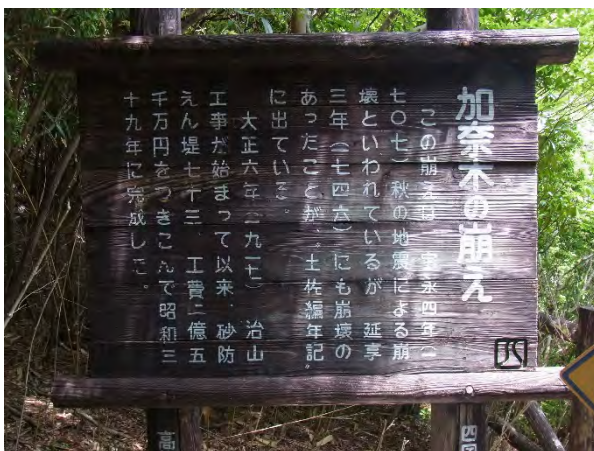


■碑にまつわる社会資本整備の概要

佐喜浜川砂防事業（昭和7年着工）

佐喜浜川では加奈木地区で延享3年（一七四六）に最初の崩壊が発生し、一集落三〇戸の家屋全部と田畑五〇町歩余が埋没または押し流され、人畜の死傷も夥しかったと伝えられている。その後も大崩壊が続いた。対策工事として、大正6年から治山工事が、昭和7年から砂防工事が始まり、昭和52年度から本格的な整備に着手し、現在に至っている。平成7年現在、ダム29基が完成しており、12基を計画または施工中である。佐喜浜川は小規模状態で、下流域に大きな災害を出していない。

（参考文献…高知県土木史編纂委員会編「高知縣土木史」一九九八年）



加奈木の崩えの標識（佐喜浜川上流端）

■ 碑文

記 念 碑
昭和七年縣ハ政府ノ命ニヨリ匡救事業トシテ当所ニ
砂防ノ堰堤ヲ畫シ十月起工晝夜兼行萬難ヲ排シテ茲
ニ其竣工ヲ告ク監督小松峯馬氏ハ資性穩健言寡ケレ
トモ情濃力ニ部下亦其德ニ懷キテ渾然一体期外ノ成
果ヲ得タリ千丈ノ堤萬里ノ城モ鳥悲鬼哭ノ慘ヲ盡サ
ハ其功業以テ称スルニ足ラス上下ノ和至誠ノ迸是レ
即チ當堰堤ノ誇トスル所以噫悠々タル流水此ノ美
ヲ千歳ニ傳ヘ黙々タル連峰ハ此ノ德ヲ万世ニ藏セン
偉ナル哉

川崎鮎之助撰

濱西敏明書

昭和八年三月

■ 位置図





■碑にまつわる社会資本整備の概要

魚梁瀬発電所（昭和40年完成）

奈半利川水系の電源開発については住友共同電力と四国電力によつて検討がなされていたが、昭和29年11月に電源開発調整審議会で電源開発の主体を電源開発株式会社とすることが決定された。馬路村では魚梁瀬ダム築造絶対反対を唱えたが、県知事が調整役となり、ダムにより水没する魚梁瀬集落のために上流四キロメートルの丸山台地に三万坪以上の土地を造成することなどで決着が図られた。奈半利川水系の電源開発の中核となる魚梁瀬ダムは昭和37年に着工され、魚梁瀬ダムの直下にある魚梁瀬発電所は昭和40年6月に営業運転を開始した。

（参考文献…安岡大六著「馬路村史」一九六六年、土木学会中国四国支部編「土木へのいざない」一九九一年）



魚梁瀬発電所

■ 碑文

丸山台地	(表)
記 昭和四十年二月魚梁瀬部落は湖底に沈む。 壽永四年檀ノ浦合戦に敗れた平教經がのがれ住んだ伝説から七百八十年の歴史がこの台地で始まる新しい魚梁瀬に引き継がれる。 台地造成の発想より十年愛着と憎悪と混乱の日々をひとびとは勇氣と英知と忍耐をもってうち勝ったことをしるす。 馬路村 魚梁瀬ダム補償対策会 電源開発株式会社 昭和三十九年四月十四日 丸山台地竣工式舉行	(裏)

■ 位置図



高知県香美市

高知 3 四足峠トンネルの碑（道路）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

四足峠トンネル（国道一九五号）（昭和39年竣工）

国道一九五号四足峠トンネルは、高知県物部村別府と徳島県木頭村北川を結ぶ延長一八五七メートル、有効幅員五、五メートルのコンクリート舗装のトンネルである。もともと日本道路公団が有料道路「高德トンネル」と称して計画していたが、内外の情勢により中止となった。これが徳島・高知両県への補助事業として採択され、昭和36年11月に高知県四足峠ずい道建設事務所を特設し、四足峠トンネルとして昭和37年1月に工事着手、昭和39年12月に竣工した。

（参考文献…徳島県・高知県編「四足峠トンネル II 級国道一九五号線四足峠トンネル工事概要」一九六四年）



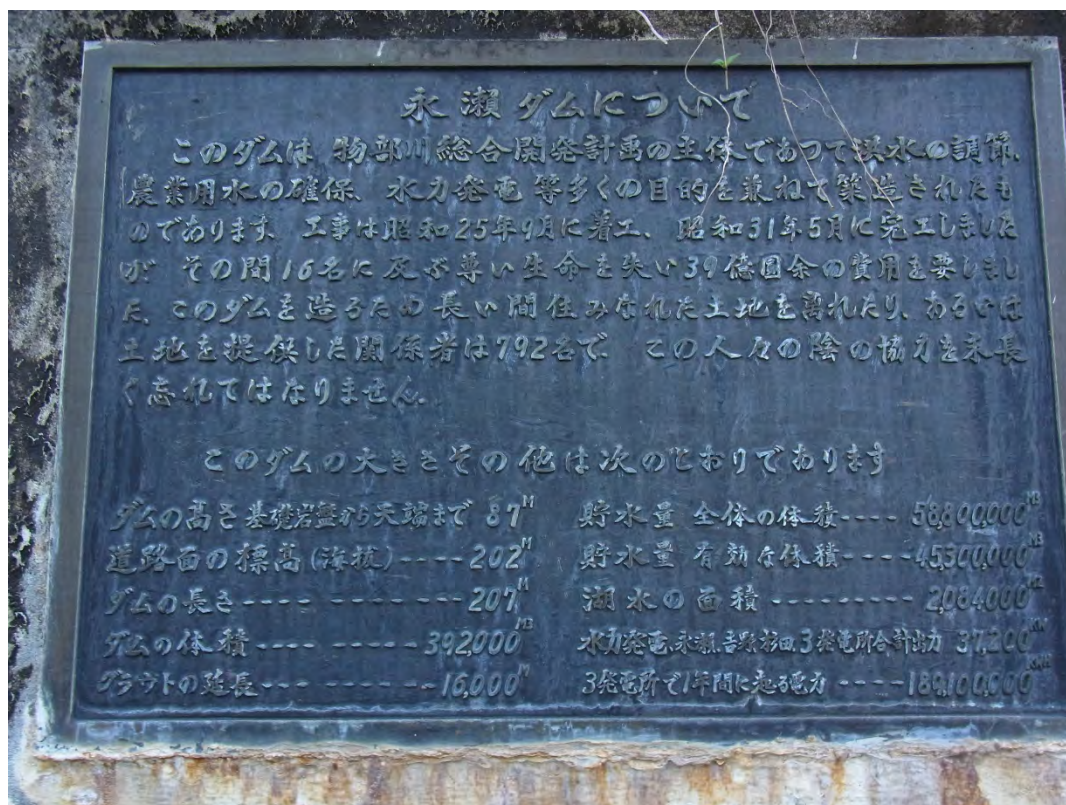
四足峠トンネル（高知県側）

■ 碑文

四足峠トンネル	
トンネル延長	一八五七メートル
コンクリート量	一七八〇〇立方メートル
着手	昭和三七年一月
竣工	昭和三九年十二月
設計監督	高知県
工事請負	株式会社竹内建設

■ 位置図





■碑にまつわる社会資本整備の概要

永瀬ダム（物部川水系）（昭和31年竣工）

永瀬ダムは物部川河口より約三一、四キロメートルの地点に建設された洪水調節、かんがい、発電の多目的ダムである。昭和24年に河川統制事業として建設省直轄で調査・計画に着手、昭和25年度から見返資金により本格的な建設に着手し、昭和26年度から公共事業による河川総合開発事業と改称された。永瀬ダムの工事実施は建設省が、永瀬・吉野・杉田の三発電所は県営電気事業として高知県が行うことになった。永瀬ダムは、昭和25年の着工以来七年を要し昭和31年5月に完成、昭和32年8月に建設省から高知県に引き継ぎ移管された。

（参考文献…高知工事事務所編「高知工事事務所四十年史」一九八七年）



永瀬ダム

永瀬ダムについて

このダムは、物部川総合開発計画の主体であって洪水の調節、農業用水の確保、水力発電等多くの目的を兼ねて築造されたものであります。工事は昭和 25 年 9 月に着工、昭和 31 年 5 月に完成しましたが、その間 16 名に及ぶ尊い生命を失い 39 億圓余の費用を要しました。このダムを造るため長い間住みなれた土地を離れたり、あるいは土地を提供した関係者は 792 名で、この人々の陰の協力を未長く忘れてはなりません。

このダムの大きさその他は次のとおりであります。

ダムの高さ基礎岩盤から天端まで	87M
道路面の標高（海拔）	202M
ダムの長さ	207M
ダムの体積	392,000M ³
グラウトの延長	16,000M
貯水量 全体の体積	58,800,000M ³
貯水量 有効な体積	45,300,000M ³
湖水の面積	2,084,000M ²
水力発電、永瀬、吉野、杉田	
3 発電所合計出力	37,200KW
3 発電所で 1 年間に起る電力	189,100,000KWH



高知県香美市

高知5 永瀬ダムの慰霊碑（河川、昭和31年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

永瀬ダム（物部川水系）（昭和31年竣工）

永瀬ダムは物部川河口より約三一、四キロメートルの在所村永瀬に建設された洪水調節、かんがい、発電の多目的ダムである。昭和22年度に内務省により実施計画調査が開始され、昭和25年度に建設省により本格的着工、昭和26年度から国土総合開発法に基づく河川総合開発事業として続行された。昭和27年11月にコンクリート打設を開始、その後岩盤の崩落や記録的出水に見舞われながらも対策を講じ、昭和30年5月に一次湛水を開始、昭和31年6月に竣工式を挙行了した。

（参考文献…高知県土木史編纂委員会編「高知縣土木史」一九九八年）



永瀬ダム

■ 碑文

(側面)	(正面)
昭和三十一年五月 間組社長 神部満之助	慰霊碑
	建設省 （4人の氏名省略） 間組 永瀬堰堤 （12人の氏名省略） 永瀬発電所 （7人の氏名省略） 吉野発電所 （2人の氏名省略） 殉職者

■ 位置図



高知県大豊町

高知 6 鉄道開通記念碑（豊永駅）（鉄道、昭和10年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

土讃線土佐山田～琴平間（昭和10年開通）

大正12年4月に土讃線を東豊永で南北二つに分け、琴平～東豊永間六五キロメートルを土讃北線とし、土佐山田～東豊永間三五キロメートルを土讃南線として、南の土佐山田と北の琴平の両方面から掘り進めることになった。北線は大正12年5月に琴平～讃岐財田間が、昭和4年4月に阿波池田まで開通し、南線は甫岐山隧道ほか二四箇所の特トンネルを掘削して昭和5年6月に角茂谷まで、昭和7年12月には大杉まで、昭和9年10月に豊永まで開通した。北線は昭和6年9月に三縄まで延び、昭和10年11月に三縄～豊永間が開通し、高松～高知間が全通した。

（参考文献…大豊町史編纂委員会編「大豊町史 近代現代編」一九八七年）



豊永駅

■ 碑文

(側面)

(正面)

昭和十年
十一月二十八日

鉄道開通記念

■ 位置図





■碑にまつわる社会資本整備の概要

土佐電鉄安芸線の電化（昭和24年完成）

昭和16年に高知鉄道は土佐電気から電車部門を譲り受け、バス事業も吸収し、社名を土佐交通と改称し、昭和23年4月には合併により土佐電気鉄道となった。土佐電気鉄道は昭和23年11月に安芸線の電化を起工し、第一工区（後免く手結間）は昭和24年4月に完成し、第二工区（手結く安芸間）は同年7月に竣工した。電化の完成により、後免く安芸間の所要時間は、それまでの一時間四〇分から五〇分に短縮された。土佐電鉄安芸線は昭和49年に廃止され、平成14年からは後免く奈半利間に土佐くろしお鉄道阿佐線（ごめん・なはり線）が運行されている。

(参考文献) 八十八年史編纂委員會編「土佐電鉄八十八年史」一九九一年



後免町駅（土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線）

IN COMMEMORATION OF THE OPENING
OF THE ELECTRIFIED AKI LINE

ELECTRIFICATION WORK ON THE AKI LINE, WHICH HAD BEEN OUR LONG-CHERISHED DESIRE, WAS COMMENCED IN NOVEMBER 1948 AND COMPLETED IN JULY THIS YEAR. THE RAPID COMPLETION OF THIS WORK WAS DUE TO THE CORDIAL ASSISTANCE OF LT-COL. OSCAR A. AXELSON, CHIEF OF THE KOCHI CIVIL AFFAIRS TEAM. TO OUR GREAT JOY, IT HAS NOT ONLY PROMOTED THE WELFARE OF THE PEOPLE ALONG THE LINE HAS MADE A GREAT CONTRIBUTION TO THE CULTIVATION OF FRIENDLY RELATIONS BETWEEN AMERICA AND JAPAN. THE PUPILS AND STUDENTS OF THE TOWNS AND VILLAGES CONCERNED HAVE DECIDED TO HAVE THESE WORDS CARVED HERE IN COMMEMORATION OF THE DISTINGUISHED MERIT OF LT-COL. OSCAR A. AXELSON TO EXPRESS THEIR MOST HEARTFELT AND EVERLASTING THANKS.

THIS MEMORIAL IS PLACED HERE BY THE PUPILS AND STUDENTS OF THE TOWNS AND VILLAGES CONCERNED. NOVEMBER 30, 1949.

SHIGERU YOSHIDA, THE PRIME MINISTER

安藝線電化開通記念碑

多年宿望せる安藝線電化工事は昭和二十三年十一月工を起し本年七月工を完成した此の工事が斯くも急速に竣工したのは是れ全く高知民事部長アクセルソン中佐の懇切なる御援助の賜にして沿線住民の福祉頗る多く日米兩國修交の上にも亦絶大の貢献を為したのは吾々の最も欣快とする所である茲に関係町村各學校生徒相謀り先達の功績を刻して永遠に感謝感恩の誠意を表す

昭和二十四年十一月三十日 関係町村學校生徒建之
内閣總理大臣 吉田茂書



高知県土佐町

高知 8 四国のいのち碑（早明浦ダム）（河川、昭和48年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

早明浦ダム（昭和38年度～昭和53年竣工）

早明浦ダムは洪水調節、不特定利水、灌漑、都市用水の供給、発電を目的とした多目的ダムである。治水については、治水容量九〇〇〇万立方メートルを利用し、二七〇〇立方メートル／秒の調整を行う。また、利水容量二億九〇〇立方メートルを利用し、吉野川下流の不特定利水の補給を行うとともに、新規用水として年間八億六三〇〇万立方メートルを開発して四国四県に供給する。早明浦ダムは昭和38年度に実施計画調査を開始し、昭和42年度より水資源開発公団に移管され、昭和53年3月に完工した。

（参考文献…建設省四国地方建設局徳島工事事務所編「吉野川百年史」一九九三年）



早明浦ダム

四国のいのち

(表)

■
碑文

昭和48年11月
高知県知事 溝渕増巳書
水資源開発公団総裁 柴田達夫建

(裏)

■
位置図



高知県土佐町

高知 9 早明浦ダムの殉職者慰霊碑（河川）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

早明浦ダム建設事業（昭和54年完了）

早明浦ダムは池田、新宮などのダムと相まって四国四県の上水道用水、工業用水ならびに徳島県・香川県・愛媛県の農業用水の確保、洪水調節、不特定かんがい及び発電の用に資するものである。工事は昭和40年4月に建設省により工事用道路などの準備工事から始まったが、昭和42年4月に早明浦ダムの建設事業は建設省から水資源開発公団に引き継がれた。ダム本体工事は昭和48年3月に完成したが、その後、貯水池の濁水問題や出水の発生への対応を行い、昭和54年3月にすべての工事を完了した。

（参考文献…水資源開発公団池田総合管理所編「早明浦ダム工事誌」一九七九年）



早明浦ダム

■位置図

(殉職者 6 人の氏名省略)

(裏)

株式会社 間 組
日花総業株式会社



高知県大川村

高知 10 諸霊鎮魂親水の碑（河川、平成 13 年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

大川村と早明浦ダムの建設（昭和 48 年ダム本体工事完成）

昭和 35 年に建設省が早明浦ダムの建設計画を明らかにしたため、大川村では村議会がダム建設絶対反対の決議をし、大川村は昭和 37 年に水没予定の船戸地区に鉄筋三階建ての役場を新築して、反対の砦とした。建設省が昭和 38 年に早明浦ダムの実施計画調査に着手し、高知県や国による働きかけなどもあり、調査実施に反対していた大川村議会も昭和 41 年 6 月に立入調査を受け入れることになった。昭和 42 年 4 月にはダム工事が建設省から水資源開発公団に引き継がれ、昭和 48 年 3 月にダム本体工事は完了した。

（参考文献…大川村史追録編さん委員会編「大川村史 追録」一九八四年）



早明浦ダムのダム湖

諸霊鎮魂
親水の碑

1975 年 3 月 吉野川早明浦にダム堤が竣工となり土佐郡大川村の在家 167 世帯及び役場庁舎が湖底に沈む 深い谷が四国の水瓶として流域の子々孫々に日常生活の安寧と豊かさを潤す

1994 年 10 月 14 日 米国海軍の戦闘機が厚木から岩国へ訓練飛行中この湖水に墜落し搭乗員 2 名の霊が湖底に眠る

On October 14, 1994, a United States Navy attack plane on its training flight enroute for MCAS Iwakuni from NAF Atsugi crashed here; the souls of two crew members are at rest in the lake.

湖水に眠る諸々の霊を鎮魂し 我ら千秋万世に平和と繁栄の庇護あることを願いここに建立する

2001 年 8 月吉日 親水会世話人一同



高知県土佐市

高知11 高岡堤防竣工記念碑（河川、昭和52年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

高岡堤防の拡幅強化（昭和52年度完成）

昭和50年8月、宿毛市付近に上陸した台風五号は、仁淀川上流を中心に集中豪雨をもたらした。鳴川・天崎・末光の山崩れ、用石堤防の決壊、用石・高岡市街地・家俊の浸水などにより、土佐市では死者六人、負傷者七四人、家屋全壊二六戸、家屋半壊七二戸、床上浸水二二五五戸、床下浸水二一〇〇戸などの被害が出た。この台風五号災害を契機に、土佐市街地を守る上で重要な高岡堤防の補強工事が行われ、昭和51年度に吹越から京間銀杏の木の下までが完成し、昭和52年に高岡堤防の下流残区間が完成した。

（参考文献…土佐市史編集委員会編「土佐市史」一九七八年、高知工事事務所編「高知工事事務所四十年史」一九八七年）



高岡堤防

■ 碑文

(表)

高岡堤防竣工記念碑

参議院議員 塩見俊二書

(裏)

昭和五十年八月台風五号は仁淀川中流域に未曾有の集中豪雨をもたらした。仁淀川の洪水は毎秒一万三千五百立方メートルの既往最大を記録し、濁流猛り狂い高岡堤防の漏水または地割れによる堤防欠壊が各所で発生した。地元民ら懸命の水防で仁淀川激流による惨禍はまぬがれたものの土佐市街地の防災上最重要地先である高岡堤防拡幅強化の早期達成はさらに全市民の悲願となった。昭和五十年十二月高岡堤防改修に着工し工期一年有りと事業費三億五千万円をもってこの事業を完成した。堤防は天端幅七米で旧堤防を裏小段とし前面に十四万立方メートルの土砂をもって腹付築堤した。ここに全市民の不安と恐怖を解消する本事業の完成に尽力された人々の功績を讃え感謝の意を表わすため仁淀川清流の一角に碑を建て悠久の流れとともにこれを不朽に伝えるものである。

昭和五十二年七月吉日

(裏下)

土佐市長 板原 伝

建設省高知工事事務所長

大河原満

施工 福留開発株式会社

株式会社轟組

■ 位置図



高知12 波介川河口導流事業通水記念碑（河川、平成24年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

波介川河口導流事業（仁淀川水系）（平成24年竣工）

波介川河口導流事業は、仁淀川と波介川の合流点を約二、五キロメートル下流の仁淀川河口に付け替え、波介川の洪水を仁淀川河口に導流することにより、仁淀川の影響を排し、波介川流域の浸水被害を軽減させるものである。昭和60年度に事業着手したが、地元新居地区の住民が導流路建設により地下水の塩水化、水質の悪化など環境面での悪化や、農業・生活環境への悪影響を懸念したため、国・県・市と地元との協議調整が継続的に行われ、平成16年3月に本格的に着工、平成24年3月に波介川河口導流路が完成し、同年5月に通水が開始された。

（参考文献：国土交通省四国地方整備局事業評価監視委員会資料 平成10年度第三回、平成28年度第四回）



波介川河口導流路

■碑文

波介川流域は特異な低奥型地形で 仁淀川が氾濫すれば逆流して一帯はしばしば湖水と化したそのため 水害の多いこの地を見限り 海外へ移住した家も少なくない

往古より治水は流域住民の悲願であって 遠く慶長の頃に取り組みが始まり 昭和の中期まで断続して改良工事等が行われたが 水害の克服には至らなかった

ところが 昭和五十年の台風五号により 市内一円の浸水と各所に未曾有の大災害が発生し これを機にいよいよ抜本改修の機運が高まり 市政の最重要課題として位置づけ 市を挙げて国県へ要望活動を続けた結果 昭和六十年に至り国直轄の波介川河口導流事業が採択された

しかし 事業の進捗には困難な課題が多く様々な混乱と苦悩の時を経て 地権者及び新居地区民の深いご理解により ようやく平成十六年工事に着手し そして今般歓びの日を迎えた

ここに至るまでにご尽力を賜わった国県市の関係者をはじめ 事業の推進にご協力いただいた全ての方々に深甚の謝意を表し 悲願達成に尽くされた先人先輩のご苦勞を称え この大事業が市勢の浮揚発展と市民生活の安心安全に 大きく寄与することを確信し ここに記念の碑を建てる

平成二十四年五月

土佐市長 板原啓文

波介川河口導流事業
通水記念碑
平成 24 年 5 月完成

■位置図



高知県日高村

高知13 日下川放水路竣工記念碑（河川、昭和57年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

日下川放水路（仁淀川水系）（昭和57年完成）

昭和35年に旧の日下川放水路（派川日下川）が完成したが、この放水路だけでは排水能力が十分ではなく、昭和50年、51年の台風により日高村は大きな被害を受けた。このため、昭和52年から国の河川激甚災害対策特別緊急事業として新しい日下川放水路工事が行われ、昭和57年2月に完成した。この放水路は、日下川と戸梶川の合流点あたりを始点とし、仁淀川の八田堰下流に至る全長約五キロメートルで、最大通水量一三〇立方メートル／秒の日本最大級の放水路トンネルである。

（参考文献…続・日高村史編纂委員会編「続 日高村史」二〇一三年）



日下川放水路呑口部

■位置図

(裏)

昭和五十年八月に來しゆうした
台風五号は、日下川流域を死の
泥海と化し二十五名の尊い人命
を失う激甚な災害となった。日
下川の内水排除の対策として昭
和五十二年一月日下川放水路工
事に着工し工期五年余と事業費
百三十億円をもつて内径七米総
延長四千九百九十八米の全国最
大の放水路として完成した。こ
こに全村民の不安と恐怖を解消
した本事業の完成に尽力された
人々の功績をたたえ感謝の意を
表すためこの碑を建立する。

昭和五十七年二月吉日

日高村長 三宮忠男

建設省四国地方建設局長 井上章平

高知県知事 中内 力

施工 鹿島建設株式会社
清水建設株式会社
西松建設株式会社



高知県日高村

高知 14 笹木越の開道碑(国道三三号) (道路、明治21年建立)



■碑にまつわる社会資本整備の概要

高知く松山線(四国新道)(明治27年完成)

高知県知事田辺良顕の英断と、高岡郡長大西正義、愛媛県上浮穴郡長桧垣伸らの協力によって、高知く松山線の開削が決定され、明治18年10月起工し、明治27年3月に完成して全線開通した。新道は日下村の中央部を東西に直線に貫いたので、高知往還は短縮された上、人力車や自転車、荷馬車の往来も頻繁になり、日下大橋や加茂の岩目地は交通の要衝となり、笹木越、小村前、妹背口など新道沿いには商家や人家が建ち並ぶようになった。笹木越の開道碑には、新道の路線は多額の工事が費が見込まれるため笹木越を迂回する計画だったが、三人の有志が私財を投じて直線にした経緯などが記されている。

(参考文献…日高村史編集委員会編「日高村史」一九七六年)



笹木越の開道碑附近の国道33号

■ 碑文

(表)

開道碑

明治十九年本縣新道開通ノ舉興ル
ヤ官本道ノ路線ヲ測定シ本坂ノ陰且阻ニシ
テ其費ノ多額ナルヲ憂ヒ迂曲シテ路ヲ坂北ニ
取ラントス村民其不便ヲ嘆ジ乃チ本坂ヲ開通シ
迂ヲ避ケテ捷ニ就キ曲ヲ変ジテ直ト為ント欲シ
之ヲ官ニ請フ官其規畫既ニ定マルヲ以テ許サズ
是ニ於テ力濱田金吉岩見熊作濱田彦七等奮テ
増費ノ半額ヲ釀シ且親ラ其工事ヲ負擔シ大ニ
行通ノ便ヲ圖ラント欲シ再ビ之ヲ官ニ請フ
官モ亦其志ヲ嘉シ遂ニ之ヲ許ス村民ノ
來リ役ヲ助クル者期セズシテ相會シ
日夜奔走經營ス三氏因テ之ヲ督
シ指示宜ニ適シ孜々黽勉復タ

(裏)

餘力ヲ残サズエヲ廿一年二月
一日ニ興シ成ルヲ全年八月廿一日ニ告グ
此間日ヲ閱スルヲ二百三日資ヲ糜スルヲ五千二
百餘金ニシテ其内九百七十餘金ハ則チ有志者ノ義
釀ニ係レリ抑モ本縣新道開通ノ舉タル知事田邊君ノ偉
業ニ係ルト雖モ本道ノ如キハ三氏ノ努力ニ非ズンバ焉
ゾ能ク福利ヲ永遠ニ増進スル今日ノ如キヲ得ン哉嗚
呼其功モ亦大矣落成ノ式ヲ舉ルニ當リ歌テ曰
旅馬繹々貨車如織田君之圖三氏之力
明治二十一年八月吉日
高知縣收税属 中村眞夾男撰
全 武政大道書

(表下)

本碑明治二十一年製作
爾來五十年土中ニ埋没
本回発掘建立ス
昭和十四年五月
岩村勲之助

■ 位置図



高知県佐川町

高知15 佐川駅開設五十周年記念碑（鉄道、昭和49年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

高知線須崎～日下間（土讃線）（大正13年開通）

高知県内務部長を会長とする四国鉄道期成同盟会が官民一致して敷設運動を展開した結果、大正5年3月に須崎～山田間が高知線として第一期線に追加された。ここで高岡經由か佐川經由かの南北路線争奪運動が起こったが、北線（佐川經由）に決定された。大正7年4月に開始された鉄道敷設工事には、佐川町民も労力を提供し、大正13年3月に須崎～日下間三三キロメートルが開通した。昭和49年10月には、須崎～日下間が開通してから五十周年を記念して、佐川駅で記念式が挙行された。記念碑の下には、五〇年後に開封するタイムカプセルが埋設された。

（参考文献…佐川町史編纂委員会編「佐川町史 下巻」一九八一年）



佐川駅

■ 碑文

佐川駅開設五十周年記念碑

(表)

奉賀帖
佐川駅五十年小史
記念写真
一九七四年建立
二〇二四年開之

(裏)

実行委員
(9人の
氏名省略)

寄附者芳名
(35人の
氏名省略)

■ 位置図



高知県仁淀川町

高知 16 大渡ダム建設記念碑（河川、昭和61年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

大渡ダム（仁淀川水系）（昭和61年度完了）

大渡ダムは洪水調節、かんがい、上水道供給、発電を目的とする多目的ダムである。昭和41年度から実施計画調査を開始し、昭和43年度に建設事業に着手した。ダムの建設工事は昭和43年度に工事用道路の建設に着手、昭和48年5月にダム本体工事を開始し、昭和55年8月に本体コンクリート打設を完了した。試験湛水の中昭和57年4月に地すべりが発生したが、同年9月頃から本格的な対策工事を開始し、その後ダム周辺環境整備等を実施して、昭和61年度にダム事業を完了した。

（参考文献…建設省四国地方建設局監修「四国地方建設局三十年史」一九八八年）



大渡ダム

大渡ダム
建設記念碑

(表)

昭和六十一年十一月吉日
四国地方建設局長
鈴木道雄書

(裏)

■
碑文



■
位置図

高知県仁淀川町

高知17 大渡ダムの殉職者慰霊碑（河川）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

大渡ダム建設事業（仁淀川水系）（昭和61年竣工）

大渡ダムは、洪水調節、不特定利水の確保、水道用水の供給、発電を目的とする多目的ダムである。昭和41年4月から実施計画調査に入り、同年6月の仁淀川水系工事実施基本計画の策定で事実上大渡ダムの建設が決定された。ダムの建設工事は昭和43年度から始まり、昭和46年10月に本体工事に着手、昭和55年8月に堤体コンクリートの打設が完了した。大渡ダムの建設過程では、補償問題、ダムの安全問題、貯水池地すべり問題などが起こったが、それぞれに対応がなされて、昭和61年11月に竣工式が行われ、昭和62年3月に建設事業が完了した。

（参考文献…大渡ダム工事誌編纂委員会編「大渡ダム工事誌」一九八七年）



大渡ダム

■ 碑文

湖に安らかな 眠りを祈る	(表)
(殉職者 8 人の氏名 及び殉職日省略)	(裏)

■ 位置図





■碑にまつわる社会資本整備の概要

仁淀村と大渡ダム（仁淀川水系）（昭和61年竣工）

昭和42年に大渡ダム調査事務所が開設されて以来、立ち入り調査、水没関係者の移転対策、ダム建設工事、試験湛水、地すべり防災工事などを経て、昭和61年11月に大渡ダムは竣工した。大渡ダム建設は、仁淀村としては一時的就労の場ができることのほかは、特別なメリットは期待できなかったが、下流地域の防災、都市用水、発電用水の確保などの目的を持っているので、大局的視野に立って全面的に協力してきた。大渡ダムが今後いつまでもその使命を発揮し、流域住民の安全と福祉、産業・文化の発展向上に大きな効果をあげるよう祈念してやまない。

（参考文献…仁淀村史編纂委員会編「仁淀村史 追補」二〇〇五年）



大渡ダム

(表)

大渡ダム
記念碑

大渡ダムの概要

仁淀川は四国の雄峰石鎚山にその源を発し愛媛高知両県をへて太平洋に流れる四国有数の河川で流域の大部分は山地であるが下流域は高知県内の主要な農耕地帯をなしている。仁淀川は年間を通じて流況が不安定で豊渇の差が極めて大きく流域は台風の常襲地帯に位置すると同時に我が国有数の温暖多雨地帯で度重なる大洪水を起こし下流域に多大な被害をもたらしてきた。このような状況から仁淀川下流域の安定した発展を期するため大渡ダム建設が計画され昭和三十六年度から昭和四十年年度の五箇年にわたり予備調査を実施。昭和四十一年度より二箇年間で実施計画調査を行い。昭和四十三年度から建設工事が開始され。昭和五十七年度末完成の予定で工事が進められた。しかし完成直前の試験湛水中に地滑りが広範囲に発生し防災対策に万全を期すべく最新の工法と技術等により防災工事が行われ昭和六十一年十一月二十七日に竣工式が行われた。大渡ダムから受ける利益の全くない本村はダム受け入れに英断を要したが、多くの目的を持つダムの効用から大局的見地に立ちダム建設を認め。村はこの世紀の大事業に対し村議会にダム対策特別委員会を設け。水没関係者の生活再建と水没の犠牲を地域開発により償うことを基本理念として取組み。完成後も水源地域としての環境保全に努めながら地域の憩いの場としての周辺整備を図っている。ダム建設により仁淀村で三十六戸の人々が新天地に移住した。今湖底となった故郷の自然と思い出を川底から取り上げた赤石に秘め大渡ダム建設の犠牲になられた人々ならびにダム建設関係者の業績を永久に顕彰するためにこの碑を建立する。

平成元年八月吉日

仁淀村々長 西森豊作

(裏)

大渡ダム建設による家屋移転世帯主名

35人
(氏名省略)

大渡ダム建設に貢献のあった人々

仁淀村長 3人
(氏名省略)
仁淀村議会議員 64人
(氏名省略)

■位置図





■碑にまつわる社会資本整備の概要

高研地区の直轄工事（国道一九七号）（昭和58年完成）

国道一九七号高研地区の直轄工事は、大洲工事事務所と中村工事事務所が担当し、昭和五十一年三月に高研山トンネル（一五六二メートル）工事に着工、昭和56年8月に開通した。昭和57年8月に中屋敷第二橋から出口第一橋まで、同11月には仲間トンネル（五二七メートル）を供用開始、同12月には川口トンネル（四四五メートル）が完成した。昭和58年1月には飯母橋右岸から仲間トンネル東口まで、日向第二大橋より中屋敷第一橋まで、出口第一橋より日出橋までが完成し、直轄工事一六、九キロメートル全線が完了、供用開始となった。国道一九七号高研地区の全線開通を祝って、開通記念碑が建立されている。

（参考文献…梼原町史編纂委員会編「梼原町史2」一九八八年）



高研山トンネル（梼原側）

一般国道 197 号
 開通記念碑
 建設省四国地方建設局長
 中西秩書

(表)

土予県境にまたがる高研山は交通の難所で、道路開設は地域住民多年の悲願であったところ昭和 3 年海拔 630 米の地点に 258 米の隧道が完成し、これによって梶原日吉間 26.2 ㌥の国道となったが、冬期の積雪凍結による交通途絶はしばしばであった。

その後、交通量の増大により昭和 44 年 12 月一般国道 197 号として昇格、昭和 49 年 4 月国の直轄事業として道路改築に着手、以来 10 年の歳月と 216 億余の巨額を投じ、こゝに 16.9 ㌥の国道が完成されたもので、今後の地域に与える恩恵ははかり知れないものがある。

(裏)

昭和 58 年 11 月 28 日

梶原町 日吉村 建之



高知県四万十町

高知20 鉄道開通記念碑（窪川駅）（鉄道、昭和26年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

土讃線須崎～窪川間（昭和26年開通）

須崎～窪川間三二キロメートルは昭和9年3月に窪川線として鉄道敷設法に追加編入され、昭和10年度から着工された。昭和14年11月に須崎～土佐久礼間が部分開通し、昭和17年度には全線の土木工事を終了しながらも戦争のために中止された。終戦後、新線工事が再開され、昭和22年10月に土佐久礼～影野間が開通した。その後、新線工事はCTS（GHQ民間運輸局）の指示により中止されたが、新線建設解除に伴い、影野～窪川間の工事再開が認められ、昭和26年11月に開通した。窪川町では盛大な開通祝賀式が催され、駅前広場に鉄道開通記念碑が建立された。

（参考文献…四国鉄道75年史編さん委員会編「四国鉄道75年史」一九六五年）



窪川駅

■ 碑文

(裏)	(表)
外国人 9 人 (氏名省略) 日本人 3 人 (氏名省略) 当地区鉄道開通促進に貢献され たる方々の名を刻んで之を記す	昭和二十六年十一月 鉄道開通記念 高知縣知事桃井直美書

■ 位置図



高知県四万十町

高知 21 予土線開通記念碑（土佐大正駅）（鉄道、昭和49年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

窪江線江川崎～川奥信号場間（予土線）（昭和49年開通）

江川崎～川奥信号場間三九、一キロメートル（建設上は窪江線）は四国西部循環線として昭和34年7月に着工されたが、昭和36年に電源開発による大正ダム建設計画のため窪江線ルートの水没問題が持ち上がり、二年にわたり工事が中断した。昭和38年度に工事が再開されたが、国鉄財政の悪化やローカル新線の建設中止勧告により工事の進展が危ぶまれることもあった。これらの苦難を乗り越えて、建設された路線は昭和49年3月に予土線として開業した。新しく開通した区間には、江川崎から数えて半家、十川、土佐昭和、土佐大正、打井川、家地川の六駅が設置された。（参考文献…四鉄史編集委員会編「四鉄史」一九八九年）



土佐大正駅

■ 碑文

昭和四十九年三月一日
予土線全通記念
高知県知事 溝渕増巳書

■ 位置図



高知県四万十市

高知 22 渡川治水起工記念碑（河川、昭和10年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

戦前の渡川改修事業（昭和4年度着工）

戦前の渡川改修事業は一四ヶ年継続事業として昭和4年度に着工され、昭和5年度に具同人力掘削工事、昭和6年度に後川右岸の中村築堤工事、昭和7年度に具同築堤工事に着手し、昭和9年度には岩崎堤防の拡築工事を完了するなどしたが、昭和10年8月に計画高水流量を大幅に上回る洪水に見舞われ、計画の一部変更を余儀なくされた。その後、昭和12年度に坂本背割堤防、昭和13年度に甲ヶ峯開削工事に着手するなどしたが、戦時体制下のため昭和19年度には大部分の工事が休止状態となった。

（参考文献…中村工事事務所編「渡川改修四十年史」一九七〇年）



渡川治水起工式記念碑は旧岩崎堤防に立つ

■ 碑文

(表)

渡川治水起工記念碑

内務大臣男爵 山本達雄書

(裏)

渡川ノ氾濫ハ古来世ニ喧傳スル所ニシテ下流沿岸地方二千五百町歩ノ田畝ハ年々歳々其ノ害ヲ被リ僅ニ天候ノ恵ヲ得テ十年一回ノ收穫ヲ恃ムニ過キス一朝大出水ニ際會セム力堤防ノ決潰家財ノ流失人畜ノ死傷等其ノ慘禍見ルニ忍ヒサルモノアリ是ヲ以テ關係地方民ハ常ニ之力根本の治水ノ方策ヲ要望スルコト極メテ切ナリ然ニ明治四十三年桂内閣ノ時始テ六十五河川改修計畫ノ内ニ編入セラレ大正十一年ヨリ全十二年ニ亘リ第一回調査ヲ遂ニ尋テ大正十五年五月時ノ内務省土木局長ノ實地踏査ヲ仰キ翌月關係地區ニ於テハ渡川治水期成同盟會ヲ組織シ亦來官民一致ノ盡力ニ依リ昭和四年四月愈内務省直轄工事トシテ着手セラルルノ運ニ至レリ此ノ間各關係者並有志ノ熱誠ナル奔走努力ノ功興ツテ力アリシハ勿論官ニ在リテハ望月内務大臣秋田内務政務次官次田土木局長野ニ在リテハ代議士坂本志魯雄氏等ノ特別ナル援助ハ共ニ永久ニ記念スヘキ所ナリ茲ニ起工式ヲ舉行スルニ當リ經過ノ梗概ヲ録シテ之ヲ不朽ニ傳フ

昭和十年五月 高知縣知事正五位勲四等 泊武治撰 揚田猪吉書

(側)

渡川治水期成同盟會建之

(側)

高知石工 弘瀬楠吾刻

■ 位置図



高知県四万十市

高知23 新中筋川通水記念碑（河川、昭和40年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

中筋川付替工事（渡川水系）（昭和39年完成）

中筋川付替工事は、昭和12年度に坂本背割堤防、昭和13年度に甲ヶ峯開削工事に着手したものの、戦時体制下のため昭和19年度には大部分の工事が休止状態となった。戦後、昭和29年度末に坂本背割堤防を甲ヶ峯上流まで延長し、昭和31年度に山路背割堤防に着手、昭和32年度から新中筋川の掘削に着手した。しかし、新中筋川予定地の大部分は戦前に買収済の土地で、その後耕作が続けられていたことなどから交渉が難航したものの、昭和34年2月の覚書交換により解決を得て、昭和39年2月に中筋川沿川住民が久しく待望していた新中筋川の通水が実現した。

（参考文献…中村工事事務所編「渡川改修四十年史」一九七〇年）



坂本背割堤（左は中筋川、右は四万十川）

■碑文

(表)

新中筋川通水記念碑

高知県知事 溝淵増巳書

(裏)

流域住民多年の悲願である渡川改修工事中最大の難工事といわれた甲ヶ峯開削新中筋川の通水は昭和三十九年二月四日遂に完成した願れば昭和四年渡川が時の内務省直轄改修工事として工を起してより三十有余年三十一億円の巨費を投入し初代後藤登所長より鋤柄小一、三好宗逸、飯敏夫、吉田友文、東村一郎、池上雅夫、増岡康治、多田武の各所長を経て縄田照美所長の時代に漸く竣工をみるに至ったこの間工事の掌に当った渡川工事々務所長以下職員の努力は勿論地元中村市始め地区民の労苦は筆舌に盡し難いものがあつた即ち坂本背割堤築造により合流点を千八百米下流の甲ヶ峯地点に求めた第一期工事完成の喜も束の間昭和十年第一次室戸台風による大災害の結果想を新たにして甲ヶ峯を開削し新水路を造り合流点を更に三千米下流に求め昭和十一年より用地買収にかかり昭和十三年甲ヶ峯開削工事に着手したが相次ぐ戦争のため財政資料難に陥り工事は中断の止むなきに至った戦後二十八年渡川の総体計画をたて昭和三十一年再び工事にかかったが山路地区の補償問題等数々の難問に遭遇し工事は遅々として進まず余曲折を経て昭和三十八年山路地区市営土地改良事業の同時施工により地元の協力を得改修予算も二億一千万円と大巾に増額されて工事も急速に進み遂に待望久しかった新中筋川通水の運びとなった我々は三十有余年に及ぶ水との各年の歴史を振り返りこの難工事に当られた建設省並びに工事の促進のため血の滲む努力を盡された先輩各位に感謝のまことを捧げ併せて工事犠牲者の冥福を祈るものである

一九六五年五月五日建立

渡川改修期成同盟会長

中村市長 長谷川賀彦

※碑文では「昭和十年第一次室戸台風」としているが、昭和十年の水害は室戸台風によるものではない。

■位置図



高知県四万十市

高知 24 四万十河橋之碑（道路、昭和2年建立）



■碑にまつわる社会資本整備の概要

四万十川橋（旧国道五六号）（大正15年完成）

地元の人々が念願していた四万十川の架橋は、大正13年3月に起工式が行われ、大正15年6月に橋長四三七、六メートル強、有効幅員五、五メートル強の曲弦結構様式の四万十川橋が完成した。昭和21年の南海大地震により鉄橋中央部の鉄骨六桁が落下したが、復旧工事により四万十川橋は昭和23年に元通りになった。さらに昭和42年11月に歩道橋架設工事が始まり、昭和43年3月に完成して、従来の橋は自動車専用道となった。四万十川橋は赤色に塗装されているため、市民の間では通称赤鉄橋と愛称されている。

（参考文献…高知県教育委員会編「高知県の近代化遺産」二〇〇四年）



四万十川橋（赤鉄橋）

■ 碑文

(表)

工 天 奪

四萬十河橋之碑
 此橋大正十三年四月十日起工同十五年六月三十日竣成セリ超
 ヘテ七月四日渡橋式ヲ行フ縣知事之二莅ミ儀禮莊嚴盛大ヲ極
 ム遠近來リ觀ルモノ雲集シ歡呼抃舞旬日ニ及フ
 抑此地ハ縣道宿毛線ノ要津ナルモ滔々タル大河ニ沿ヒ只僅力
 ニ扁舟ヲ以テ往返セリ會々暴風洪水ニ逢遭セシカ或ハ渡船顛
 覆ノ厄難ニ遇フコトアリ舟筏通セス東西ノ交通全ク杜絶ス然
 ルニ今ヤ茲ニ文明ノ惠澤ニ藉リ當時南海第一ノ長橋梁トシテ
 虹ノ如ク交通ノ安全ト運輸ノ利便トヲ併セ得曩日ノ災禍不便
 ハ只單ニ一場ノ奮話柄トナルニ至レリ加之土佐十景ノ勝地四
 萬十河畔ハコノ橋梁ニヨリ更ニ端嚴壯嚴ノ趣ヲ添ヘ我力中村
 町西門ノ觀望ヲ雄偉ナラシメタリ若夫レ此架橋ハ本郡先覺諸
 賢ノ執功ナル努力ト此地一帯ノ人士ノ和衷協力ニ負フ所多キ
 モ時ノ長官阿部氏及ヒ後任小幡藤岡兩明府ノ同情幹旋ニ依ル
 所モ亦鈔カラサルナリ敢テ記シテ後人ニ傳フ矣
 昭和二年三月一日

(裏)

工事概況

- 一、鐵橋樣式 曲弦結構式
- 一、橋長 四三七、六メートル強
- 一、有効幅員 五、五メートル強
- 一、附帶道長 一一七三、五メートル
- 一、工費總計 四三五四六三圓
- 一、中村町敷地寄附 一八五一平方メートル
五六〇坪
- 工事主務 高知縣土木技手 鈴木進一郎

中村町長など23人
 (氏名省略)

題字 中村町長 嶋崎正助
 撰文 中村町 佐野友次郎
 書 高知市 田内道太郎

■ 位置図



参考文献

〈徳島県〉

阿南市史編さん委員会編「阿南市史第四卷」(阿南市、二〇〇七年)
建設省四国地方建設局徳島工事事務所編「那賀川改修史」(建設省四国地方建設局徳島工事事務所、一九八一年)
那賀川町史編さん委員会編「那賀川町史 上巻」(那賀川町、二〇〇二年)
徳島県教育委員会編「徳島県の近代化遺産」(徳島県教育委員会、二〇〇六年)
小松島市史編纂委員会編「小松島市史 中巻」(小松島市、一九八一年)
建設省四国地方建設局徳島工事事務所編「吉野川百年史」(建設省四国地方建設局徳島工事事務所、一九九三年)
ふるさと徳島編集委員会編「ふるさと徳島」(徳島市市民生活課、一九九八年)
建設省四国地方建設局徳島工事事務所編「徳島工事五十年史」(建設省四国地方建設局徳島工事事務所、一九九八年)
徳島県土木部編「名田橋工事報告」(徳島県土木部、一九六三年)
川島町史編集委員会編「川島町史 上巻、下巻」(川島町、一九七九年、一九八二年)
国土交通省四国地方整備局事業評価監視委員会資料(平成26年度第三回、二〇一四年)
建設省四国地方建設局監修「四国地方建設局三十年史」(四国建設弘済会、一九八八年)

林町誌編集委員会編「林町誌」(林町、一九五五年)

池田町史編纂委員会編「池田町史 上巻」(池田町、一九八三年)
貞光町三十年のあゆみ編纂委員会編「貞光町三十年のあゆみ」(貞光町、一九八八年)

大岩義雄編集「猪ノ鼻道路の今昔」(三好市建設部工務課、二〇二一年)

吉野川北岸土地改良区30年史編纂委員会編「吉野川北岸土地改良区30年史」(吉野川北岸土地改良区、二〇〇二年)

四国の建設のあゆみ編纂委員会編「四国の建設のあゆみ」(四国建設弘済会、一九九〇年)

建設省四国地方建設局吉野川砂防工事事務所編「善徳地すべり」(建設省四国地方建設局吉野川砂防工事事務所、一九九六年)

〈香川県〉

引田町史編さん委員会編「引田町史 近・現代」(引田町、一九九五年)

香川県教育会編「さぬき・人・ここにあり」(香川県教育会、二〇一三年)

香川県高松土木事務所新川改修事業所編「新川河川激特事業工事誌(昭和62年10月台風)」(香川県高松土木事務所、一九九四年)
四国の建設のあゆみ編纂委員会編「四国の建設のあゆみ」(四国建設弘済会、一九九〇年)

土木学会中国四国支部編「土木へのいざない」(土木学会中国四国

支部、一九九一年)

香川県土木史編纂委員会編「香川県土木史 第Ⅱ巻」(香川県建設技術協会、二〇〇四年)

新高松空港史編さん委員会編「新高松空港史」(香川県、一九九二年)

香川町誌編集委員会編「香川町誌」(香川町、一九九三年)

本州四国連絡橋史編さん委員会編「本州四国連絡橋公団三十年史」

(本州四国連絡橋公団、二〇〇〇年)

瀬戸大橋架橋史編さん委員会編「瀬戸大橋架橋史 通史・資料編」

(瀬戸大橋架橋推進香川県協議会、一九八九年)

地域振興整備公団新宇多津都市開発事務所編「未来へ翔くターミナルシティ 新宇多津都市開発整備事業記録写真集」(地域振興整備公団新宇多津都市開発事務所、一九九二年)

多度津町誌編集委員会編「多度津町誌」(多度津町、一九九〇年)

香川県編「香川県史 第五巻通史編近代Ⅰ」(香川県、一九八七年)

ワーク・アイ編「満濃池史 満濃池土地改良区五十周年記念誌」(満濃池土地改良区、二〇〇一年)

香川県農林部編「農林業の石碑」(香川県農業改良普及会、一九八一年)

讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」(香川県農林水産部土地改良課、二〇〇〇年)

仲南町誌編集委員会編「仲南町誌」(仲南町、一九八二年)

水資源開発公団吉野川開発局編「輝く21世紀の暮らしと水」(水資源開発公団吉野川開発局、発行年不明)

新修財田町誌編纂委員会編「新修 財田町誌」(財田町、一九九二年)

年)

香川用水史編集委員会編「香川用水史」(吉野川総合開発香川用水事業建設期成会、一九七九年)

水資源開発公団香川用水建設所編「香川用水工事誌」(水資源開発公団香川用水建設所、一九七五年)

新修豊浜町誌編さん委員会編「新修 豊浜町誌」(豊浜町、一九九五年)

四国の建設のあゆみ編纂委員会編「四国の建設のあゆみ」(四国建設弘済会、一九九〇年)

新宮村誌編纂委員会編「新宮村誌 歴史行政編」(新宮村、一九九八年)

愛媛県史編さん委員会編「愛媛県史 近代下」(愛媛県、一九八八年)

愛媛県史編さん委員会編「愛媛県史 県政」(愛媛県、一九八八年)

愛媛県史編さん委員会編「愛媛県史 地誌Ⅱ(東予東部)」(愛媛県、一九八八年)

伊予三島市史編纂委員会編「伊予三島市史 中巻」(伊予三島市、一九八六年)

壬生川郷土史研究委員会編「壬生川郷土史」(壬生川郷土史研究委員会、二〇〇九年)

農林水産省中国四国農政局道前道後平野農業水利事業所編「道前

道後平野農業水利事業概要」(農林水産省中国四国農政局道前道後平野農業水利事業所、一九九一年)

本州四国連絡橋公団編「しまなみ海道 西瀬戸自動車道建設誌」(本州四国連絡橋公団、一九九九年)

弓削町編「弓削町誌 補遺」(弓削町、二〇〇四年)

生名村誌編纂委員会編「生名村誌」(生名村、二〇〇四年)

愛媛県史編さん委員会編「愛媛県史 地誌Ⅱ(中予)」(愛媛県、一九八四年)

久万町誌編纂委員会編「久万町誌 増補改訂版」(久万町、一九八九年)

梅木正衛「檜垣伸翁の事蹟」(「伊豫史談 第五九号」伊豫史談会、一九二九年)

道前道後用水史編集委員会編「石鎚の水ここに展く 道前道後用水史」(愛媛県、一九七八年)

東温市史編纂委員会編「重信町誌 続編 川内町新誌」(東温市、二〇一二年)

創立百二十五周年史編纂委員会編「道は、みらいへ 伊予鉄道創立百二十五周年史」(伊予鉄道、二〇一二年)

伊豫郡大谷池土地改良区編「大谷池 築造五拾周年記念誌」(伊豫郡大谷池土地改良区、一九九四年)

伊豫市史編さん会編「伊豫市誌」(伊豫市、一九八六年)

伊豫郡大谷池土地改良区編「県下最大のため池 大谷池」(伊豫郡大谷池土地改良区、二〇一一年)

長浜町誌編纂会編「長浜町誌 続編」(長浜町、二〇〇四年)

続伊方町誌編纂委員会編「続 伊方町誌」(伊方町、二〇〇五年)

八幡浜市誌編纂会編「合併十周年記念版 八幡浜市史 第一巻 歴史編」(八幡浜市、二〇一八年)

建設省四国地方建設局大洲工事事務所編「大洲工事五十年史」(建設省四国地方建設局大洲工事事務所、一九九四年)

宇和島市誌編纂委員会編「宇和島市誌 下巻」(宇和島市、二〇〇五年)

宇和島市誌編纂委員会編「宇和島市誌 上巻」(宇和島市、二〇〇五年)

内海村史編纂委員会編「新訂 内海村史」(内海村、二〇〇四年)

〈高知県〉

高知県土木史編纂委員会編「高知縣土木史」(高知県建設業協会、一九九八年)

東洋町史編纂委員会編「東洋町史」(東洋町、二〇二〇年)

安岡大六著「馬路村史」(馬路村教育委員会、一九六六年)

土木学会中国四国支部編「土木へのいざない」(土木学会中国四国支部、一九九一年)

徳島県・高知県編「四足峠トンネル II 級国道一九五号線四足峠トンネル工事概要」(徳島県・高知県、一九六四年)

高知工事事務所編「高知工事事務所四十年史」(建設弘済会、一九八七年)

大豊町史編纂委員会編「大豊町史 近代現代編」(大豊町教育委員会、一九八七年)

八十八年史編纂委員会編「土佐電鉄八十八年史」(土佐電気鉄道、一九九一年)

建設省四国地方建設局徳島工事事務所編「吉野川百年史」(建設省四国地方建設局徳島工事事務所、一九九三年)

水資源開発公団池田総合管理所編「早明浦ダム工事誌」(水資源開発公団池田総合管理所、一九七九年)

大川村史追録編さん委員会編「大川村史 追録」(大川村、一九八四年)

土佐市史編集委員会編「土佐市史」(土佐市、一九七八年)

国土交通省四国地方整備局事業評価監視委員会資料(平成一〇年度第三回、平成二八年度第四回)(一九九八年、二〇一七年)

続・日高村史編纂委員会編「続 日高村史」(日高村教育委員会、二〇一三年)

日高村史編纂委員会編「日高村史」(日高村教育委員会、一九七六年)

四鉄史編集委員会編「四鉄史」(四国旅客鉄道、一九八九年)

佐川町史編纂委員会編「佐川町史 下巻」(佐川町、一九八一年)

建設省四国地方建設局監修「四国地方建設局三十年史」(四国建設弘済会、一九八八年)

大渡ダム工事誌編纂委員会編「大渡ダム工事誌」(国土交通省四国地方整備局大渡ダム工事事務所、一九八七年)

仁淀村史編纂委員会編「仁淀村史 追補」(仁淀村、二〇〇五年)

梶原町史編纂委員会編「梶原町史2」(梶原町、一九八八年)

四国鉄道75年史編さん委員会編「四国鉄道75年史」(日本国有鉄道四国支店、一九六五年)

中村工事事務所編「渡川改修四十年史」(四国建設弘済会、一九七〇年)

高知県教育委員会編「高知県の近代化遺産」(高知県教育委員会、二〇〇四年)

四国社会資本アーカイブス
<https://www.shikoku-shakaishihon.com/>

四国社会資本アーカイブスは、過去に四国各地で行われてきた社会資本整備に関する情報を収集、整理し、インターネットを通じて広く皆さんに提供するものです。

運営は一般社団法人四国クリエイト協会が行い、令和2年7月から本格運用を開始しています。

四国社会資本アーカイブスは河川、道路、鉄道、港湾・空港、電力、市街地開発、ため池、用水、公園、治山施設、流域下水道の分野を対象とし、主要事業として合計で一七四四件のデータを登録しています。(令和4年4月現在)

おわりに

本書をつくるきっかけは、ある碑の前に立ち碑文を読んでいた時に、後世の人々にどうしても伝えたいという先人の思いが感じられたことにあります。筆者は四国社会資本アーカイブスの作成に携わってききましたので、四国の社会資本整備に関する文献資料は概ね一通り目を通していましたが、その碑文からは文献資料にはない熱意が感じられました。

四国社会資本アーカイブスには社会資本の碑の写真や地図情報を掲載していますが、碑文の内容は載せていません。四国社会資本アーカイブスの作成に関わった者として、先人が後世の人々のために伝えたいと願った碑が、一般にあまり知られていない、あるいは存在は知られていても碑文が読まれていないことは申し訳ないと思うようになり、碑文の内容を文字に起こすことにしました。

作業は、碑に刻まれている文字をそのまま読み取ることから始めました。碑が風化していたり、汚れたりしていて、文字がうまく読み取れないものや、目線から遠い高所や地面すれの低所に文字が刻まれている碑などもあり、読み取りには手間がかかりました。天候の良い日に再度訪れてようやく文字が判読できることもありましたが、読み取った古い文字がパソコンで表示できないこともありますが、刻まれた文字をそのまま表記することを原則としました。それは、先人の思いを後世の人々に伝えるためにはそれが一番良いと考えたからです。

碑に関する情報が事業史や市町村史、郷土史、史談会資料などに

掲載されている場合には、碑文をチェックするために参考にしました。ただし、これらの資料の中には読みやすくするために表現を変えたり、文字を現代語に改めているものもありますので、注意しました。篆額の文字がはつきりせず、地元の図書館の方に教えていただいたこともあります。また、碑の横に、地元の自治体や有志の人々が設置している標識や案内板などは、碑の解釈に役立ちました。できるだけのことを行って本書をつくったつもりですが、浅学のため碑文の読み取りや漢文の解釈などに間違いがあるかも知れません。

本書に示したとおり、事業の完成碑や記念碑には事業実施の背景や経緯、事業の内容、関係者の努力と地元住民の協力及びそれに対する謝意、事業が地域の発展につながることに期待などが記され、顕彰碑には事業に功績のあった功労者の経歴、働きぶり、碑建立に至る経緯などが刻まれています。また、これらの事業を実施するにあたって住み慣れた土地から移転せざるを得なかった人がいたことを知らせる碑や、工事中に殉職された人を慰霊するための碑などがあることも分かります。

私たちはこれらの碑から社会資本整備の概要や事業に伴う移転、犠牲者の存在などを知り、先人が苦心し移転や犠牲を伴いながらも成し遂げた社会資本を、地域のために長く活かしていく努力をしなければならぬと考えます。しかし、先人はそのことを願うだけでなく、文字に表わしていない大切なことも伝えているように思います。

それは、自分のためではなく公共のために力を尽くすこと、困難に遭つても至誠を貫き道を切り拓くこと、より良い社会を築くためにみんなで助け合うこと、先人の恩に報い感謝の気持ちを忘れないこと、有名無名を問わず人の行いを正しく観ることなど、人の生き方や物の考え方に関することです。人によつて感じることは異なると思います。

碑文の中に「官民一体ノ努力ト地元住民ノ協力ニヨリ此ノ大事業ヲ成シ遂ゲタコトニ思フ至ストキ満々ト湛ラレタ此ノ水ニ尊キモノヲ学ブコトガ出来ル」という一文があります。本書を読んで、何か得られることがあれば幸いです。

令和四年四月

藤山 究・山本 基

著者紹介

藤山 究 一般社団法人 四国クリエイト協会
副理事長兼専務理事
山本 基 株式会社 社会資本研究所
代表取締役

四国の社会資本の碑

令和四年五月 発行

著 者 藤山 究・山本 基

発 行 一般社団法人 四国クリエイト協会

〒七六〇―〇〇六六

香川県高松市福岡町三―一―二二

電話〇八七―八二二―一六七六
